



Infor LN パフォーマンスに関する ガイドライン

重要事項

本書に含まれる資料（あらゆる補足情報を含む）は、Inforの機密及び専有情報に相当し、かつそれを含むものです。

添付を使用するにあたり、使用者は、当該資料（当該資料のあらゆる修正、翻訳または翻案を含む）、すべての著作権、企業秘密、及びそれに関係するすべてのその他権利、権原及び利益はInforが独占所有するものであり、使用者には、別の契約（この別契約の契約条項によって、貴社の当該資料及びすべての関連する補足情報の使用が規定されます）に基づいてInforより貴社に使用許諾されたソフトウェアに関連し、またその使用を促進することのみを目的（以下、「目的」という）として、当該資料を使用するための非独占的権利以外、使用者の閲覧に基づく権利、権原及び利益（すべての修正、翻訳または翻案を含む）は付与されるものではないことを認識し、それに同意するものとします。

更に、同封の資料を使用するにあたり、使用者は、使用者が当該資料を極秘扱いで保管しなければならないこと、そして使用者の当該資料の使用は上述の「目的」に限定されることを認識し、それに同意するものとします。Inforは、本書に含まれる内容に誤りや洩れがないよう細心の注意を払っていますが、本書に含まれる内容が完全なもので、誤植やその他の誤りがなく、使用者の個別の要望を満たすことは保証しません。したがって、Inforは、本書（あらゆる補足情報を含む）の誤りまたは不備により、またはそれに関連して生じたあらゆる個人または団体に対する、あらゆる間接的または直接的損失または損害について、その誤りまたは不備が過失、事故またはその他の理由によるものであるかどうかにかかわらず、一切の責任を負わず、かつそれを放棄するものとします。

使用者の本資料の使用は、米国輸出管理法及びその他に限定しない輸出入の適用法に準拠するものとし、使用者は、本資料及びあらゆる関係資料または補足情報を当該法律に違反して、直接的または間接的に輸出または再輸出してはならず、またこれらの資料を当該法律により禁止されるいかなる目的にも使用してはなりません。

商標確認

ここに示す文字標章及び図形標章は、Infor及び/またはその関連会社ならびに子会社の商標または登録商標、あるいはその両方です。無断複製・転載を禁ず。参照されるすべての他の社名、製品名、商標名またはサービス名は各所有者の登録商標または商標です。

発行情報

文書コード	pbcperfhsg (U9502)
リリース	10.5.1 (10.5.1)
発行日	2017 年 12 月 19 日

目次

文書情報

第1章 パフォーマンスに関する一般的なガイドライン.....	13
パフォーマンスとデータベースの増大に関する概要.....	13
使用しないコンセプトの無効化.....	13
データの消去.....	14
レコードの削除.....	14
アーカイブ.....	14
履歴.....	14
まとめ.....	15
詳細レベル.....	15
パフォーマンス関連の設定およびツール.....	15
ジョブ.....	15
追加ステップ.....	16
選択範囲.....	16
パフォーマンスチェックプログラム.....	16
第2章 共通情報.....	17
先頭空番号.....	17
倉庫管理のシリアルとロット.....	18
導入済ソフトウェア構成要素.....	18
プロジェクトペギング.....	19
COM および IBD パラメータ.....	19
原価構成要素設定.....	20
ゼロ金額のログ.....	21
オブジェクトデータ管理.....	21
テーブルブースタ.....	22
第3章 オーダ管理.....	23
会計取引.....	23
財務会計と経済在庫処理.....	23
処理タイムフェンス.....	23
価格設定.....	24

マトリックス順序の数.....	24
値引レベル数.....	24
価格設定品目の結合.....	25
デフォルト価格帳を更新.....	25
価格、レート、値引管理.....	26
派生元品目の使用.....	27
価格および値引の再計算.....	27
販促管理.....	28
高優先順位の発注先価格帳.....	28
調達.....	29
見積依頼チェック.....	29
購買要求チェック.....	29
追加原価を再計算.....	30
統合.....	30
承認購買元取引先の検索パス.....	31
販売.....	31
販売見積のための在庫チェック.....	31
タイムフェーズ在庫移動の最小成功率.....	32
販売見積チェック.....	32
拡張在庫チェック.....	32
販売契約のための計画在庫処理.....	33
販売スケジュールに対する計画倉庫オーダー.....	33
販売オーダーチェック.....	34
追加原価を再計算.....	34
販売オーダー優先方法.....	35
使用しないコンセプト、履歴、アーカイブ、および削除.....	35
使用しないコンセプトを無効にする.....	35
履歴データの削除.....	36
履歴データのログ.....	37
オーダーデータの削除.....	39
(履歴) データの削除およびアーカイブ.....	40
第4章 プロジェクト.....	41
原価管理レベル.....	41
予算原価分析の生成.....	41

一般管理データ.....	41
計画 PRP オーダの生成.....	42
コミットメント記録.....	42
プロジェクトオーダデータの削除およびアーカイブ.....	43
ジョブモード.....	43
プロジェクト履歴.....	43
プロジェクト終了.....	44
労務単価検索パス.....	44
実際原価の出力.....	44
第5章 企業計画.....	45
並列処理の概念.....	45
並列処理の概念の適用.....	45
bshell 間の品目の分配.....	45
計画用に並列処理を設定するには.....	46
テーブルブースタ.....	47
時間間隔の表示.....	47
サーバ別ワークロード.....	48
作業を基準にしたワークロード.....	48
ダイナミックワークロード計算.....	48
丸め値.....	49
シナリオ開始日および終了日.....	49
固定リードタイム範囲の開始.....	50
パフォーマンスについての注意.....	50
オーダ範囲.....	51
計画範囲.....	51
確約可能在庫範囲.....	52
マスタ計画メンテナンス.....	52
資源マスタ計画をメンテナンス.....	53
確約可能在庫でクリティカル.....	53
作業保管範囲.....	54
固定オーダ数量.....	54
ペギング範囲.....	55
トップダウン品目選択.....	56
計画品目の数.....	56

構成確約可能在庫チェック精度.....	57
有効在庫オンライン更新.....	58
販売の確約可能在庫チェック.....	58
オンラインフェーズ番号更新.....	59
資源マスタ計画をオンライン更新.....	60
第6章 製造.....	61
部品表マスタデータ.....	61
部品表レベル数.....	61
フロア在庫.....	61
ファントム.....	61
工順マスタデータ.....	62
複数作業に使用する資材.....	62
マイクロ工順.....	62
作業を伴わない製造オーダー.....	62
バックフラッシュ.....	63
バックフラッシュ方法.....	63
倉庫オーダーを含まないバックフラッシュ.....	63
ジョブにおけるバックフラッシュ.....	63
プロジェクト管理.....	64
プロジェクト管理の標準オーダー品目.....	64
原価構成別中間結果.....	64
プロジェクト管理 (PCS) を伴わない製品構成 (PCF).....	65
製品コンフィギュレータのバージョン.....	65
組立管理 (ASC) での取引処理.....	65
ジョブショップ管理.....	66
ワークセンタ別会計取引.....	66
仕掛品振替方法.....	66
価格差異の転記方法.....	67
能率差異の転記方法.....	67
入庫転記の実際標準原価.....	67
実際作業費レート.....	68
文書の出力.....	69
見積の凍結時点.....	69
製造での履歴、アーカイブ、および削除.....	69

設計データ管理の部品表履歴.....	69
品目原価計算データの削除.....	70
品目の標準原価計算データの削除.....	70
ジョブショップ管理におけるアーカイブおよび削除.....	70
組立管理での削除.....	71
プロジェクト管理での削除およびアーカイブ.....	71
第7章 倉庫管理.....	73
ロットおよびシリアルの使用.....	73
出庫方法.....	73
クローズ済オーダのオーダライン活動の削除.....	74
統計在庫管理および時系列オーダポイントオーダ範囲.....	74
品目転送に品目付加費用を割当.....	75
追加費用の計算.....	75
ロット管理の設計改訂.....	75
発送確定保管場所数.....	76
履歴データ.....	76
削除およびアーカイブ.....	77
倉庫管理で使用しないコンセプトの無効化.....	78
倉庫管理者ダッシュボードの実行時間で合計を計算.....	79
自動入庫.....	79
納入の更新.....	80
第8章 輸送.....	81
輸送費の再計算.....	81
実際の積荷データの更新.....	81
積荷計画変更の追跡.....	82
履歴データ.....	82
削除およびアーカイブ.....	83
輸送管理で使用しないコンセプトの無効化.....	84
第9章 サービス.....	85
オーダのシグナルとブロック.....	85
サービスオーダチェック.....	85
作業オーダパラメータ.....	86
検索パス.....	86

トランザクションログ.....	87
履歴ログ.....	87
ログ記録設定.....	87
オーダデータのアーカイブと削除.....	88
サービスで使用しないコンセプト.....	89
第10章 財務会計.....	91
統合取引.....	91
一般的な統合と取引フロー.....	91
統合取引のログ.....	91
ログ済要素.....	92
統合取引.....	92
統合取引を転記.....	93
ファイナライズ済会計取引.....	93
調整.....	94
主要調整フロー.....	94
調整要素のログ.....	94
受入、最終受入および調整.....	95
調整データのアーカイブおよび削除.....	95
取引タイプ.....	96
履歴更新モード.....	96
売掛金.....	96
未決済取引 - 売掛金.....	96
支払差額の償却.....	97
全額払済販売請求書のアーカイブおよび削除.....	97
月次請求書の削除.....	97
買掛金.....	98
未決済取引 - 買掛金.....	98
支払差額の償却.....	98
全額払済購買請求書のアーカイブおよび削除.....	98
現預金管理.....	99
現預金管理.....	99
電子銀行勘定照合表の照合.....	99
現預金管理で使用しない概念.....	99
転記済支払バッチ、口座引落、清算済手形の削除.....	100

固定資産.....	101
固定資産.....	101
管理.....	101
管理.....	101
第11章 請求.....	103
ユーザ別新規バッチ.....	103
請求バッチテンプレートとオプション.....	103
請求書の構成.....	104
請求で使用しないコンセプト.....	104
ジョブ処理.....	105
販売請求書データのアーカイブおよび削除.....	105
第12章 従業員管理.....	107
バッチ処理.....	107
処理データのアーカイブおよび削除.....	107
従業員管理で使用しないコンセプト.....	107
第13章 課税.....	109
課税設定の例外のモデル化.....	109
直送販売オーダ税の更新.....	109
税金プロバイダを使用.....	110
税金処理で使用しないコンセプト.....	110
税データの削除およびアーカイブ.....	111
パフォーマンスに対する税金パラメータの評価.....	111
第14章 複数会社.....	113
テーブル共有.....	113
複数会社設定の変更.....	113
第15章 ツール.....	115
LN を設定するには.....	115
LN のオペレーティングシステムの調整.....	115
LN のトレースとチューニング.....	115
データストレージの最小化.....	116
カスタマイズ.....	116

第16章 実装プロセス側面.....	117
サイジングプロセス.....	117
ハードウェア.....	117
インフラストラクチャ.....	118
OnePoint Diagnostics.....	119
LN Diagnostic Scan.....	119
LN Diagnostic Scan によるコストの削減.....	119
付録A 用語集.....	121
索引	

文書情報

本書には、LN 管理者向けに、システムパフォーマンスの維持およびデータベース増大防止の方法に関して、ガイドラインと指示が記載されています。機能アプリケーションの観点からパフォーマンスの問題を取り扱います。

目的

本書では、管理者および経営コンサルタントを対象に、さまざまなアプリケーション設定を最適化することにより、Infor LN 環境のシステムパフォーマンスを向上させ、データベースのサイズおよび拡大を最小限に抑える方法についてガイドラインと手順を提供します。したがって、機能アプリケーションの観点からパフォーマンスの問題を扱います。パフォーマンスの技術的な側面および推奨事項については、Infor LN- Performance, Tracing and Tuning Guide (U9357) を参照してください。

文書の概要

次の章が含まれています。

- 第 1 章: パフォーマンスに関する一般的なガイドライン
- 第 2 章: 共通情報
- 第 3 章: オーダ管理
- 第 4 章: プロジェクト
- 第 5 章: 企業計画
- 第 6 章: 製造
- 第 7 章: 倉庫管理
- 第 8 章: 輸送
- 第 9 章: サービス
- 第 10 章: 財務会計
- 第 11 章: 請求
- 第 12 章: 従業員管理
- 第 13 章: 課税
- 第 14 章: 複数会社
- 第 15 章: ツール
- 第 16 章: 実装プロセス側面

本書の使用法

本書はオンラインヘルプのトピックから構成されています。このため、他のセクションへの参照が次の例のように示されています。

詳細については「はじめに」を参照してください。参照先セクションの場所を特定するには、「目次」を参照するか、文書末尾の「索引」を使用してください。

下線付きの語は用語集の定義へのリンクを示します。本書をオンラインで表示する場合、文書末尾の用語集定義に移動するには下線付きの語をクリックします。

関連文書

- Infor LN- Performance, Tracing and Tuning Guide (U9357)
- Infor LN- Sizing Guide (B0045)
- Infor LN- 管理者ガイド (U8854)

コメント

弊社は常に文書の見直しや改善を行っていますが、この文書に関するご意見、ご要望などありましたら、documentation@infor.com にご連絡ください。

送信の際には文書番号およびタイトルを明記してください。情報が具体的であるほど迅速な対応が可能です。

Infor へのお問い合わせ

Infor 製品に関するお問い合わせは、Infor Xtreme Support ポータル www.infor.com/inforxtreme をご利用ください。

製品リリースに関する更新情報は、この Web サイトに掲載いたします。このサイトを定期的にご確認ください。

Infor ドキュメントに関するご質問・ご意見は、documentation@infor.com までご連絡くださいますようお願いいたします。

第1章

パフォーマンスに関する一般的なガイドライン

1

パフォーマンスとデータベースの増大に関する概要

LNの導入時、システムパフォーマンスとデータベースの増大に関して参考になれる一般的なガイドラインがいくつかあります。これらのガイドラインは、機能、技術、処理に関するもので、正しいか間違っているかといったことではありません。ガイドラインは、LNの機能性に関連しており、使用するかどうかを判断できます。ただし、LNの導入時、および導入後にわたって、特定の機能性や設定によるパフォーマンスおよびデータベースの増大への影響を意識する必要があります。

パフォーマンスとデータベースの増大には関連性があり、一般に、データが増えるほどパフォーマンスは低下します。作成するレコードが多いほど、それ自体に時間がかかる上に、テーブルも巨大化します。大きなテーブルからレコードを選択する方が、小さなテーブルからデータを選択するよりも時間がかかります。

許容できるシステムパフォーマンスとデータベースの増大を実現するには、次の一般的なガイドラインが重要になります。

- 使用しないコンセプトの無効化 (ページ 13)
- データの消去 (ページ 14)
- 詳細レベル (ページ 15)
- パフォーマンス関連の設定およびツール (ページ 15)
- ジョブ (ページ 15)
- 追加ステップ (ページ 16)
- 選択範囲 (ページ 16)
- パフォーマンスチェックプログラム (ページ 16)

注意

BOD 処理のパフォーマンスを最適化するには、Infor LN Configuration Guide for Infor ION の「パフォーマンス」セクションを参照してください。

使用しないコンセプトの無効化

「手数料」、「リベート」、「契約」などのコンセプトがパラメータで有効な場合、LNは、これらのコンセプトについて何も指定していない場合でも、この機能を実行時にチェックします。このため、コンセプトを使用しない場合は、パフォーマンスを改善するために対応するパラメータを無効にしてください。

データの消去

大きなテーブルからレコードを取得する方が、小さなテーブルからデータを取得するよりも時間がかかります。このため、パフォーマンスとデータ増加の観点からは、テーブルはできる限り小さくする必要があります。このためには、次の操作を実行できます。

- レコードの削除
- アーカイブ: 別の会社へのレコードの移動
- 履歴ログ: 別のテーブルへのレコードのコピー

注意

詳細については、Infor LN アーカイブユーザガイド (U9352* JA) を参照してください。

レコードの削除

パフォーマンスを改善し、データベースの増大を抑えるために非常に効果的な方法は、レコードの削除です。レコードの削除の不利な点は、そのデータがそれ以降は使用できなくなることです。ただし、通常はすべてのレコードを保存しておく必要はありません。

たとえば、ライン活動は倉庫別に保存されます。通常、これらのレコードを保持しておく必要はありません。このため、倉庫オーダのクローズ後、ライン活動は削除できます。Infor LN アーカイブユーザガイドでは、旧データの削除に使用できるいくつかのセッションについて説明しています。その他の品目や取引先などのデータは必要なときに確認することができ、必要なくなった時点で後から削除できます。

すべてのオーダおよび契約のテーブルでは、セッションを使用して古いオーダをアーカイブおよび削除できます。これらのセッションでは、日付や状況など、複数の条件を指定して削除するオーダを選択できます。これらのセッションは定期的に行われます。

アーカイブ

今後の分析や確認のために必要ではあるが、実働会社に保存しておく必要のないデータは、アーカイブできます。つまり、そのデータを実働会社から削除し、別の会社、いわゆるアーカイブ会社に移動します。パフォーマンスの観点から言えば、アーカイブは実働会社からデータがなくなるため、レコードの削除と同じくらいの効果があります。ただし、データはアーカイブ会社で使用できる状態であるため、合計データ量は変わりません。LNのセッションには、アーカイブに使用できる場所がいくつかあります。データベースの増大の観点から言えば、アーカイブと削除は効果的なオプションです。

履歴

実際のオーダテーブルに負荷をかけずに特定のオーダの変更を追跡するために、データを履歴テーブルに書き込むことができます。オーダが作成されると、履歴にコピーされ、実際のオーダの更新のたびに履歴テーブルに新しいレコードが書き込まれます。

実働会社にデータが存在する必要があるプロセスもあります。たとえば、販売と調達の販売統計、購買統計、調整などです。取引オーダテーブルの負荷を減らすために、これらのプロセスは履歴データを利用するため、データは早い段階で取引オーダテーブルから削除できます。また、倉庫管理などでも、履歴ログを使用して特定の倉庫オーダを記録できます。

履歴ログを使用する場合は、定期的に履歴テーブルでデータのアーカイブと削除を行う必要があります。ほとんどのデータは、ログ直後でもアーカイブと削除を実行できます。購買オーダ履歴や販売オーダ履歴などのデータの場合は、削除、またはアーカイブの時機は調整などその他のビジネスプロセスによって決まります。

まとめ

実働環境のデータは定期的に削除する必要があります。今後の分析に必要なデータはアーカイブします。履歴ログは、必要な場合のみ使用します。データはできる限り速やかにアーカイブし、実働環境から削除します。

詳細レベル

複数のコンセプトで、詳細レベルを変えることができます。たとえば、部品表レベルの数、原価構成要素の数、調整グループの数、クラスタと計画品目の数を定義できます。場合によっては、マルチレベル部品表が有益であり、必要になることがあります。ただし、部品表レベルが増えるほど処理数も増えるため、パフォーマンスの低下につながります。このため、詳細レベルの追加は慎重に行い、できる限り代替策を検討してください。たとえば、計画に MRP を必要としない倉庫と計画品目があるとしします。この場合、TPOP、SIC、オーダ管理/単一など、他の計画メカニズムを検討できます。

LN では、非常に詳細なモデルを適用できます。たとえば、「課税設定の例外モデル」では、標準税金ロジックに従うことができない場合にその状況に該当する税金コードを指定できます。ただし、詳細モデルでは多数のルール指定が必要になるため、パフォーマンスが低下します。例外的なケースに対処する必要がある場合は、マニュアル訂正が最も良い方法です。

パフォーマンス関連の設定およびツール

アプリケーション機能が変更されているだけでなく、パフォーマンス向上のための多くの設定およびツールを利用できます。次の技術があります。

- 先頭空番号のチェック (ページ 17)
- 並列処理 (ページ 45)
- テーブルブースタ (ページ 22)

詳細は、次の情報を参照してください: LN- Performance, Tracing and Tuning Guide (U9357) ([Infor Xtreme](#) のソリューション [22881401] から利用可能)

ジョブ

伝票の出力、MRP、財務統合取引の転記などのアクティビティは、夜間や週末などの営業時間外にジョブで実行できます。同時に実行するジョブの数は、CPU の実際数によって制限されます。

追加ステップ

ステップは柔軟なオーダ処理を使用して自動化できます。ユーザの対話が制限されるため、有用性が高まります。ただし、追加ステップの自動化は必要な場合のみ行ってください。自動化したステップもパフォーマンスに影響するほか、場合によってはデータベースの増大につながります。「輸送オーダの生成」や「在庫約定の生成」などのステップは、販売プロセスで必要な場合のみ追加してください。

同様に、伝票の出力についても必要な場合のみ有効にしてください。

選択範囲

LNでは、出力セッションや更新セッションなどの複数の場所で範囲を指定できます。パフォーマンスを改善するには、選択肢を絞り込んでください。

パフォーマンスチェックプログラム

LNアプリケーションのパフォーマンス関連の設定をチェックできるプログラムがいくつかあります。これらの設定が変更された場合に、チェックプログラムを実行します。これは、実装時に特に重要です。

このようなプログラムには、次のものがあります。

- OnePoint Diagnostics (OnePoint Diagnostics (ページ 119) を参照)
- 税金パラメータチェック (パフォーマンスに対する税金パラメータの評価 (ページ 111) を参照)

先頭空番号

いくつかのLNプロセスでは、出荷、オーダ、請求書などのエンティティに番号を割り当てる必要があります。ただし、システムパフォーマンスの点では、番号の割当はボトルネックになることがあります。

新しいオーダ番号の割当を実行するセッションのパフォーマンスを改善するには、先頭空番号 (tcmts0150m000) セッションでシリーズのキャッシュサイズを定義します。このキャッシュサイズは、LN で同時に生成される新しいシリーズ番号の数になります。キャッシュにシリーズ番号がある場合、ユーザは、LN が次のシリーズ番号の生成とチェックを実行している間待機する必要があります。

- キャッシュサイズ = 0
キャッシュは適用されません。新しい番号を要求すると、その番号が適用される処理が完了するまで番号はコミットされません。
不利な点: 番号シリーズが処理の間ロックされます。その他のユーザは、処理が完了するまで同じシリーズの新しい番号を要求することはできません。
利点: 採番でギャップが生じることがありません。
採番でギャップが許されない場合は、キャッシュサイズを0にします。できる限り、処理の終わり近くに新しい番号を要求し、ロック時間を短くしてください。大容量の実装では、キャッシュサイズを0にすることでパフォーマンスとロックの問題が生じることがあります。
- キャッシュサイズ = 1
新しい番号を要求すると、その番号が適用される処理が完了していなくても、番号は即座にコミットされます。
不利な点: 処理が完了していない場合は、採番でギャップが生じることがあります。
利点: 番号シリーズのロックが短時間で済むため、パフォーマンスが改善します。
キャッシュサイズ1は、番号シリーズのデフォルト値です。このように、大容量の実装でのパフォーマンスとロックの問題が最大限避けられます。
- キャッシュサイズ > 1
キャッシュサイズの値は、同時に要求できる新しい番号の数を示します。番号は、処理が完了していなくても即座にコミットされます。
不利な点: 複数の処理が終了していない場合は、採番のギャップが大きくなることがあります。

利点: 番号シリーズのロックが短時間で済みます。さらに、要求されたすべての番号について、番号シリーズの更新は 1 回であるため、パフォーマンスが改善されます。

キャッシュサイズを 1 よりも大きくするのは、キャッシュサイズが 1 ではロックの問題を十分に解消できない場合のみにしてください。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響: Yes
- データベース拡張への影響: 適用なし

詳細は、次の情報を参照してください: LN - Performance, Tracing and Tuning Guide (U9357)

倉庫管理のシリアルとロット

シリアル番号付品目を追跡すると処理数が増えます。特に、品目 - 倉庫管理 (whwmd4500m000) 詳細セッションの [在庫内シリアル] チェックボックスがオンの場合は増えます。

[在庫内シリアル] チェックボックスは、特定のシリアル番号付品目をオーダに割り当てるなど、小容量のシナリオでのみオンにしてください。大容量のシナリオでこのチェックボックスをオンにすると、倉庫管理や財務統合ではデータベースの増大が深刻化します。たとえば、同様の見込品目 10 個の出荷は、10 個で 1 つの取引として処理されます。シリアル番号付品目の場合は、各シリアル番号付品目が個別の取引として処理されます。

[在庫内シリアル] チェックボックスをオフにしても、たとえば、特定のシリアル番号付品目を出庫手順で出庫オーダに割り当て、特定の顧客に出荷するシリアル番号付品目を指示することができます。この方法では、余分なデータベースの増大が生じることはありません。

品目 - 倉庫管理 (whwmd4500m000) 詳細セッションの [在庫中ロット] チェックボックスも、データベースの増大とシステムパフォーマンスに影響します。ただし、ロットに含まれる複数の品目はシリアル番号付品目のように個別に処理されないため、シリアル番号付品目よりロットによる影響は少なくなります。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響: Yes
- データベース拡張への影響: Yes

導入済ソフトウェア構成要素

特定のパッケージ、モジュール、コンセプトを導入するかどうかを指示するには、導入済ソフトウェア構成要素 (tccom0500m000) セッションを使用します。ただし、特定のパッケージ、モジュール、コンセプトを実際には使用しない場合は、対応するパラメータをオフにします。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響: Yes

- データベース拡張への影響： Yes

プロジェクトペギング

共通情報では、プロジェクトペギングパラメータ (tcpeg0100m000)、導入済ソフトウェア構成要素 (tccom0100s000)、および品目 (tcibd0501m000) セッションでプロジェクトペギングパラメータを選択して、ペギング機能を導入できます。

例

導入済ソフトウェア構成要素 (tccom0100s000) セッションで [プロジェクトペギング] チェックボックスをオンにすると、原価取引 (tpppc2100m000) に登録される取引の数が増加します。これによって、データベースのサイズが大きくなります。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： Yes

COM および IBD パラメータ

次のパラメータは、システムパフォーマンスの面で重要となります。

- COM パラメータ (tccom5000m000) セッションの [距離テーブルの使用]
納期の判断で距離テーブルを使用しない場合は、パフォーマンスを改善するために [距離テーブルの使用] フィールドで [なし] を選択します。
- 品目基準データパラメータ (tcibd9199m000) セッションの [品目コード内のプロジェクトコードのチェック]
LN では、プロジェクトセグメントと品目セグメントで品目コードを構成できます。品目に関して PCS や TP プロジェクトが存在しない場合、つまり品目がカスタマイズされていない場合 (PCS) や引き当てられていない場合 (TP)、品目コードのプロジェクトセグメントは空になります。LN で認識される品目コードは 9 つのスペースで構成されており、その後の品目セグメントに名前が続きます。
ただし、外部アプリケーションは通常、プロジェクトセグメントと品目セグメントで構成される品目コードも、9 つのスペースの後に続く品目コードも認識しません。このため、LN から外部アプリケーションに転送された品目コードのプロジェクトセグメントは、外部アプリケーションでセグメントとして認識されず、品目名の一部として扱われます。
外部アプリケーションと競合する品目コードが LN で定義されないようにするには、[品目コード内のプロジェクトコードのチェック] チェックボックスをオンにします。
このチェックボックスがオンの場合、新しい品目コードまたはプロジェクトコードを追加すると、LN で次のチェックが実行されます。
 - 品目 (tcibd0501m000) 詳細セッションで品目を定義する場合は、品目の名前の先頭 9 文字を LN の既存のプロジェクトコードとは異なる文字にする必要がある。

- 一般プロジェクト (tcmcs0552m000) 詳細セッションでプロジェクトコードを定義する場合は、コードの最初の文字を LN の既存の品目コードの最初の文字とは異なる文字にする必要がある。

このチェックボックスをオンにすると、ソフトウェアのパフォーマンスが大幅に低下します。オフにすると、プロジェクトコードが品目コードの一部である品目の出力 (tcibd0401m100) セッションを使用して、既存の品目コードまたはプロジェクトコードの範囲が外部アプリケーションと競合するかどうかをチェックできます。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： 適用なし

原価構成要素設定

品目の原価、販売価格、評価額を分解するには、**原価構成要素**を使用します。原価構成要素を使用すれば、標準原価計算モジュールで見積原価と実際原価を比較できるほか、製造差異の計算、原価の分析が可能です。

原価構成要素を詳細に設定すると、品目 - 計算済評価額 (ticpr2540m000) セッションと品目 - 標準評価額 (ticpr3540m000) セッションで詳細レコードが作成されます。統合取引は原価構成要素別に記録されるため、追加の財務統合取引が作成されます。また、詳細な原価構成要素設定では、販売や倉庫管理などの領域でも追加の原価詳細が作成されます。これによりデータベースが増大し、パフォーマンスが悪化します。特に、製造完了処理や品目入庫処理時はその影響が顕著になります。

有効な原価構成要素構造 (ticpr0112m000) セッションに表示される有効原価構成要素構造の原価構成要素の数をできるだけ少なくします。最も少ない場合で、総計原価構成要素が 3 つになります。資材、作業、付加費用にそれぞれ 1 つずつです。パフォーマンスの観点からは、次のようにすることが推奨されます。

- 原価構成要素の数を減らす
 - すべての作業費レートに 1 つの作業費構成要素
 - すべての外注費レートに 1 つの原価構成要素
 - 品目付加費用および倉庫付加費用に 1 つの原価構成要素
 - 実際労務費レートに 1 つの原価構成要素 (従業員管理)
 必要な原価構成要素のみを使用するようにしてください。
- 総計原価構成要素を使用する

原価は、マルチレベル部品表の (詳細) 原価構成要素を使用して計算されます。評価額 (実際価格) の同様の計算でも、製造品目の場合は特に多数の原価構成要素を持つ価格構造になります。倉庫移動、仕掛品に出庫などの場合は、すべての原価構成要素について転記が生じます。ただし、この詳細原価情報によって倉庫管理に機能的な値が増えることはありません。原価構成要素を総計する場合、会計取引の原価構成要素の数が減ります。このため、品目 - 原価計算 (ticpr0107m000) セッションで定義されている 3 つの原価構成要素に、作業費、材料費、付加費用を総計してください。

品目 - 原価計算 (ticpr0107m000) セッションで [標準原価構成要素体系] を入力しない場合、製造オーダ原価、製造オーダ差異、付加費用は総計原価構成要素別に転記されます。これにより、パフォーマンスが改善され、データベースの増大が抑えられます。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： Yes

ゼロ金額のログ

プロジェクトペギングを導入する場合、原価マッピング (tcmcs0149m000) セッションで、原価マッピング機能を使用して原価構成要素および原価対象をリンクできます。

例

原価マッピング (tcmcs0149m000) セッションで [ゼロ金額のログ] チェックボックスをオンにすると、原価取引 (tpppc2100m000) に登録される取引の数が増加します。これによって、データベースのサイズが大きくなります。

パフォーマンスについての注意

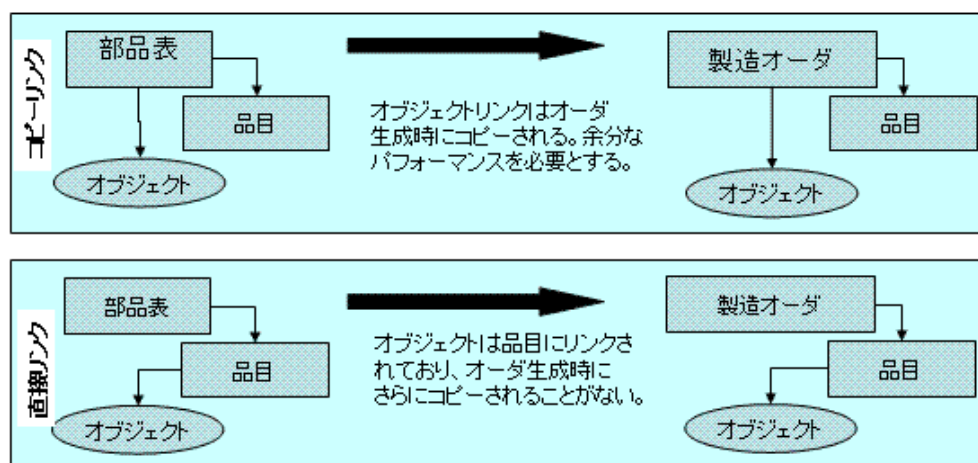
- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： Yes

オブジェクトデータ管理

ファイルを品目、販売オーダー、部品表などのオブジェクトにリンクするには、オブジェクトデータ管理 (ODM) ファイルを使用します。リンクファイルは、LN の複数の場所で製造オーダーなどの関連オブジェクトで自動的に利用できます。リンクには次の 2 つの方法があります。

- 直接リンク
ファイルが品目などのオブジェクトにリンクされており、製造オーダーなどの別のオブジェクトとその品目の間に「ハードテーブル参照」がある場合、その品目にリンクされているファイルも品目参照別製造オーダーで利用できます。これによりパフォーマンスが犠牲になることはありません。
- コピーリンク
ファイルが部品表などのオブジェクトにリンクされており、製造オーダーなどの別のオブジェクトとその部品表の間に「ハードテーブル参照」がない場合、このリンクは次のオブジェクトにコピーする必要があります。つまり、部品表から製造オーダーにコピーします。これによりパフォーマンスが悪化します。

パフォーマンスの観点から、最も良い方法は直接リンクです。このため、例に挙げたような場合は、部品表にではなく品目にファイルをリンクするようにしてください。



パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： 適用なし

テーブルブースタ

大量のデータを処理する必要があるために速度が低下しているセッションやプロセスの処理速度を上げるには、テーブルブースタを使用できます。これにより、テーブル全体またはその中の特定の部分をメモリにロードすることで、特定のデータベーステーブルへのアクセス速度が上がります。テーブルブースタは、テーブルブースタ (tcmc0598m000) セッションで定義します。テーブルブースタ (ページ 47) も参照してください。

テーブル

テーブルブースタはテーブル用に導入されています。デフォルトでは、テーブルブースタは有効になっていません。テーブルにアクセスすると、LN により、テーブルブースタ (tcmc0598m000) セッションでテーブルブースタを有効にすることができるテーブルのリストが作成されます。

注意

テーブルブースタは、少なくとも一回はアクセスしているテーブルにのみ有効にすることができます。

詳細については、Infor ERP LN 6.1 - Performance Tracing and Tuning Guide (U9357 US) を参照してください。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： 適用なし

会計取引

財務会計と経済在庫処理

オーダーの入力時、要求の提出時、または契約ラインの有効化時に、予測される会計取引 (FITR) を記録するかどうかを指定できます。たとえば、購買オーダー入力時に、オーダーを倉庫管理で受け取ったときに実際のコミットメントになる予想会計コミットメントを作成できます。

この機能は、以下のパラメータでサポートされています。

- 購買パラメータ (tdpur0100m000) セッションの [財務会計と経済在庫処理のリンク]
- 購買要求パラメータ (tdpur0100m200) セッションの [財務会計と経済在庫処理のリンク]
- 購買契約パラメータ (tdpur0100m300) セッションの [財務会計と経済在庫処理のリンク]
- 販売パラメータ (tdsls0100s000) セッションの [財務会計と経済在庫処理のリンク]
- 販売契約パラメータ (tdsls0100s300) セッションの [財務会計と経済在庫処理のリンク]

ただし、財務会計と経済在庫処理では追加転記が生じるため、オーダー入力時のパフォーマンスが低下し、データの増加が拡大します。このため、必要な場合のみ、財務会計と経済在庫処理のリンクを行ってください。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： Yes

処理タイムフェンス

外部取引先に購買スケジュールを生成する場合、ロジスティック合意条件は購買契約ラインロジスティックデータ (tdpur3102m000) セッションのデフォルトが設定されます。このセッションの [処理タイムフェンス] フィールドによって、ログに記録する必要がある購買スケジュールライン会計取引が決まります。この [処理タイムフェンス] は、品目 - 購買取引先 (tdipu0110m000) セッションのデフォルトが設定されます。

販売スケジュールの財務転記は、[処理タイムフェンス] (品目 - 販売取引先 (tdisa0510m000) セッション) にもとづきます。

FAB期間が短い場合、会計取引の数を最小化してシステムパフォーマンスを改善し、不必要なデータの増加を避けることができます。このためには、[処理タイムフェンス] フィールドを [確定期間のライン]、または [FAB 期間のライン] に設定します。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： Yes

価格設定

マトリックス順序の数

マトリックス順序をマトリックス優先順位 (tdpcg0120m000) セッションに入力する場合は、順序の数を制限します。たとえば、マトリックス順序が価格設定管理 (PCG) マトリックスにリンクされていない場合、存在していない価格および値引も有効な価格情報の取得時に検索されるため、パフォーマンスの低下につながります。

このため、使用するマトリックス順序のみを入力し、使用しないマトリックス順序は終了します。このようにすることで、パフォーマンスが向上します。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： 適用なし

値引レベル数

価格設定パラメータ (tdpcg0100m000) セッションの [値引レベル数] フィールドに、販売管理および購買管理モジュールで値引の計算、または再計算に使用する値引レベルの数を入力します。

値引レベルごとに、LN は次のオーダーライン処理中に値引計算を実行します。この結果、オーダー履歴転記も生じます。

- オーダの作成と更新
- オーダーラインデータの更新

オーダーラインに変更が加わると、プラスおよびマイナスの履歴レコードが記録されます。価格および値引が再計算される場合、オーダーラインや履歴転記への更新の数は価格および値引設定によって変わります。

次の計算ステップをオーダーラインに関して作成できますが、それぞれで更新と履歴転記が行われます。

1. 価格および値引の計算
2. 累計価格の計算
3. 累計値引の計算
4. 値引レベルごと (最大 5) の値引合計の計算

このため、パフォーマンスを改善してデータの増加を制限するには、値引レベルの数を最低限必要なレベルに制限します。値引合計は標準の値引に加えて追加でログに記録されるため注意してください。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： 適用なし

価格設定品目の結合

価格および値引を価格および値引の再計算パラメータ (tdpcg0240s000) セッションで再計算する場合、[累計価格の適用] および [累計値引の適用] チェックボックスにより、価格または値引を取得する際に同一ライン品目を結合する必要があるかどうかが決まります。

これらのチェックボックスは、次のチェックボックスがオンの場合のみオンにできます。

- 価格設定パラメータ (tdpcg0100m000) セッションの [価格設定品目の結合]
- マトリックス定義 (tdpcg0110m000) セッションの [価格グループ別結合] チェックボックス

ただし、価格および値引を取得するために品目を結合すると、パフォーマンスが低下します。このため、累計価格や累計値引は、再計算処理時に必要な場合のみ適用してください。多くの場合、オーダー納入ラインを別々に作成しても、オーダーラインについては同じ結果を得ることができます。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： 適用なし

デフォルト価格帳を更新

価格設定パラメータ (tdpcg0100m000) セッションの [デフォルト価格帳を更新] および [デフォルト購買価格帳の更新] チェックボックスがオンの場合、品目 - 販売 (tdisa0101s000) セッションの販売価格ごとに、または品目 - 購買 (tdipu0101m000) セッションの購買価格ごとに、項目がデフォルト/発注先価格帳に作成されます。また、品目 - 販売 (tdisa0101s000) および 品目 - 購買 (tdipu0101m000) セッションで価格が更新されるたびに、デフォルト価格帳に項目が追加されます。

デフォルト価格帳の自動更新では、データの増加が拡大します。このため、これらのチェックボックスは日付有効品目データ基準価格を使用する場合のみオンにしてください。また、この機能を使用する場合は、価格情報の一括削除 (tdpcg0200m000) セッションを定期的に行ってください。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： 適用なし
- データベース拡張への影響： Yes

価格、レート、値引管理

価格設定パラメータ (tdpcg0100m000) セッションには、次の管理フィールドがあります。

- 価格管理
価格マトリックスで見つかった価格帳で使用する必要がある販売価格、または購買価格が決まります。
- 輸送レート管理
輸送レートマトリックスで見つかった輸送レート帳簿で使用する必要があるクライアント輸送レート、または運送業者輸送レートが決まります。
- 値引管理
値引マトリックスで見つかった値引スケジュールで使用する必要がある販売値引、または購買値引が決まります。

これらのフィールドでは次の値を選択できます。

価格管理

- [最初の価格]
特定のマトリックス定義で、LN は発効日が最も新しい価格マトリックスで見つかった最初の価格を使用します。
- [最安値]
特定のマトリックス定義で、LN は発効日が最も新しい価格マトリックスで見つかった最初の価格を取得します。ただし、他の関連するマトリックス定義を適用できる場合、ERP LN はこれら他の価格マトリックスでより低い価格の検索を継続します。LN はマトリックスで見つかった最安値を使用します。

輸送レート管理

- [最初のレート]
特定のマトリックス定義で、LN は発効日が最も新しい輸送レートマトリックスで見つかった最初の輸送レートを使用します。
- [最低レート]
特定のマトリックス定義で、LN は発効日が最も新しい輸送レートマトリックスで見つかった最初の輸送レートを取得します。ただし、他の関連するマトリックス定義を適用できる場合、ERP LN はこれら他の輸送レートマトリックスでより低いレートの検索を継続します。LN はマトリックスで見つかった最も低い輸送レートを使用します。

値引管理

- [最初の値引]
LN は、対象のレベルで最初に見つかった有効な値引を使用し、その他の有効な値引は無視します。最初の有効な値引は、一番低いマトリックス連番が付けられているものです。複数の値引に一番低い連番が付けられている場合、最初の値引となるのは一番新しい [発効日] のものです。最初の値引が見つかり、値引の検索は停止します。
- [最大値引]
LN は、対象のレベルで見つかった最高の値引を使用し、マトリックス順序の優先順位は無視します。
- [累計]
すべての有効な値引が取得され、1 つの総計の割合として返されます。総計の最大値引率は 100 です。

システムパフォーマンスを最大限に高めるには、購買価格の取得では [最初の価格] を選択し、輸送レートの取得では [最初のレート] を選択し、値引の取得では [最初の値引] を選択します。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： 適用なし

派生元品目の使用

価格設定パラメータ (tdpcg0100m000) セッションの [販売] タブおよび [購買] タブの [派生元品目の使用] フィールドでは、LN でカスタマイズ品目のデフォルト価格を取得する方法を定義できます。

これらのフィールドでは次の値を選択できます。

- [Yes; 品目 - 派生元品目]
最初に、カスタマイズ品目が価格と値引の定義に使用されます。品目に対する顧客固有の価格またはデフォルトの価格が見つからない場合は、派生元品目が価格と値引の定義に使用されます。
- [No; 品目のみ]
カスタマイズ品目のみが、価格と値引の定義に使用されます。
- [Yes; 派生元品目 - 品目]
最初に、派生元品目が価格と値引の定義に使用されます。品目に対する顧客固有の価格またはデフォルトの価格が見つからない場合は、カスタマイズ品目が価格と値引の定義に使用されます。

カスタマイズ品目を使用しない場合、またはこのフィールドによるシステムパフォーマンスへの影響を最小限に抑えたい場合、このフィールドは [No; 品目のみ] に設定してください。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： 適用なし

価格および値引の再計算

価格設定パラメータ (tdpcg0100m000) セッションの [販売] タブおよび [購買] タブの [価格および値引の再計算] フィールドで、LN がオーダまたはオーダラインの価格および値引を再計算する方法を定義できます。

これらのフィールドでは次の値を選択できます。

- [なし]
価格および値引は、ユーザが再計算を必要とするオーダ(ライン)に関して、適切なメニューで [価格/値引の再計算] を選択していない限り再計算されません。
- [対話式]
オーダまたはオーダラインの承認後、価格および値引の再計算パラメータ (tdpcg0240s000) セッションが表示されます。このセッションは各種再計算オプションを提供します。

- [自動]
価格および値引は、オーダーまたはオーダーラインの承認後に自動的に再計算されます。適切なメニューの [価格/値引の再計算] を選択しても、販売オーダーラインの価格と値引、および購買オーダーラインの価格を再計算できます。

デフォルトで、[価格および値引の再計算] フィールドは [自動] に設定されています。ただし、価格が変更されて価格および値引が再計算されるたびに、パフォーマンスが低下し、追加の履歴レコードがログに記録されます。オーダーライン間や価格境界間にリンクを設定していない会社など、複雑な価格設定を行っていない会社の場合は、これらのフィールドを [なし] に設定し、パフォーマンスを改善してデータの増加を制限してください。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： 適用なし

販促管理

価格設定パラメータ (tdpcg0100m000) セッションの [オーダー販促管理] および [ライン販促管理] フィールドでは、販売オーダーおよび販売オーダーラインについて、販促マトリックスで見つかった販促のうち、使用する必要がある販促を指示できます。

これらのフィールドでは次の値を選択できます。

- [初回適合]
最初の有効な販促が適用されます。
- [すべて適合]
すべての有効な販促が適用されます。
- [初回適合 + すべて限定適合]
販促 (tdpcg0140m000) セッションで [限定適用販促] チェックボックスがオンの最初の有効な販促が適用されます。
- [すべて限定適用]
販促 (tdpcg0140m000) セッションで [限定適用販促] チェックボックスがオンのすべての有効な販促が適用されます。

システムパフォーマンスを最大化するには、[初回適合] を選択します。これにより、LN は販促が見つかるとその他の販促の検索を停止します。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： 適用なし

高優先順位の発注先価格帳

価格設定パラメータ (tdpcg0100m000) セッションで [発注先価格帳] を定義した場合、価格帳ライン (tdpcg0131m000) セッションの [高優先順位] チェックボックスを発注先価格帳に対してオンにできます。このチェックボックスがオンの場合、購買元取引先/出荷元取引先/品目の組合せの価格は、通常のマトリックス順序構造で保存された価格よりも優先されます。

価格帳に高優先順位を割り当てることによって、マトリックス定義の設定、それらの価格帳へのリンク、検索優先順位の指定などのコンセプトを省略することができます。これにより、購買元取引先/出荷元取引先/品目の組合せの価格を簡単に取得してメンテナンスできます。このため、[高優先順位] チェックボックスをオンにすると、購買価格を取得する際の検索順序が制限され、パフォーマンスが改善されます。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： 適用なし

調達

見積依頼チェック

見積依頼 (RFQ) を作成する場合、LN では次のチェックを自動的に実行できます。これらは、見積依頼パラメータ (tdpur0100m100) セッションで定義できます。

- [実際購買オーダをチェック]
- [実際見積依頼をチェック]
- [実際契約をチェック]
- [実際スケジュールをチェック]

ただし、見積依頼の入力時、これらの自動チェックはパフォーマンスの低下につながります。このため、これらのチェックボックスは必要な場合のみオンにしてください。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： 適用なし

購買要求チェック

LN では、いくつかのチェックを自動的に実行できます。

購買要求パラメータ (tdpur0100m200) セッションで購買要求を作成する場合は、次のチェックを定義できます。

- [実際購買オーダをチェック]
- [実際見積依頼をチェック]

ただし、購買要求の入力時、これらの自動チェックはパフォーマンスの低下につながります。このため、これらのチェックボックスは必要な場合のみオンにしてください。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： 適用なし

追加原価を再計算

次のパラメータでは、購買オーダー、販売オーダー、出荷の修正時に、追加コストを再計算する方法を定義できます。

- 購買オーダーパラメータ (tdpur0100m400) セッションの [追加コストの (再) 計算]
- 販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400) セッションの [追加コストの再計算]

これらのフィールドでは次の値を選択できます。

- [なし]
追加コストは再計算されません。追加コストは、購買オーダーライン (tdpur4101m000)、販売オーダーライン (tdsls4101m000)、および出荷 (whinh4630m000) セッションでマニュアルでメンテナンスできます。
- [対話式]
LNから、追加コストの再計算が必要かどうかの指示を求めるダイアログが表示されます。追加コストは、購買オーダーライン (tdpur4101m000)、販売オーダーライン (tdsls4101m000)、および出荷 (whinh4630m000) セッションでマニュアルでメンテナンスできますが、LNで追加コストが再計算される場合、マニュアルによる変更は失われます。
- [自動]
追加コストをマニュアルでメンテナンスできません。追加コストは、購買オーダーライン (tdpur4101m000) セッション、または販売オーダーライン (tdsls4101m000) セッションを終了するたびに、あるいは出荷 (whinh4630m000) セッションで出荷を凍結、または確認したときに再計算されます。

追加コストを再計算するたびに履歴レコードが記録されるため、パフォーマンスの低下につながります。このため、これらのフィールドによるシステムパフォーマンスへの影響を最小限に抑えたい場合は、このフィールドを [なし] または [対話式] に設定します。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： 適用なし

統合

購買オーダーパラメータ (tdpur0100m400) セッションの [統合対象] グループボックスでは、特定の購買オーダー元について購買オーダーを統合できるかどうか定義できます。

すべての発生元に関して [統合対象] チェックボックスをオンにすると、これらを発生元とする購買オーダーは単一の購買オーダーに統合できます。これにより、システム内の購買オーダーの数が減るため、データの増加を抑えられます。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： 適用なし
- データベース拡張への影響： Yes

承認購買元取引先の検索パス

購買オーダーパラメータ (tdpur0100m400) セッションの [購買元取引先検索オーダー] タブおよび購買スケジュールパラメータ (tdpur0100m500) セッションの [購買元取引先検索スケジュール] タブで、どの LN が承認取引先の購買オーダーおよび購買スケジュールを検索するかに基づき優先順位の組み合わせを入力できます。

これらの検索レベルは、購買元取引先の選択処理において企業計画に使用されます。

次の手順を実行します。

1. 企業計画は、必要な品目グループおよび倉庫を購買管理に送信します。
2. 購買管理は、購買オーダーパラメータ (tdpur0100m400) セッションまたは購買スケジュールパラメータ (tdpur0100m500) セッションで定義された [検索パス] に基づき、承認済発注元を検索します。
3. 購買管理は、企業計画が購買元取引先を選択後に、すべての有効な取引先を企業計画に送信します。

注意

[すべての定義済レベルの検索] チェックボックスにより、すべての定義済レベルを検索するか、有効な取引先が見つかったら検索を中止するかを選択します。

ただし、多くのレベルで取引先を検索すると、パフォーマンスが低下します。パフォーマンスを向上させるには、検索レベルの数を制限し、[すべての定義済レベルの検索] チェックボックスをオフにします。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： 適用なし

販売

販売見積のための在庫チェック

販売見積を作成、確認、または処理する場合、LN では次の在庫チェックを自動的に実行できます。

- [見積ライン入力時の在庫チェック]
- [確認時在庫チェック]
- [処理中の在庫チェック]

これらのチェックは、販売見積パラメータ (tdsls0100s100) セッションで定義できます。

ただし、これらの自動在庫チェックはパフォーマンスの低下につながります。このため、システムパフォーマンスを改善するためには、[No] を選択します。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes

- データベース拡張への影響：適用なし

タイムフェーズ在庫移動の最小成功率

[タイムフェーズ在庫を考慮した場合の最小確率%] フィールド (販売見積パラメータ (tdsls0100s100) セッション) では、販売見積の最小成功率をタイムフェーズ在庫移動について入力できます。このフィールドで指定した値よりも成功率が低い見積ライン (オリジナルライン、または代替ライン) は、計画在庫処理 (whinp1500m000) セッションに挿入されません。

ただし、成功率を低くしたことが原因でシステムパフォーマンスが低くなるわけではありません。このため、入力する成功率を低くしすぎないでください。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響：Yes
- データベース拡張への影響：適用なし

販売見積チェック

販売見積を作成する場合、LN では次のチェックを自動的に実行できます。

- [販売オーダー]
- [販売契約]
- [販売スケジュール]

これらのチェックは、販売見積パラメータ (tdsls0100s100) セッションで定義できます。

ただし、販売見積の入力時、これらの自動チェックはパフォーマンスの低下につながります。このため、これらのチェックボックスは必要な場合のみオンにしてください。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響：Yes
- データベース拡張への影響：適用なし

拡張在庫チェック

販売見積および販売オーダー (構成要素) 手順では、販売見積ライン、販売オーダーライン、販売オーダー構成要素ラインに対して有効在庫の拡張チェックを実行できます。つまり、これらのラインの納入を顧客に確約できるかどうかにもとづいて、ラインの見積確約状況を受け取ることができます。

拡張在庫チェックを実行するには、以下のようにします。

- 販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400) セッションと販売見積パラメータ (tdsls0100s100) セッションで [拡張在庫チェック] チェックボックスをオンにします。
- 販売オーダータイプ (tdsls0594m000) セッションで、[拡張在庫チェック] フィールドおよび [在庫チェック日時] フィールドを定義します。

[在庫チェック日時] フィールドは、パフォーマンスとデータベースの拡大に次のような影響を与えます。

値	パフォーマンス	データ拡張
[実行しない]	増加	影響なし
[オーダー入力]	影響なし	増加 (販売オーダー)
[バッチ]	影響なし	増加 (販売オーダー)

ただし、これらの自動在庫チェックはパフォーマンスの低下につながります。このため、システムパフォーマンスを改善するためには、[No] を選択します。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： Yes

販売契約のための計画在庫処理

販売契約パラメータ (tdsls0100s300) セッションの [計画在庫処理を更新] チェックボックスでは、販売契約ラインとそれにリンクされている納入ラインがすでに有効化されている場合に、計画在庫処理をログに記録するかどうかを指示できます。

ただし、計画在庫処理は追加転記が生じるため、パフォーマンスが低下し、データの増加が拡大します。このため、[計画在庫処理を更新] は必要な場合のみオンにしてください。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： 適用なし

販売スケジュールに対する計画倉庫オーダー

販売スケジュールパラメータ (tdsls0100s500) セッションの [スケジュールに契約を使用] チェックボックスで、販売スケジュールに販売契約を設定する必要があるかを定義できます。また、このチェックボックスをオンにした場合、承認済販売スケジュールに対して計画済倉庫オーダーが自動的に生成されるか更新されます。

ただし、計画済倉庫オーダーはレコードを増加させ、パフォーマンスの低下やデータサイズが増加を招きます。そのため、必要ならば [スケジュールに契約を使用] のみを選択します。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： Yes

販売オーダーチェック

販売オーダーを作成する場合、LN では次のチェックを自動的に実行できます。

- [マージン管理]
- [ヘッダの総マージンチェック]
- [ラインの総マージンチェック]
- [実際販売見積チェック]
- [タイムフェーズ在庫チェック]

これらのチェックは、販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400) セッションで定義できます。

ただし、販売オーダー (ライン) の入力時、これらの自動チェックはパフォーマンスの低下につながります。このため、これらのチェックボックスは必要な場合のみオンにしてください。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： 適用なし

追加原価を再計算

次のパラメータでは、購買オーダー、販売オーダー、出荷の修正時に、追加コストを再計算する方法を定義できます。

- 購買オーダーパラメータ (tdpur0100m400) セッションの [追加コストの (再) 計算]
- 販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400) セッションの [追加コストの再計算]

これらのフィールドでは次の値を選択できます。

- [なし]
追加コストは再計算されません。追加コストは、購買オーダーライン (tdpur4101m000)、販売オーダーライン (tdsls4101m000)、および出荷 (whinh4630m000) セッションでマニュアルでメンテナンスできます。
- [対話式]
LN から、追加コストの再計算が必要かどうかの指示を求めるダイアログが表示されます。追加コストは、購買オーダーライン (tdpur4101m000)、販売オーダーライン (tdsls4101m000)、および出荷 (whinh4630m000) セッションでマニュアルでメンテナンスできますが、LN で追加コストが再計算される場合、マニュアルによる変更は失われます。
- [自動]
追加コストをマニュアルでメンテナンスできません。追加コストは、購買オーダーライン (tdpur4101m000) セッション、または販売オーダーライン (tdsls4101m000) セッションを終了するたびに、あるいは出荷 (whinh4630m000) セッションで出荷を凍結、または確認したときに再計算されます。

追加コストを再計算するたびに履歴レコードが記録されるため、パフォーマンスの低下につながります。このため、これらのフィールドによるシステムパフォーマンスへの影響を最小限に抑えたい場合は、このフィールドを [なし] または [対話式] に設定します。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes

- データベース拡張への影響：適用なし

販売オーダー優先方法

販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400) セッションの [オーダー優先方法] フィールドで、販売オーダーのソートおよび配布時のオーダー優先順位を判断する際に使用する方法を選択できます。

このフィールドでは次の値を選択できます。

- [シミュレーション]
シミュレーションコードで定義されているフィールドの値に基づいて優先順位が求められます。
- [納期]
納期に基づいて優先順位が求められます。

このフィールドを [シミュレーション] に設定すると、パフォーマンスが低下します。このため、可能な限り、このフィールドは [納期] に設定してください。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響：Yes
- データベース拡張への影響：適用なし

使用しないコンセプト、履歴、アーカイブ、および削除

使用しないコンセプトを無効にする

販売または調達において、あるモジュールまたはコンセプトを使用しない場合、パフォーマンスを保つためそのモジュールまたはコンセプトを無効にします。

以下のチェックボックスをオフにすると、該当のモジュール/コンセプトは使用されません。

- 要求
購買パラメータ (tdpur0100m000) セッションの [要求]
- 見積依頼
購買パラメータ (tdpur0100m000) セッションの [見積依頼]
- 購買契約
購買パラメータ (tdpur0100m000) セッションの [契約]
- 購買スケジュール
購買パラメータ (tdpur0100m000) セッションの [スケジュール]
- 販売業者評価
購買パラメータ (tdpur0100m000) セッションの [販売業者評価]
- 販売見積
販売パラメータ (tdsls0100s000) セッションの [見積]
- 販売オーダー分割払
販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400) セッションの [分割払の導入]

- 販売契約
販売パラメータ (tdsls0100s000) セッションの [契約]
- 販売スケジュール
販売パラメータ (tdsls0100s000) セッションの [スケジュール]
- 手数料
手数料/リベートパラメータ (tdcms0100s000) セッションの [手数料を計算]
- リベート
手数料/リベートパラメータ (tdcms0100s000) セッションの [リベートを計算]
- 販売促進
価格設定パラメータ (tdpcg0100m000) セッションの [販促の導入]

以下のチェックボックスもパフォーマンスに影響します。

- 販売見積
販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400) セッションの [実際販売見積チェック]
- 購買見積
購買オーダーパラメータ (tdpur0100m400) セッションの [実際見積をチェック]
- 販売業者評価
購買オーダーパラメータ (tdpur0100m400) セッションの [販売業者評価をチェック]

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： 適用なし

履歴データの削除

次のパラメータでは、LN で購買オーダー、購買スケジュール、販売オーダー、および販売スケジュールに関する履歴データを削除する方法を定義できます。

- 購買オーダーパラメータ (tdpur0100m400) セッションの [オーダー履歴データの削除方法]
- 販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400) セッションの [オーダー履歴データの削除方法]

これらのフィールドでは次の値を選択できます。

- [オーダー別]
オーダーまたはスケジュールの履歴データは、オーダー、またはスケジュールごとにそれぞれ削除されます。
- [オーダーライン別]
オーダー/スケジュールの履歴データはオーダー/スケジュールラインごとに削除されます。
オーダー/スケジュールの最終オーダー/スケジュールライン履歴が削除されると、オーダー/スケジュールヘッダの履歴データも削除されます。

このフィールドを [オーダーライン別] に設定すると、削除される履歴データを増やすことができます。これによりデータの増加が抑えられるため、パフォーマンスが改善されます。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： Yes

履歴データのログ

以下のパラメータでは、履歴データを調達に記録するかどうかを指定し、記録する場合はそのタイミングと方法も設定できます。

購買要求	
フィールド	セッション
[購買要求履歴のログ]	購買要求パラメータ (tdpur0100m200)
購買契約	
[契約処理のログ]	購買契約パラメータ (tdpur0100m300)
[契約ライン処理のログ]	購買契約パラメータ (tdpur0100m300)
購買スケジュール	
[スケジュール履歴のログ]	購買スケジュールパラメータ (tdpur0100m500)
[入力のログ記録レベル]	購買スケジュールパラメータ (tdpur0100m500)
[実際スケジュール入庫履歴のログ]	購買スケジュールパラメータ (tdpur0100m500)
購買オーダ	
[オーダ履歴のログ]	購買オーダパラメータ (tdpur0100m400)
[履歴ログの開始時点]	購買オーダパラメータ (tdpur0100m400)
[入力のログ記録レベル]	購買オーダパラメータ (tdpur0100m400)
[実際オーダ入庫履歴のログ]	購買オーダパラメータ (tdpur0100m400)

以下のパラメータでは、履歴データを販売に記録するかどうかを指定し、記録する場合はそのタイミングと方法も設定できます。

販売見積	
フィールド	セッション
[ログ履歴]	販売見積パラメータ (tdsls0100s100)
販売契約	

[契約ヘッダ処理のログ]	販売契約パラメータ (tdsls0100s300)
[契約ライン処理のログ]	販売契約パラメータ (tdsls0100s300)
販売スケジュール	
[スケジュール履歴のログ]	販売スケジュールパラメータ (tdsls0100s500)
[入力のログ記録レベル]	販売スケジュールパラメータ (tdsls0100s500)
[実際スケジュール納入履歴のログ]	販売スケジュールパラメータ (tdsls0100s500)
販売オーダー	
[オーダー履歴のログ]	販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400)
[EDI オーダー履歴のログ]	販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400)
[履歴ログの開始時点]	販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400)
[入力のログ記録レベル]	販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400)
[実際オーダー納入履歴のログ]	販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400)
[構成要素履歴を記録]	販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400)
販売オーダー - 分割払	
フィールド	セッションから取得
[オーダー履歴のログ]	販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400)
[EDI オーダー履歴のログ]	販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400)
[履歴ログの開始時点]	販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400)
[入力のログ記録レベル]	販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400)

履歴データのログを行うと、パフォーマンスが低下し、データの増加が拡大します。このため、履歴データのログでは以下に従ってください。

- 必要な場合のみ履歴をログする
- 履歴データは定期的にアーカイブして削除する

注意

購買オーダー履歴および販売オーダー/スケジュール履歴は、将来的な分析のためだけでなく、調整、遡及請求、手数料およびリベート、統計の目的でも使用されます。パフォーマンスを高めてデータの増加を防ぐために、手数料、リベート、統計などについて履歴レコードを処理した後、および調整期間の終了後に、関連する購買オーダーと販売オーダーをアーカイブして削除します。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： Yes

オーダーデータの削除

受取済購買オーダー、販売オーダー、販売スケジュールごとに、オーダーデータまたはスケジュールデータの削除で使用する方法を定義できます。

- 受取済購買オーダー
購買オーダーデータの削除で、購買オーダーのアーカイブおよび削除 (tdpur4224m000) セッションを使用する方法を指定するには、購買オーダーパラメータ (tdpur0100m400) セッションの [在庫完了時のオーダーデータの削除] フィールドを使用します。
- 販売オーダーとスケジュール
販売オーダーデータまたは販売スケジュールデータの削除で、販売オーダーのアーカイブおよび削除 (tdsls4224m000) セッションまたは販売スケジュールのアーカイブおよび削除 (tdsls3224m000) セッションを使用する方法を指定するには、販売オーダーパラメータ (tdsls0100s400) セッションの [オーダーデータの削除方法] フィールドを使用します。

これらのフィールドでは次の値を選択できます。

- [オーダー別]
オーダー/スケジュールデータはオーダーまたはスケジュールごとに削除されます。LN は、オーダー全体、またはスケジュール全体を削除できるかどうかチェックします。オーダーヘッダデータおよびオーダーラインが削除されるのは、バックオーダー数量がない場合のみです。
- [オーダーライン別]
オーダーまたはスケジュールデータはオーダー/スケジュールラインごとに削除されます。各オーダー/スケジュールラインについて、LN は削除できるかどうかチェックします。オーダーラインにバックオーダー数量がない場合、そのオーダーラインは削除されます。オーダー/スケジュールの最終オーダー/スケジュールラインが削除されると、オーダー/スケジュールヘッダデータも削除されます。

このフィールドを [オーダーライン別] に設定すると、オーダーデータまたはスケジュールデータを早い時期に削除できます。これにより、データの増加が抑えられるため、パフォーマンスが改善します。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： Yes

(履歴) データの削除およびアーカイブ

ディスク容量を節約し、システムパフォーマンスを改善するには、(履歴) データの削除、アーカイブ、または削除とアーカイブを定期的に実行します。

次のセッションで、データの削除、アーカイブ、または削除とアーカイブを実行できます。

- 要求履歴のアーカイブおよび削除 (tdpur2205m000)
- 見積依頼履歴のアーカイブおよび削除 (tdpur1204m000)
- 購買契約のアーカイブおよび削除/終了 (tdpur3203m000)
- 購買契約履歴のアーカイブおよび削除 (tdpur3202m000)
- 購買オーダのアーカイブおよび削除 (tdpur4224m000)
- 購買オーダ/スケジュール履歴のアーカイブおよび削除 (tdpur5201m000)
- 購買スケジュールのアーカイブおよび削除 (tdpur3224m000)
- 購買改訂のアーカイブおよび削除 (tdpur3222m200)
- 販売見積履歴のアーカイブおよび削除 (tdsls1203m000)
- 販売契約履歴のアーカイブおよび削除 (tdsls3202m000)
- 販売オーダのアーカイブおよび削除 (tdsls4224m000)
- 販売発行のアーカイブおよび削除 (tdsls3209m000)
- 販売スケジュールのアーカイブおよび削除 (tdsls3224m000)
- 販売オーダ/スケジュール履歴のアーカイブおよび削除 (tdsls5201m000)
- 統計のアーカイブ/削除 (tdsta2250m100)

注意

詳細は、次の情報を参照してください: アーカイブユーザガイド (U9352* JA)

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響: 適用なし
- データベース拡張への影響: Yes

原価管理レベル

さまざまなプロジェクト別原価管理レベルを選択するには、プロジェクト - 原価管理レベル (tppdm6102m000) セッションの [原価管理レベル] および [原価管理] フィールドを使用します。システムパフォーマンスを維持し、不必要なデータの増加を避けるには、本当にビジネス上の価値がある原価管理レベルのみを選択します。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： Yes

予算原価分析の生成

プロジェクトの予算原価分析を生成するには、予算原価分析の生成 (tpptc3200m000) セッションを使用します。データの増加を制限するために、予算原価分析には関連する予算ラインのみが含まれるようにします。予算原価分析に必要な予算ラインのみが含まれるようにするには、次のチェックボックスをオンにします。

- [フリー状況の予算]
- [実際状況の予算]
- [最終状況の予算]

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： 適用なし
- データベース拡張への影響： Yes

一般管理データ

1つまたは複数のプロジェクトの実際予算にもとづいて管理予算を生成するには、管理データの生成 (tpptc1230m000) セッションを使用します。

[ネットチェンジ実行] チェックボックスをオンにすると、生成プロセスにかかる時間を短縮できます。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： 適用なし

計画 PRP オーダの生成

計画 PRP オーダの生成 (tpss6200m000) セッションでは、計画 PRP オーダの生成時のシステムパフォーマンスを改善するために、次のチェックボックスをオンにすることを検討してください。

- [再スケジュールメッセージを無視]
再スケジュールメッセージが関係ない場合は、このチェックボックスをオンにします。
- [PRP 実行のネットチェンジのみを処理]
ネットチェンジ PRP 実行の所要時間は、完全生成の計画 PRP オーダ実行の場合よりも短時間ですみます。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： 適用なし

コミットメント記録

オーダコミットメントは、購買オーダの承認時にプロジェクトに記録され、商品の受取時に振り戻されます。コミットメントはプロジェクトについて今後の買掛金を追跡するために便利です。

今後の買掛を詳細に記録する必要がない場合は、データの増加を制限するために、プロジェクトパラメータ (tpdm0100s000) セッションの [コミットメント記録 (購買取引)] フィールドで納入またはなしを選択します。

ただし、いったん選択すると、運用後は変更できません。無理に変更すると、深刻な状況になります。このため、データの増加を制限するか、最適な機能性を得るかで慎重に判断する必要があります。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： Yes

プロジェクトオーダデータの削除およびアーカイブ

原価履歴で利用可能なデータを制限するには、終了したプロジェクトを定期的にアーカイブします。

詳細は、次の情報を参照してください: アーカイブユーザガイド (U9352* JA)

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響: 適用なし
- データベース拡張への影響: Yes

ジョブモード

次のセッションはジョブモードで実行できます。

- 管理データの生成 (tpptc1230m000)
- 計画 PRP オーダの生成 (tppss6200m000)
- 計画 PRP 購買オーダの転送 (tppss6230m000)
- 一括承認 (tpppc4200m000)
- 取引の処理 (tpppc4802m000)
- 実際原価管理の作成 (tpppc4803m000)

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響: Yes
- データベース拡張への影響: 適用なし

プロジェクト履歴

プロジェクトでは、予算、原価、収益を履歴に転記できます。原価と収益の履歴への転記は必須です。予算の履歴への転記はオプションです。

予算ラインの変更を追跡しない場合は、このオプションをオフにしてデータベースの増大を制限します。このためには、プロジェクト予算パラメータ (tpptc0100s000) セッションの [予算のログ履歴] チェックボックスを使用します。履歴を記録しない場合は、管理データの生成 (tpptc1230m000) セッションの [ネットチェンジ実行] チェックボックスをオンにできません。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響: 適用なし
- データベース拡張への影響: Yes

プロジェクト終了

プロジェクトに関するすべてのロジスティックおよび会計取引が完了している場合、プロジェクトをクローズします。状況が [クローズ] ではない場合、多数のセッションではクローズしていないプロジェクトもデータの処理時に対象になります。たとえそれらプロジェクトでは作業が実行されなくなっている場合でもです。これはパフォーマンスに影響します。プロジェクトのクローズに使用しているセッションをプロジェクト (tppdm6100m000) セッションの適切なメニューから開始します。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： 適用なし

労務単価検索パス

適正な労務単価の不必要な検索を避けるために、予算および原価の労務単価検索パスを正しく設定してください。プロジェクト (tppdm6100m000) セッションの [時間労務単価のパス] フィールド、および [予算労務単価のパス] フィールドで労務単価検索パスを指定します。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： 適用なし

実際原価の出力

プロジェクトで、実際原価を出力するために原価管理の出力 (tpppc4411m000) セッションを実行すると、パフォーマンスに深刻な影響を及ぼします。このセッションのパフォーマンスを上げるには、並列処理を使用できます。

並列処理を使用できるようにこのセッションを準備するには、以下の手順を実行します。

1. 原価管理の出力 (tpppc4411m000) セッションを一回実行します。
2. 並行処理の構成 (ttaad7520m000) セッションを開始し、原価管理の出力 (tpppc4411m000) 項目をダブルクリックします。
3. [サーバ] フィールドに **5** と指定します。
4. [モード] フィールドで該当する値を選択します。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： 適用なし

並列処理の概念

処理速度を高めるために、一部の計画実行は複数のプロセッサ (CPU) で並列して実行できます。このためには、これらのセッションを複数の bshell で実行するように設定します。各 bshell はそれぞれの CPU で実行できます。

このセクションでは、一般コンセプトについて説明します。セットアップの詳細については、計画用に並列処理を設定するには (ページ 46)を参照してください。

並列処理の概念の適用

並列処理を利用できるセッションとして、以下の計画セッションがあります。

- オーダ計画の生成 (cprrp1210m000)
- シナリオの初期化、ロール、および更新 (cprpd4200m000)
- ペギング関係の生成 (cprrp0240m000)
- 予測にもとづく計画供給の生成 (cpvmi1211m000)

注意

計画オーダを**実行レベル**に転送する処理で利用できる bshell は 1 つのみです。

bshell 間の品目の分配

オーダ計画処理では、計画品目の**フェーズ番号**を考慮します。フェーズ番号 1 の計画品目の計画は、フェーズ番号 0 のすべての計画品目が計画済になるまで開始できません。計画済になっていない状態で始めると、一部の**依存需要**が第 2 レベルで見つからない可能性があります。

複数の bshell を使用する場合、LN は次のステップを完了します。

1. LN は、bshell の最適なワークロードを動的に計算しますが、この数字はパフォーマンスパラメータ (cpcom0100m000) セッションの [サーバ別ワークロード] フィールドによって、最大値、たとえば 500 の計画品目などに制限されます。
2. LN では、フェーズ番号 0 の計画品目の 1 つのバッチが最初の bshell に割り当てられます。次に、フェーズ番号 0 の計画品目の別のバッチが 2 番目の bshell に割り当てられ、以下同様に割り当てられます。このように、フェーズ番号 0 のすべての計画品目が bshell 間で分配されます。

3. 割当済計画品目を計画するために、すべての利用可能な bshell が並列で実行されます。
4. フェーズ番号 0 のすべての計画品目が計画済になると、LN はフェーズ番号 1 の計画品目のバッチを bshell に割り当て、その後フェーズ番号 2 の計画品目を割り当て、さらに次々と割り当てます。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： 適用なし

計画用に並列処理を設定するには

処理速度を高めるために、一部の計画実行は複数のプロセッサ (CPU) で並列して実行できます。このためには、これらのセッションを複数の bshell で実行するように設定します。各 bshell はそれぞれの CPU で実行できます。

このセクションでは、設定について説明します。この概念の一般情報については、並列処理の概念 (ページ 45) を参照してください。

並列処理を設定するには、以下の手順を実行します。

1. パフォーマンスパラメータ (cpcom0100m000) セッションを開始します。
2. [サーバ別ワークロード] フィールドの適切な値を選択します。
詳細は、次の情報を参照してください: サーバ別ワークロード (ページ 48)
3. [作業を基準にしたワークロード] チェックボックスを必要に合せてオン、またはオフにします。
詳細は、次の情報を参照してください: 作業を基準にしたワークロード (ページ 48)
4. [ダイナミックワークロード計算] チェックボックスを必要に合せてオン、またはオフにします。
詳細は、次の情報を参照してください: ダイナミックワークロード計算 (ページ 48)
5. 複数の bshell で実行するセッションの [並列処理] チェックボックスをオンにします。
あるセッションについて [並列処理] チェックボックスを初めてオンにすると、このセッションが並行処理の構成 (ttaad7520m000) セッションに表示されます。
6. 並行処理の構成 (ttaad7520m000) セッションを開始し、複数の bshell で実行する必要があるセッションをダブルクリックします。
7. このセッションで使用可能な bshell の数、つまり並列プロセスの数を [サーバ] フィールドに指定します。
8. [モード] フィールドで該当する値を選択します。

注意

計画実行を開始するたびに、計画セッションで [並列処理] チェックボックスをオンにできます。ただし、並行処理の構成 (ttaad7520m000) セッションでサーバ数を一度だけ設定する必要があります。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： 適用なし

テーブルブースタ

計画処理の速度を高めるために、特定のテーブルをメモリにロードすることができます。この方法では、計算で永続記憶装置から情報を取り出さなければならない回数が減ります。

企業計画での計画実行の速度を高めるために、計画の実行時に特定のテーブルをメモリをロードするようにシステムに指示できます。テーブルブースタが使用可能なテーブルを探すには、テーブルブースタ (tcmcs0598m000) セッションを開始します。

テーブルブースタがあるテーブルの例を以下に示します。

- tcmcs001 (単位)
- tcmcs016 (季節パターン)
- tcmcs017 (季節パターン係数)

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： 適用なし

時間間隔の表示

時間数を秒単位で指定するために、LN はオーダ計画の生成 (cprrp1210m000) セッションの進捗バーに新しい情報が表示されるのを待機し、パフォーマンスパラメータ (cpcom0100m000) セッションの [時間間隔の表示] フィールドを使用します。

大量のデータを処理するセッションでは、通常、実行時情報が表示され、セッションの進捗を監視できます。ただし、画面が頻繁に更新される場合、システムパフォーマンスに影響することがあります。

このフィールドは大きな値に設定することが推奨されます。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： 適用なし

サーバ別ワークロード

複数の `bshell` 間で分配される各バッチ内の品目の数を定義するには、パフォーマンスパラメータ (`cpcom0100m000`) セッションの [サーバ別ワークロード] フィールドを使用します。

並列処理ソリューションでは、最適なサーバ別ワークロードが動的に計算されます。[サーバ別ワークロード] フィールドで指定した数が上限になります。

推奨:

- 低すぎる値を指定しないでください。
- 一般に、このパラメータには 500 が妥当な値です。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響: Yes
- データベース拡張への影響: 適用なし

作業を基準にしたワークロード

LN が計画品目を計画するワークロードを見積る方法を規定するには、パフォーマンスパラメータ (`cpcom0100m000`) セッションの [作業を基準にしたワークロード] チェックボックスを使用します。

このチェックボックスがオンの場合、`bshell` 間でのワークロードの分配に使用される基準が各品目の工順構成要素になります。1つの品目の工順を構成する操作の数が多いほど、加重は大きくなります。

推奨:

- 品目工順の作業数が品目間で大きく変わる場合は、このチェックボックスをオンにしてシステムパフォーマンスを高めてください。あまり変わらない場合は、オフにしてください。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響: Yes
- データベース拡張への影響: 適用なし

ダイナミックワークロード計算

パフォーマンスパラメータ (`cpcom0100m000`) セッションの [ダイナミックワークロード計算] チェックボックスがオンの場合は、合計ワークロードが使用可能な `bshell` 間で均等に分配されます。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： 適用なし

丸め値

計画パラメータ (cprpd0100m000) セッションの [丸め値] チェックボックスがオンの場合、LN は計画実行のすべての数量を丸めます。

丸めは単位の丸め係数を基準とします。

一般に、丸めを使用して数量が必ず整数になるようにする必要があります。たとえば、電球 2.5 といった不可能なオーダを避けるために、この品目の棚卸単位の丸め係数を 1.0 に設定します。

数量を丸めることで、計画実行のシステムパフォーマンスが 10% 以上下がる場合があります。

推奨:

- 端数修正数量を必要とすることが絶対でないことがわかっている場合、たとえば、計画実行がシミュレーションに過ぎない場合、[丸め値] チェックボックスをオフにします。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： 適用なし

シナリオ開始日および終了日

シナリオの開始日と終了日を定義するには、シナリオ (cprpd4100m000) セッションの [シナリオ開始日] フィールドと [シナリオ終了日] フィールドを使用します。

シナリオの開始日から終了日までの長さは、シナリオをローリングしている場合、システムパフォーマンスに影響します。ローリング処理では、すべてのマスタ計画データを計画期間から個別の日 に再計算し、さらにそのデータを個別の日から計画期間に再計算します。

再計算処理には、シナリオの開始日まではその開始日のオープンオーダも含まれます。開始日から現在の日付までのオーダは、マスタ計画の履歴を形成します。前期に何が生じたのかを確認するには、この履歴データを使用します。ただし、履歴が長くなるほど計画処理のシステムパフォーマンスが下がります。

シナリオの開始日までの商品フローは、シナリオの開始日に 1 つのトランザクションに統合されます。シナリオの開始日までのすべての取引は見込みに過ぎないため、ペギング情報はシナリオの開始日まで使用できません。

推奨:

- シナリオの開始日から終了日までの期間が長すぎないようにしてください。
- シナリオの開始日を現在の日付から離れすぎた日に設定しないでください。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： 適用なし

固定リードタイム範囲の開始

計画品目の固定リードタイム範囲を定義するには、品目 - 計画 (cprpd1100m000) セッションの [作業タイムフェンス] フィールドを使用します。[作業タイムフェンス] フィールドを使用できるのは、計画製造オーダーのみです。

固定リードタイム範囲とは、企業計画でオーダーを計画する際に使用される固定リードタイムの時間の範囲のことです。

固定リードタイム範囲より前の場合、企業計画により、工順データに基づいて計画されます。固定リードタイム範囲を超える場合、企業計画により、固定リードタイムを使用してオーダーが計画されます。

固定リードタイム範囲は、特に製造品目に適用されます。固定リードタイム範囲を超える場合、計画実行では、計画実行中の作業が計算されないか、計画実行中の作業が保存されません。計画実行では、代わりに、計画品目の固定リードタイムを使用して計画オーダーの開始日と終了日が計算されます。作業が含まれていないオーダーをジョブショップ管理モジュールに転送することはできません。つまり、計画製造オーダーは、固定リードタイム範囲内の場合には転送できることを意味します。

固定リードタイムは、品目 - 製造 (tiipd0101m000) セッションで指定されたオーダーリードタイムから取り込まれます。この値は、工順と経済発注量に基づいて計算されます。

固定リードタイムによる計画は工順データに基づく計画より高速に処理されますが、結果の精度は劣ります。

計画購買オーダーの場合、品目 - 購買取引先 (tdipu0110m000) セッションで、計画品目の固定リードタイム範囲を定義する必要があります。リードタイムは、[リードタイム枠 (日数)] フィールドで定義します。

計画購買オーダー用に高速で概算するには、[計算リードタイム (日数)] フィールドに計算済のリードタイムを定義することができます。

固定リードタイム範囲内の場合、計画購買オーダー用に次の内容を定義することもできます。

- [内部処理時間]
- [安全時間]
- [供給時間]
- [輸送時間(日数)]

推奨:

- [作業タイムフェンス] フィールドにあまり大きな日数を入力しないでください。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes

- データベース拡張への影響： Yes

オーダ範囲

計画品目のオーダ範囲を定義するには、品目 - 計画 (cprpd1100m000) セッションの [オーダ範囲] フィールドを使用します。

オーダ範囲は、企業計画が供給を計画するためにオーダ基準計画を使用する期間です。

オーダ計画の生成 (cprpd1210m000) セッションは、オーダ基準計画を実行しますが、計画オーダの能力計画も実行します。能力利用率を計算するために、LN は工順リードタイムとカレンダーを照合します。この処理には多くのプロセッサ時間が必要になり、パフォーマンスに影響します。オーダ範囲が非常に長い場合、計画実行のパフォーマンスが低下します。

オーダ範囲の妥当な最小値は、累計オーダリードタイムです。

[オーダ範囲] フィールドを設定、または変更する際は、範囲チェック (cprpd1200m000) セッションを実行してオーダ範囲をチェックし、場合によっては調整できます。詳細については、[オーダ範囲] フィールドの [ヘルプ] フィールドを参照してください。

推奨:

- [オーダ範囲] フィールドの日数を大きくしすぎないでください。
- [オーダ範囲] フィールドの値をチェックするには、範囲チェック (cprpd1200m000) セッションのフィールドを使用します。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： 適用なし

計画範囲

計画品目の計画範囲を定義するには、品目 - 計画 (cprpd1100m000) セッションの [計画範囲] フィールドを使用します。

計画範囲は、LN が品目について計画データをメンテナンスする期間です。

計画品目の品目マスタ計画をメンテナンスする場合、マスタ計画の生成 (cprmp1202m000) セッションは何よりもクリティカル能力所要量を計算して資源マスタ計画を計算します。この計算は、システムパフォーマンスに大きく影響します。計画範囲により、LN でマスタ計画を計算する必要がある期間、および必要な計算時間が決まります。

[計画範囲] フィールドを設定、または変更する際は、範囲チェック (cprpd1200m000) セッションを実行してオーダ範囲をチェックし、場合によっては調整できます。詳細については、[計画範囲] フィールドの [ヘルプ] フィールドを参照してください。

推奨:

- [計画範囲] フィールドの日数を大きくしすぎないでください。

- [オーダ範囲] フィールドの値をチェックするには、範囲チェック (cprpd1200m000) セッションを使用します。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： 適用なし

確約可能在庫範囲

計画品目の確約可能在庫範囲を定義するには、品目 - 計画 (cprpd1100m000) セッションの [確約可能在庫範囲] フィールドを使用します。

確約可能在庫範囲は、LN で有効在庫、および確約可能在庫のチェックを実行する期間です。

有効在庫/確約可能在庫範囲を超えると、LN は、能力および構成要素が無制限であるとみなします。

確約可能在庫範囲を長くすると、有効在庫チェックのシステムパフォーマンスが低下します。

推奨:

- [確約可能在庫範囲] フィールドの日数を大きくしすぎないでください。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： 適用なし

マスタ計画メンテナンス

品目 - 計画 (cprpd1100m000) セッションの [マスタ計画] フィールドを選択すると、計画品目について、品目マスタ計画のほか、場合によってはチャンネルマスタ計画もメンテナンスします、

品目マスタ計画、およびチャンネルマスタ計画のメンテナンスでは、大量のデータを保管する必要があります。

マスタ計画を持つ計画品目が多くあると、マスタ計画をオンライン更新する際にシステムパフォーマンスに大きく影響します。オーダの生成や商品の出庫といったトランザクションごとに、マスタ計画範囲全体でマスタ計画のすべてのフィールドを即座に更新する必要があります。このようなフィールドには、予想在庫、有効在庫、および累計有効在庫があります。

マスタ計画を持つ計画品目が多くあると、シナリオの初期化、ロール、および更新 (cprpd4200m000) セッションでシナリオをロール、または初期化する際にシステムパフォーマンスに大きく影響します。

品目マスタ計画は、次のような場合にメンテナンスします。

- 計画品目に需要予測を作成する必要がある
- 品目の製造が工場のボトルネックである

- 品目が顧客要求分岐点にある。つまり、品目が製造処理、またはロジスティック処理の最後の大きなストックポイントで製造されている

その他の計画品目の場合、マスタ計画は必要ありません。

注意

LNは、マスタ計画なしで計画品目の有効在庫(ATP)数量、または確約可能在庫数量を計算できません。この計算では、マスタ計画は必要ありません。

推奨:

- この機能を本当に必要としない限り、[マスタ計画] フィールドをオフにします。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響: Yes
- データベース拡張への影響: Yes

資源マスタ計画をメンテナンス

資源マスタ計画は、ある資源の使用能力の概要を時系列で示すものです。企業計画の資源は、ワークセンタを表します。

シナリオを初期化する場合、資源(cprpd2100m000)セッションで[資源マスタ計画をメンテナンス]フィールドが選択されている資源ごとに、資源マスタ計画を生成します。

[確約可能在庫でクリティカル]

確約可能在庫能力チェック中、[確約可能在庫でクリティカル]チェックボックスがオンの計画品目の工順にある、すべての資源の確約可能在庫累計能力をチェックする必要があります。

LNで資源マスタ計画がメンテナンスされている資源が多いほど、シナリオの初期化で生じるシステムパフォーマンスの影響が大きくなります。

推奨:

- この機能を本当に必要としない限り、[資源マスタ計画をメンテナンス]フィールドをオフにします。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響: Yes
- データベース拡張への影響: Yes

作業保管範囲

資源の作業保管範囲を定義するには、[資源マスタ計画をメンテナンス] セッションの [作業保管範囲] フィールドを使用します。

資源の作業保管範囲は、LN で計画オーダーについて作業が保存される将来の稼働日数です。

作業保管範囲を超える計画オーダーの場合、計画オーダーの使用能力を分析することはできません。また、計画オーダーを実行レベルに転送することもできません。

作業保管範囲は少なくとも、関連資源で製造される計画品目の中で最も長いタイムフェンスと同じ長さでなければなりません。

作業保管範囲の値を大きくすると、データの増え方も大きくなります。

推奨:

- [作業保管範囲] フィールドの日数を大きくしすぎないでください。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響：適用なし
- データベース拡張への影響：Yes

固定オーダー数量

特定の品目に固定オーダー数量を使用する場合、その品目のすべてのオーダーは同じオーダー数量になります。数量を増やす必要がある場合、LN は同じ品目、および同じ期日で複数のオーダーを生成します。

例

需要	2000
[固定オーダー数量]	100
結果	数量 100 の 20 の計画オーダー

例 1: 妥当な値

需要量が非常に多く、固定オーダー数量が少ない場合、LN は多数の計画オーダーを生成します。

需要	100000
[固定オーダー数量]	10
結果	数量 10 の 10000 の計画オーダー

例 2: 大きな値

製造品目に固定オーダー数量を定義するには、品目 - オーダ処理 (tcibd2100m000) セッションの [固定オーダー数量] フィールドを使用します。

購買品目に固定オーダー数量を定義するには、品目 - 購買取引先 (tdipu0110m000) セッションの [固定オーダー数量] フィールドを使用します。

計画品目 - 最適化されたロットサイズ (cprao3110m000) セッションは、最適なロットサイズを計算します。

計画処理中、LN は個別の計画品目ごとに所要量と計画オーダーをメモリに保存します。所要量は非常に多いが、ロットサイズは非常に少ない場合、計画実行時に非常に大きな処理能力が必要になります。

推奨:

- 固定オーダー数量を使用する場合は、十分に大きな数量にしてください。品目の予定数量を考慮してください。
- 最適なロットサイズを計算するには、計画品目 - 最適化されたロットサイズ (cprao3110m000) セッションを使用します。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響: Yes
- データベース拡張への影響: Yes

ペギング範囲

計画パラメータ (cprpd0100m000) セッションで、[ペギング範囲] フィールドにペギング範囲を入力できます。

ペギング範囲は、オーダー基準計画でペギング関係を生成する将来の日数です。LN はこの範囲を超えた取引日の取引についてはペギング関係を記録しません。

ペギング範囲を短くするほど、システムパフォーマンスは向上しますが、提供されるペギング情報は少なくなります。

推奨:

- オーダー範囲の一部にしかペギング情報を使用しない場合は、オーダー範囲のその部分に関して [ペギング範囲] フィールドを設定します。
- ペギング情報を使用しない場合、[ペギング範囲] フィールドは 0 に設定します。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： Yes

トップダウン品目選択

オーダー計画の生成 (cprrp1210m000) セッションで、[子品目を含む] チェックボックスをオンにすると、企業計画で品目選択が拡張され、部品表 (BOM)、供給関係、一般品目と考えられる製品バリエーション間の関係といった、マルチレベル構造が考慮されます。

[開始計画品目] および [終了計画品目] フィールドで指定した計画品目の範囲、または LN がボトムアップ品目選択の結果として選択範囲に含める任意の品目について、LN は次の内容で品目選択を拡張します。

- 部品表の構成要素
- 供給関係 (cprpd7130m000) セッションで指定した供給品目
- 指定された品目範囲に含まれる一般品目に対する、一般部品表の構成要素
- 派生元品目: 製造のプロジェクト管理モジュールで、指定された品目範囲に含まれる任意のプロジェクト品目の製造に使用する一般品目または通常品目

単一の計画品目のオーダー計画を実行する場合、[子品目を含む] チェックボックスで有効なオプションが提供されています。ただし、すべての計画品目 (全範囲) のオーダー計画を実行する場合、[子品目を含む] チェックボックスの設定によって最終結果に相違が生じることはありません。この場合、[子品目を含む] チェックボックスをオンにしても、計画実行の速度が低下するだけです。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： 適用なし

計画品目の数

品目の需要の予想に基づいて品目の供給を計画するには、その品目のオーダーシステムを [計画] に設定し、品目 - 計画 (cprpd1100m000) セッションで計画品目を作成して関連するデータをメンテナンスします。

倉庫の品目コードとクラスタの組み合わせごとに計画品目を 1 つ作成できます。

企業計画パッケージで、これらの計画品目の供給が計画されます。

統計在庫管理 (SIC)、時系列オーダーポイント (TPOP)、カンバン、オーダー管理/個別供給などの計画品目を使用しないオーダーシステムと方法があります。

また、品目をフロア在庫としてジョブショップで使用可能にすることができます。

計画品目の数が増えると、計画プロセスのパフォーマンスが低下します。通常は、すべての品目とすべてのクラスタに計画品目を作成する必要はありません。

推奨:

- すべての品目について、統計在庫管理 (SIC)、時系列オーダーポイント (TPOP)、カンバン、オーダー管理/個別供給などの中から、最適な計画方法を検討します。
- パッケージの計画アルゴリズムが必要な場合は、企業計画のみを使用します。
- 品目が製造の資材で、廉価である場合、その品目をフロア在庫として使用可能にします。
- すべてのクラスタに品目に計画品目を作成しないでください。本当に必要なクラスタのみに計画品目を作成してください。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響: Yes
- データベース拡張への影響: Yes

構成確約可能在庫チェック精度

構成確約可能在庫チェック精度を定義するには、計画パラメータ (cprpd0100m000) セッションの [構成確約可能在庫チェック精度] フィールドを使用します。構成確約可能在庫チェック精度は、構成確約可能在庫チェックの時間スケール上の詳細レベルです。

例

[構成確約可能在庫チェック精度] フィールドを 1 日に設定した場合、企業計画において、要求されたオーダー日付にオーダー数量を確約できるだけの十分な有効在庫がないことがわかると、企業計画で構成要素の利用性がチェックされ、オーダーを次の日には確約できるかどうか、といったことがわかります。

[構成確約可能在庫チェック精度] フィールドを 1 時間に設定した場合、企業計画で要求されたオーダー日付にオーダー数量を確約できるだけの十分な有効在庫がないことがわかると、企業計画は構成要素の利用性をチェックし、オーダーを 1 時間後には確約できるかどうか、といったことがわかります。

すべての構成確約可能在庫チェック精度を計画期間と同じにするには、単位フィールドを [計画期間の定義] に設定します。

このフィールドの値が短いほどオーダー確約精度は上がりますが、システムのパフォーマンスが低下します。

推奨:

- 構成確約可能在庫チェックに必要な精度は慎重に検討してください。
- 実際にはオーダー確約を時間レベルで実行しないのなら、構成確約可能在庫チェック精度を 1 時間に設定しないでください。
- 週レベルのオーダー確約で十分な場合は、構成確約可能在庫チェック精度を 7 日に設定します。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響: Yes

- データベース拡張への影響：適用なし

有効在庫オンライン更新

オーダー引受をサポートするために有効在庫を使用する場合、有効在庫は常に最新でなくてはなりません。有効在庫を更新するには、次のいずれかの方法を選択します。

- オンライン更新。計画または実際の在庫処理が記録されるときに実行します
- オフライン更新。品目マスタ計画が更新されるときに実行します

すべての計画品目で有効在庫オンライン更新のオンとオフを切り替えるには、計画パラメータ (cprpd0100m000) セッションの [企業計画で有効在庫をオンライン更新] チェックボックスを使用します。

[企業計画で有効在庫をオンライン更新] チェックボックスがオンの場合に特定の計画品目の有効在庫オンライン更新のオンとオフを切り替えるには、品目 - 計画 (cprpd1100m000) セッションの [有効在庫オンライン更新] チェックボックスを使用します。

注意

マスタ計画がない品目に有効在庫機能を使用する場合、有効在庫オンライン更新は必要ありません。この場合、有効在庫は常にオンラインで計算されます。

有効在庫のオンライン更新ではさらに多くのシステムパフォーマンスが必要になり、販売オーダーの入力時は特に多くなります。

推奨:

- 有効在庫機能を使用しない場合、計画パラメータ (cprpd0100m000) セッションの [企業計画で有効在庫をオンライン更新] チェックボックスをオフにします。
- マスタ計画がない計画品目の場合、その品目の有効在庫機能を使用しないのであれば、品目 - 計画 (cprpd1100m000) セッションの [有効在庫オンライン更新] チェックボックスをその品目についてオフにしてください。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響：Yes
- データベース拡張への影響：適用なし

販売の確約可能在庫チェック

計画パラメータ (cprpd0100m000) セッションの [販売の確約可能在庫チェック] チェックボックスをオンにすると、LN は品目の販売オーダーがクローズされるときに確約可能在庫 (CTP) チェックを実行します。

確約可能在庫 チェックでは、販売オーダーの入力時にさらに多くのシステムパフォーマンスが必要になります。

推奨:

- 確約可能在庫 (CTP) 機能が必要ない場合は、計画パラメータ (cprpd0100m000) セッションの [販売の確約可能在庫チェック] チェックボックスをオフにします。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響: Yes
- データベース拡張への影響: 適用なし

オンラインフェーズ番号更新

計画パラメータ (cprpd0100m000) セッションで [オンラインフェーズ番号更新] チェックボックスがオンの場合、LN は 部品表 (BOM)、または クリティカル部品表 (BCM) で変更が生じると、品目および計画単位の フェーズ番号 を即時更新します。

フェーズ番号を個別に更新するには、フェーズ番号の計算 (cprpd6200m000) セッションを使用します。

マスタ基準計画実行、または オーダ基準計画実行 で、LN はフェーズ番号が正しいかどうかをチェックします。フェーズ番号が正しくない場合、LN はフェーズ番号を更新して必要であれば計画実行を再開します。

[オンラインフェーズ番号更新] チェックボックスがオンの場合、部品表 (BOM)、または クリティカル部品表 (BCM) を修正する場合に LN で実行しなければならない作業量が増えます。このため、LN でこれら修正の処理時間が長くなります。

オンラインでフェーズ番号を更新せず、フェーズ番号の計算にセッションを使用していない場合、計画実行は間違ったフェーズ番号を見つけることがあります。この場合、計画実行が遅れることになります。マスタ基準計画実行 と オーダ基準計画実行 は、この場合影響を受けます。

推奨:

- BOM、または BCM を修正してから計画実行を実行する場合は、計画パラメータ (cprpd0100m000) セッションの [オンラインフェーズ番号更新] チェックボックスをオフにし、最初にフェーズ番号の計算 (cprpd6200m000) セッションを実行してください。
- BOM が修正されている場合、すべての計画実行の前にフェーズ番号の計算 (cprpd6200m000) セッションを実行したくないときは、計画パラメータ (cprpd0100m000) セッションの [オンラインフェーズ番号更新] チェックボックスをオンにします。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響: Yes
- データベース拡張への影響: 適用なし

資源マスタ計画をオンライン更新

計画パラメータ (cprpd0100m000) セッションの [資源マスタ計画をオンライン更新] チェックボックスがオンの場合、マスタ基準計画実行、およびオーダ基準計画実行のシステムパフォーマンスは低下します。

推奨:

- 計画パラメータ (cprpd0100m000) セッションの [資源マスタ計画をオンライン更新] チェックボックスをオフにします。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響: Yes
- データベース拡張への影響: 適用なし

部品表マスターデータ

部品表レベル数

部品表を設定する場合は、部品表レベル数を制限します。部品表レベルが多いほど複雑になるため、パフォーマンスの低下につながるほか、データの増加が拡大します。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： Yes

フロア在庫

取引の数を減らすには、部品表資材をフロア在庫として部品表資材を定義します。これにより、データの肥大化が抑制され、パフォーマンスに良い影響を与えます。

特定の資材をフロア在庫として定義するには、品目 - 倉庫管理 (whwmd4500m000) セッションでその資材の [フロア在庫] チェックボックスをオンにします。フロア在庫品目は カンバン を使用してジョブショップに納入します。これにより、取引の数が減少します。フロア在庫の原価を加算するには、付加費用 を使用します。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： Yes

ファントム

ファントムの使用を制限します。ファントムを部品表に追加する場合、製造オーダーを作成して管理する時間がさらに必要になります。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： Yes

工順マスタデータ

複数作業に使用する資材

同じ資材を複数の連続作業で使用する場合、製造オーダの最初に資材を出庫することが推奨されます。このため、部品表 (tibom1110m000) セッションでは部品表ラインの [作業] フィールドに 0 を入力します。パフォーマンスを改善するためには、部品表ライン - 資材-工順関係 (tibom0140m000) セッションで資材-工順関係を定義しないでください。

製造オーダの開始時にファントムに必要な資材を出庫するには、品目-製造 (tiipd0101m000) セッションで [作業 0 を次の項目の先頭にする] フィールドを [オーダ] に設定します。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： Yes

マイクロ工順

工順は、複数の作業で構成できます。パフォーマンスとデータ増加の観点から言えば、作業が増えるたびに計画に伴う作業も増えます。

計画に伴う作業は必要ないが、作業に関する情報を作業場の従業員に単に伝えたい場合は、**マイクロ工順**を使用します。マイクロ工順では、作業を新たに作成することなく段階的な情報を提供することができます。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： Yes

作業を伴わない製造オーダ

製造オーダの場合は、必ずしも作業を設定する必要はありません。作業を伴わない製造オーダは、結果として計画が速くなります。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： Yes

バックフラッシュ

バックフラッシュ方法

製造オーダーパラメータ (tisfc0100s000) セッションの [バックフラッシュ方法] フィールドが自動の場合、数量またはオーダーが完了としてレポートされるたびに、資材が自動バックフラッシュされます。自動バックフラッシュにより、完了プロセスのパフォーマンスは減速します。

稼働時間外にバッチジョブでバックフラッシュ処理を実行するには、[バックフラッシュ方法] フィールドをマニュアルに設定します。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： Yes

倉庫オーダーを含まないバックフラッシュ

製造オーダーパラメータ (tisfc0100s000) セッションの [倉庫オーダーを含まないバックフラッシュ] チェックボックスがオンの場合、バックフラッシュ処理中に倉庫オーダーは作成されません。これにより、バックフラッシュ処理および製造オーダー発行処理のパフォーマンスが向上し、倉庫管理におけるデータベースの肥大化が抑制されます。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： Yes

ジョブにおけるバックフラッシュ

製造オーダーパラメータ (tisfc0100s000) セッションの [バックフラッシュ方法] フィールドが自動の場合、数量が完了とレポートされるたびに、バックフラッシュが実行されます。対話式を選択すると、数量が完了になった後でバックフラッシュを実行するかどうかを選ぶことができます。

[バックフラッシュ方法] フィールドが [マニュアル] である場合、資材をバックフラッシュするには、資材および時間のバックフラッシュ (tisfc0220m000) セッションを使用します。[完了した作業のみ] チェックボックスがオンの場合、数量が完了するだけでなく、作業完了後にのみバックフラッシュが実行されます。ジョブを作成すると、稼働時間外にバックフラッシュを実行できます。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： Yes

プロジェクト管理

プロジェクト管理の標準オーダー品目

販売オーダー (プロジェクト PCS) 構造の生成 (tdsls4244m000) セッションで販売オーダーから PCS プロジェクトを生成する場合、オーダー方針が [Yes] の品目に品目構造を生成する方法を選択する必要があります。

- [標準オーダー]
- [受注設計]

[標準オーダー] を選択した場合、LN は製品構造のどのレベルにもカスタマイズ部品表やカスタマイズ工順を作成しません。つまり、特定のプロジェクトに関して部品表や工順を変更することはできなくなります。プロジェクト (tipcs2101m000) セッションの [承認済設計] チェックボックスがオフになっている点に注意してください。

[受注設計] ではなく、[標準オーダー] を選択した場合、データベースの増加が制限されるためシステムパフォーマンスが改善されます。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： Yes

原価構成別中間結果

PSC プロジェクトの中間売上原価 (COGS) および中間収益を計算するには、中間収益の承認を使用します。

プロジェクト管理パラメータ (tipcs0100m000) セッションの [原価構成要素別に中間売上原価と収益を転記] チェックボックスの設定によって、プロジェクト詳細 (tipcs2130m000) 詳細セッションの [原価構成要素別に中間売上原価と収益を転記] チェックボックスが、販売オーダーラインから生成される PCS プロジェクトに対してどのように設定されるのかが決まります。このプロジェクトの生成は、販売オーダー (プロジェクト PCS) 構造の生成 (tdsls4244m000) セッションを使用して実行します。

このチェックボックスがオンの場合、中間売上原価が詳細原価構成要素別に指定されます。詳細な中間売上原価を表示してメンテナンスするには、原価構成要素別売上原価 (tipcs3191m000) セッションを使用します。

このチェックボックスがオフの場合、中間売上原価は詳細原価構成要素によって指定されません。その代わりに、中間売上原価はプロジェクト管理パラメータ (tipcs0100m000) セッションの [中間転記の一般原価構成要素] フィールドで指定された原価構成要素にもとづいて転記されます。

[原価構成要素別に中間売上原価と収益を転記] チェックボックスをオフにした場合、データの増加が抑えられるため、システムパフォーマンスが改善されます。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： Yes

プロジェクト管理 (PCS) を伴わない製品構成 (PCF)

製品構成 (PCF) モジュールは柔軟性に優れており、非常に複雑な構造も設定することができます。ただし、構造が複雑になるほど、システムパフォーマンスが低下します。

製造では、PCS プロジェクトを使用しなくとも PCF を使用できます。PCS での処理数が減るため、システムパフォーマンスが改善されます。プロジェクト管理 (PCS) を使用しなくとも PCF を設定するには、品目 (tcibd0501m000) セッションで品目タイプが [一般] の品目を作成します。品目 - オーダ処理 (tcibd2100m000) セッションで定義する品目の品目方針は、[No] でなければなりません。

製品コンフィギュレータのバージョン

製品構成 (PCF) モジュールは柔軟性に優れており、非常に複雑な構造も設定することができます。ただし、構造が複雑になるほど、システムパフォーマンスが低下します。

製品コンフィギュレータのバージョンを指定するには、製品構成パラメータ (tipcf0100m000) セッションを使用します。[製品コンフィギュレータのバージョン] フィールドで [オブジェクトバージョン] を選択すると、システムパフォーマンスが大幅に改善されます。

[オブジェクトバージョン] は操作的な状況で使用できます。ランタイム時、制約は製品コンフィギュレータによってオブジェクトとして直接実行されます。このため、何度も制約を読み込んで解釈する必要やコンパイルする必要がありません。インタプリタバージョンと比較すると、オブジェクトバージョンは制約が複雑な場合ほど、パフォーマンスが大幅に改善されます。オブジェクトバージョンを使用する前に、構成可能品目別制約のコンパイル (tipcf2201m000) セッションですべての制約をコンパイルする必要があります。この処理を実行するには、[Enterprise Server] のコンパイラ 'bic6.2' が必要です。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響: Yes
- データベース拡張への影響: 適用なし

組立管理 (ASC) での取引処理

組立管理パラメータ (tiase0100m000) セッションの [取引処理] フィールドで処理する取引レベルを選択できます。

- [ラインステーション基準]
- [オーダ基準]

パフォーマンスとデータ増加の観点から、大量データが処理される環境では [ラインステーション基準] 設定が推奨されます。各ラインステーションのラインステーションオーダデータは、1 つのクラスタ化されたラインステーションオーダ (CLSO) に日単位で収集されます。処理は総計 (ラインステーション) レベルで行われます。ラインステーション基準の取引処理を使用すると、期間ごとに製造結果が返されます。このため、処理数が大幅に減るため、システムパフォーマンスが改善されます。

注意

このパラメータは導入時にのみ設定できます。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： Yes

ジョブショップ管理

ワークセンタ別会計取引

製造オーダーパラメータ (tisfc0100s000) セッションで、ワークセンタ別または製造オーダー別のどちらでジョブショップ管理の会計結果を格納するかは、[ワークセンタ別会計取引] フィールドを使用して決定します。

- [ワークセンタ別会計取引] チェックボックスをオンにした場合、会計結果はワークセンタ別に格納されます。効率結果はワークセンタ別に分析されます。追加で転記されますが (追加の完成品単位原価データ)、パフォーマンスが悪化します。
- [ワークセンタ別会計取引] チェックボックスをオフにした場合、会計結果は製造オーダー別に格納されます。すべての会計取引が製造オーダー計算オフィスに転記されます。これは、仕掛品振替の会計取引が不要であることを意味します。結果は、計算オフィスレベルで計算されます。これは、ワークセンタレベルほど詳細ではありません。したがって、[ワークセンタ別会計取引] チェックボックスをオフにするとパフォーマンスが向上します。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： Yes

仕掛品振替方法

製造オーダーパラメータ (tisfc0100s000) セッションの [ワークセンタ別会計取引] チェックボックスがオンの場合、[仕掛品振替方法] フィールドを使用して、仕掛品がワークセンタから次のワークセンタに振り替えられるタイミングを指定します。次のオプションから選択できます。

- [常に]
数量が完了とレポートされたときに、振替が行われます。納入ワークセンタは、受取ワークセンタと別にする必要があります。
- [完了時のみ]
作業全体が完了とレポートされたときに、振替が行われます。納入ワークセンタは、受取ワークセンタと異なります。

設定が [常に] の場合、数量が完了とレポートされるたびに、会計取引が行われます。設定が [完了時のみ] の場合、作業全体が完了したときのみ、会計取引が行われます。そのため、[完了時のみ] に設定すると、取引が少なくなり、データベースの肥大化が抑制され、製造オーダーの完了プロセスのパフォーマンスが向上します。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： Yes

価格差異の転記方法

製造オーダーパラメータ (tisfc0100s000) セッションの [価格差異の転記方法] フィールドの設定が適用なしの場合、製造結果は追加の計算差異に総計されます。一部の詳細が失われますが、取引の数が制限されます。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： Yes

能率差異の転記方法

製造オーダーパラメータ (tisfc0100s000) セッションの [能率差異の転記方法] フィールドの設定が適用なしの場合、製造結果は追加の計算差異に総計されます。一部の詳細が失われますが、取引の数が制限されます。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： Yes

入庫転記の実際標準原価

製造オーダーパラメータ (tisfc0100s000) セッションの [完成品入庫転記] チェックボックスの設定、および評価方法はシステムパフォーマンスとデータの増加に影響します。次の状況があります。

- [完成品入庫転記] チェックボックスがオン、評価方法が固定振替価格ではない
[完成品入庫転記] チェックボックスがオン、品目/倉庫レベルの在庫評価方法が **FIFO**、**LIFO**、**MAUC**、**ロット価格**、**シリアル価格**などの実際原価計算評価方法の場合、完成品はそれぞれの実際製造オーダー原価で在庫に入庫するため、生じる差異転記の数は制限されます。つまり、価格差異転記と能率差異転記は実行されませんが、追加計算オフィス差異が特に [ワークセンタ別会計取引] チェックボックスがオンの場合に生じます。製造オーダーパラメータ (tisfc0100s000) セッションで定義されている差異の転記方法は使用されません。
- [完成品入庫転記] チェックボックスがオン、評価方法が固定振替価格
[完成品入庫転記] チェックボックスがオン、品目/倉庫レベルの在庫評価方法が **FTP** の場合、差異転記は JSC 別に実行されます。LN は在庫差異を処理しますが、これは在庫差異 (whina1516m000) セッションで表示できます。
- [完成品入庫転記] チェックボックスがオフ、評価方法が固定振替価格ではない
[完成品入庫転記] チェックボックスがオフ、品目/倉庫レベルの在庫評価方法が **FIFO**、**LIFO**、**MAUC**、**ロット価格**、**シリアル価格**などの実際原価計算評価方法の場合、差異転記は JSC 別に実行されます。LN は在庫差異を処理しますが、これは在庫差異 (whina1516m000) セッションで表示できます。

- [完成品入庫転記] チェックボックスがオフ、評価方法が固定振替価格
[完成品入庫転記] チェックボックスがオフ、品目/倉庫レベルの在庫評価方法が固定振替価格の場合、製造差異が生じることがあり、製造オーダーパラメータ (tisfc0100s000) セッションの差異パラメータの設定に従ってログに記録されます。この結果、追加転記が生じます。

[完成品入庫転記]	在庫評価方法	データベースの増加への相対的な影響
オン	FIFO、LIFO、MAUC、ロット価格、シリアル価格	低い
オン	固定振替価格	中
オフ	FIFO、LIFO、MAUC、ロット価格、シリアル価格	高い
オフ	固定振替価格	高い

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： Yes

実際作業費レート

製造オーダーパラメータ (tisfc0100s000) セッションの [時間処理に使用するレート] フィールドは次の設定になります。

- [実際労務単価/機械費単価]
労務費および機械費は、実際の作業費レートで転記されます。従業員の作業費レートが見積作業費レートと異なる場合、価格差異転記が発生します。
- [見積作業費レート]
労務費および機械費は、見積値で転記されます。使用する詳細原価構成要素は、作業費レート (ticpr1150m000) セッションで指定します。

[見積作業費レート] を選択した場合、価格差異転記の数は減少します。ただし、作業費レート (ticpr1150m000) セッションでは、複数の原価構成要素が同じ作業原価タイプ ([労務費]、[機械費]、[機械間接費]、または [労務間接費]) に指定された場合、追加で転記されます。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： Yes

文書の出力

製造プロセスをサポートするために、数種類の文書を選択して出力できます。製造オーダーパラメータ (tisfc0100s000) セッションの [文書] タブで、必要な文書を指定します。ただし、これらの文書を出力するとシステムのパフォーマンスが低下します。そのため、必要な文書のみを出力してください。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： 適用なし

見積の凍結時点

見積の凍結時点を指定するには、デフォルト製造オーダーデータ (tisfc0102m000) セッションの [見積の凍結時点] を使用します。見積の凍結時、オーダーへの変更はすべて差異転記になり、データベースの増加が拡大し、システムパフォーマンスが悪化します。番号グループ別、または製造オーダーシリーズ別に次の値のいずれかを選択できます。

- 最初の仕掛品転送の前
- オーダー発行中
- オーダー作成中

パフォーマンスを改善するには、見積の凍結をできるだけ先延ばしにしてください。[最初の仕掛品取引の前] を選択している場合は、最初の実際転記で見積が計算されて保存されるため注意してください。つまり、最初のステップのパフォーマンスは改善されません。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： Yes

製造での履歴、アーカイブ、および削除

設計データ管理の部品表履歴

製造部品表ラインの履歴を保存するには、設計データ管理パラメータ (tiedm0100m000) セッションの [製造部品表履歴] チェックボックスをオンにします。製造部品表の履歴を保存すると、データが追加されることになります。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： 適用なし
- データベース拡張への影響： Yes

品目原価計算データの削除

品目原価計算データは原価データの一部であり、価格計算コード別に保存されます。多数の価格シミュレーションを実行すると、基本テーブルのデータが増加します。冗長な価格計算コード別原価データを削除してテーブルを空にするには、原価データの削除 (ticpr2260m000) セッションを使用します。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響：適用なし
- データベース拡張への影響：Yes

品目の標準原価計算データの削除

品目の標準原価計算データは、原価データの一部であり、品目、原価構成要素、および倉庫別にすべての標準原価 (FTP) が含まれます。データは日付有効品目データであり、原価の更新が行われるたびに新しいデータになります。

基本テーブルには、実際原価と原価履歴が含まれます。このため、基本テーブルは非常に大きくなることがあります。通常、データはしばらく保存されますが、必要なくなった時点で原価履歴のアーカイブ/削除 (ticpr2230m000) セッションを使用して削除してください。

原価を実現しながら原価データを削除するには、標準原価の実現および在庫の再評価 (ticpr2220m000) セッションの [標準原価履歴データの削除] チェックボックスをオンにします。

古い原価データは削除され、標準原価計算パラメータ (ticpr0100m000) セッションの [標準原価履歴を保持する年数] フィールドで定義されている年数が考慮されます。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響：適用なし
- データベース拡張への影響：Yes

ジョブショップ管理におけるアーカイブおよび削除

ジョブショップ管理では、以下のようにデータを分類することができます。

- 製造オーダー
- 会計取引データ
- 原価計算データ

製造オーダーを作成すると、会計取引データおよび原価計算データは自動的に作成されます。会計取引データに履歴はありません。代わりに、会計取引データのサブセットである、原価計算データを使用してください。

- 製造オーダーのアーカイブまたは削除
クローズ済の製造オーダーをアーカイブまたは削除するには、製造オーダーのアーカイブ/削除 (ticst0250m000) セッションを使用します。
- 製造オーダーの会計取引データの削除
調整済の製造オーダーの財務会計データを削除するには、製造オーダー取引の削除 (ticst3200m000) セッションを使用します。

- 原価計算履歴のアーカイブ
原価計算履歴データをアーカイブまたは削除するには、原価計算履歴のアーカイブ/削除 (ticst2250m000) セッションを使用します。

製造オーダを削除するには、製造オーダの取消 (tisfc0202m000) セッションを使用します。

注意

詳細については、アーカイブユーザガイド (U9352* JA) を参照してください。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響：適用なし
- データベース拡張への影響：Yes

組立管理での削除

組立管理には、アーカイブ機能がありません。ただし、次のデータは削除できます。

- 組立オーダ
組立オーダとクローズ済および調整済オーダの財務会計データを削除するには、状況依存 ASCデータの消去 (tiasl1200m000) セッションを使用します。
- 製品バリエーション
製品バリエーションを削除するには、製品バリエーションの消去 (tiapl3200m000) セッションを使用します。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響：適用なし
- データベース拡張への影響：Yes

プロジェクト管理での削除およびアーカイブ

「製造」での「プロジェクト管理」については、以下の点が重要です。

- 財務会計データはプロジェクト管理で削除する
プロジェクト管理プロジェクトがクローズしている場合は、プロジェクト別会計取引の削除 (tipcs3200m000) セッションを使用して財務会計データを削除します。財務会計データの削除後は、仕掛品と原価を出力できません。プロジェクト管理プロジェクトは確定クローズされるため、再開できません。データの削除後は、プロジェクトのアーカイブ/削除 (tipcs2260m000) セッションを使用してデータをアーカイブできなくなります。
- プロジェクトのアーカイブ
クローズしているプロジェクト管理プロジェクトのアーカイブ、または削除では、プロジェクトのアーカイブ/削除 (tipcs2260m000) セッションを使用します。これには財務会計データが含まれるため、このセッションを実行するとプロジェクト別会計取引の削除 (tipcs3200m000) セッションを使用する必要がなくなります。

注意

詳細については、Infor LN アーカイブユーザガイド (U9352* JA) を参照してください。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： 適用なし
- データベース拡張への影響： Yes

ロットおよびシリアルの使用

一般に、ロット品目やシリアル番号付品目を使用すると、データベースのレコード数が増加するため、システムパフォーマンスに影響します。この現象は、少量シリアル番号付品目または少量ロット品目を使用している場合は特に顕著です。少量ロット、少量シリアル番号、またはその両方が実装されている場合、すべての倉庫管理と関連する会計取引はロット、またはシリアル番号ごとに実行されるため、結果としてデータの増加が深刻になります。

システムパフォーマンスを改善し、不必要なデータの増加を避けるには、これらのコンセプトをビジネスプロセス上不可欠な場合のみ使用するようしてください。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： Yes

出庫方法

出庫方法では、最初に出庫する品目を指定します。出庫方法は、次のセッションの [出庫方法] フィールドで指定できます。

- 品目 - 倉庫管理 (whwmd4100s000)
- 品目 - 倉庫管理デフォルト (whwmd4101s000)

出庫方法には、次のオプションがあります。

- LIFO
- FIFO
- 保管場所別

「FIFO」および「LIFO」を「保管場所別」と比較すると、「FIFO」または「LIFO」を使用した場合は「保管場所別」を使用した場合よりも大幅にレコード数が増えます。これは、「FIFO」および「LIFO」の場合は、入庫がストックポイント在庫に在庫日付別に保存されるためです。ストックポイント在庫は、ストックポイント在庫 (whinr1540m000) セッションに表示されます。

たとえば、特定の倉庫の特定の品目の日付が異なる 5 つの入庫は、ストックポイント在庫 (whinr1540m000) セッションでは 5 つの別々のエントリとして登録されます。「保管場所別」を

使用すると、これらの入庫は、品目が同じ保管場所に保管されていれば、1つのエントリになります。

システムパフォーマンスに影響する不必要なデータの増加を避けるために、「FIFO」や「LIFO」を使用する特別な理由がない限り、これらではなく「保管場所別」を使用することが推奨されます。在庫評価方法の「FIFO」または「LIFO」の使用と、使用する出庫方法に関連はありません。たとえば、在庫評価方法としては「FIFO」または「LIFO」を使用し、出庫方法には「保管場所別」を使用することができます。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： Yes

クローズ済オーダのオーダライン活動の削除

状況が [クローズ] の倉庫オーダを削除せずに、不必要なデータの増加を抑えたい場合は、クローズ済倉庫オーダに定義されているオーダライン活動を削除します。クローズ済倉庫オーダのオーダライン活動を削除するには、倉庫オーダの削除 (whinh2250m000) セッションの [クローズオーダのライン活動] チェックボックスをオンにします。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： 適用なし
- データベース拡張への影響： Yes

統計在庫管理および時系列オーダポイントオーダ範囲

統計在庫管理および時系列オーダポイント在庫補充計画方法を使用する場合は、現在の計画に必要とされる以上にオーダ範囲を拡張しないでください。

在庫分析パラメータ (whina0100m000) セッションの次のフィールドで、時系列オーダポイントと統計在庫管理オーダ範囲データを設定します。

- [係数]
- [定数]

オーダの生成 (時系列オーダポイント) (whinh2201m000) セッションおよびオーダ勧告の生成 (統計在庫管理) (whina3200m000) セッションの [係数] および [定数] フィールドでは、在庫分析パラメータ (whina0100m000) セッションの時系列オーダポイントおよび統計在庫管理オーダ範囲のデータセットを上書きできます。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： Yes

品目転送に品目付加費用を割当

倉庫間の転送品目に付加費用を使用する必要がある場合とその方法を指定するには、在庫処理パラメータ (whinh0100m000) セッションの [品目転送に品目付加費用を割当] フィールドを使用します。

品目付加費用を使用すると追加転記が生じるため、データが増大し、システムパフォーマンスに影響します。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： Yes

追加費用の計算

ロット管理パラメータ (whltc0100s000) セッションの [ロット品目の購買価格における追加費用の計算] チェックボックスをオンにすると、ロット価格を計算するオーダーラインの正味購買価格に原価付加費用が追加されます。

このチェックボックスをオンにした影響が生じるのは、ロット価格に対して評価を計算する場合のみです。システムパフォーマンスに影響する不必要なデータの増加を避けるには、品目グループレベルで記録されている原価付加費用をロット品目に適用しない場合はこのチェックボックスをオフにしてください。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： Yes

ロット管理の設計改訂

ロット管理パラメータ (whltc0100s000) セッションの [ロット管理の設計改訂] チェックボックスをオンにすると、ロットに関して入庫移動または出庫移動を実行する品目の改訂を記録できます。このようにして、購買から販売まで、およびサービスから製造までの改訂を追跡できます。

改訂追跡データを作成すると、データが増加します。不必要なデータの増加を避けるには、改訂の追跡が必要な場合のみこのチェックボックスをオンにしてください。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： No
- データベース拡張への影響： Yes

発送確定保管場所数

日単位の出荷ライン数が利用可能な発送確定保管場所数に比べて多すぎる場合、ロックの問題が生じることがあります。

デフォルトでは、倉庫に使用する発送確定保管場所は 1 つです。ロックの問題とパフォーマンスの低下を避けるには、複数の発送確定保管場所を定義する必要があります。このためには、以下を実行します。

1. 倉庫 - 保管場所 (whwmd3500m000) セッションで、[発送確定] タイプの複数の保管場所を必要な倉庫に追加します。
2. 倉庫 - ドック位置 (whwmd2120m000) セッションで、倉庫に複数のドック位置を定義します。
3. ドック位置を定義するには、前のステップで定義した発送確定保管場所を選択します。
4. ドック位置を品目、取引先、またはその両方に割り当てます。できれば、作成される出庫出荷ラインの容量が最も多い取引先に割り当てます。

この結果、出庫処理では、品目、または取引先に割り当てられているドック位置が使用されます。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： 適用なし

履歴データ

在庫処理パラメータ (whinh0100m000) セッションでは、次のオブジェクトの履歴レコードの作成を有効にできます。

- 倉庫オーダ
- ASN
- 入庫
- 出荷
- 在庫所有権変更オーダ
- 引当変更オーダ
- 調整オーダ
- 循環棚卸オーダ

在庫レポートパラメータ (whinr0500m000) 詳細セッションでは、次のオブジェクトに履歴レコードが作成されるように指定できます。

- 在庫処理

- 品目出庫履歴
- 倉庫履歴別品目出庫

注意

在庫レポートパラメータ (whinr0100s000) セッションで、[品目出庫履歴] フィールド、または [倉庫履歴別品目出庫] フィールドを選択します。両方のフィールドを選択すると、各出庫が 2 回記録されます。これはシステムパフォーマンスに影響し、データの増加につながります。

履歴データは、オブジェクトのライフサイクルを記録するためにのみ使用されます。履歴データの作成を有効にするかどうかは、データ増加の影響を考慮して慎重に検討してください。オーダに対するすべての変更が追加履歴レコードになります。履歴データを使用する場合は、履歴データの削除、アーカイブ、または削除およびアーカイブを定期的に行う必要があります。

履歴データの作成が無効な状態でオブジェクトを削除すると、LN では削除したオブジェクトの履歴レコードが作成されます。この履歴レコードには、削除したオブジェクトの最終処理のみが含まれています。履歴セッションの適切なメニューからアーカイブセッションにアクセスできます。削除およびアーカイブの詳細については、削除およびアーカイブ (ページ 77) を参照してください。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響：Yes
- データベース拡張への影響：Yes

削除およびアーカイブ

ディスク容量を節約し、システムパフォーマンスを改善するために、実際倉庫オーダデータ、在庫処理データ、履歴データ (ページ 76) には、定期的な削除、アーカイブ、または削除およびアーカイブを実行してください。

履歴データの削除およびアーカイブ

次のセッションでは、履歴データの削除、アーカイブ、または削除およびアーカイブを実行できます。

- 倉庫オーダの削除/アーカイブ (whinh2255m000)
- 出荷通知履歴の削除/アーカイブ (whinh3251m000)
- 入庫履歴の削除/アーカイブ (whinh3260m000)
- 積荷/コンテナ/出荷履歴の削除/アーカイブ (whinh4251m000)
- 削除/アーカイブ循環棚卸/調整オーダ履歴 (whinh5250m000)
- 削除/アーカイブ調整オーダ履歴 (whinh5270m000)
- 在庫処理の削除/アーカイブ (whinr1200m000)
- 在庫処理の品目および倉庫別削除/アーカイブ (whinr1210m000)
- 期間別出庫の削除/アーカイブ (whinr1220m000)
- 期間および倉庫別出庫の削除/アーカイブ (whinr1230m000)
- 梱包品目処理の削除/アーカイブ (whinr1215m000)
- 扱い単位バージョン履歴の削除/アーカイブ (whwmd5231m000)

次のセッションでは、[最終処理の維持] チェックボックスをオンにして、削除するオブジェクトの最終処理を維持できます。

- 倉庫オーダの削除/アーカイブ (whinh2255m000)
- 出荷通知履歴の削除/アーカイブ (whinh3251m000)
- 入庫履歴の削除/アーカイブ (whinh3260m000)
- 積荷/コンテナ/出荷履歴の削除/アーカイブ (whinh4251m000)

このようにすることで、古いデータを削除、またはアーカイブしながら、実働会社に最終処理を維持しておくことができます。

履歴セッションの適切なメニューからアーカイブセッションにアクセスできます。

注意

詳細については、Infor LN アーカイブユーザガイド (U9352* JA) を参照してください。

実働データの削除

履歴データだけでなく、以下のオブジェクトの実働レコードも削除できます。

- 倉庫オーダ
- 扱い単位
- 入庫および出庫勧告
- 確認済出荷
- 調整オーダおよび関連データ
- 循環棚卸オーダおよび関連データ

削除セッションにアクセスするには、これらオブジェクトのセッションの適切なメニューを使用します。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： Yes

倉庫管理で使用しないコンセプトの無効化

システムパフォーマンスを改善するために、使用しないコンセプトは無効にします。使用しないコンセプトを無効にするには、該当する次のチェックボックスをオフにします。

倉庫マスタデータパラメータ (whwmd0500m000) セッション:

- [扱い単位の使用]
- [オーダ有効時の設計改訂]
- [保管条件テスト] グループボックス内のチェックボックス
- [使用中のロット管理]
- [使用中のシリアル番号付品目]

在庫処理パラメータ (whinh0100m000) セッション:

- [動的クロスドッキング]
- [直接資材供給 (DMS)]
- [輸出コンプライアンスプロバイダ]

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響: Yes
- データベース拡張への影響: 適用なし

倉庫管理者ダッシュボードの実行時間で合計を計算

ユーザプロファイル (whwmd1540m000) セッションの [実行時間で合計を計算] チェックボックスがオンの場合、倉庫管理者ダッシュボード (whinh2300m000) セッションで、LN は [オープン入庫]、[オープン出庫]、[クロスドッキング]、および [資源所要量] グループボックスの値を実行時間で計算します。

システムパフォーマンスを改善するには、このチェックボックスをオフにすることを検討してください。

[実行時間で合計を計算] チェックボックスがオフの場合、LN は次の場合にこれら合計を計算します。

- [オーダーごとに図表示] チェックボックスがオンのときにオーダーを選択した場合
- [更新合計] ボタンをクリックした場合。このボタンは、このチェックボックスと倉庫管理者ダッシュボード (whinh2300m000) セッションの [オーダーごとに図表示] チェックボックスがオフの場合に利用可能になります。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響: Yes
- データベース拡張への影響: 適用なし

自動入庫

自動入庫レコードを作成するために、LN は、自動入庫の開始 (whinh3223m000) セッションでユーザが入力した取引先、倉庫、日付、品目の範囲、または特定の選択にもとづいて、購買元取引先、倉庫、品目の組合せを最初に作成します。次に、LN はこれら組合せの条件にある入庫設定を読み取ります。

生成された入庫レコードには、入庫を実行する倉庫、品目数量、自動入庫を実行する日付などのデータが含まれます。自動入庫日になると、LN は自動入庫を実行します。

取引先、倉庫、品目の組合せを作成して条件を読み込む作業は、システムの資源を大量に使用することがあります。このため、前回実行した自動入庫の開始 (whinh3223m000) セッションで入

庫レコードが作成済の場合は、[条件の読込をスキップ] チェックボックスをオンにし、LN で自動入庫を実行する前に再度入庫レコードが作成されないようにしてください。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： 適用なし

納入の更新

納入処理中、倉庫管理は販売オーダを何度か更新します。

これらの更新を直接実行するには、在庫処理パラメータ (whinh0100m000) セッションの [販売納入の更新] フィールドで [直接] を選択します。

[分離] を選択して出荷ラインの確認と発生元販売オーダの更新の処理を 2 つの別々の処理に分割すると、パフォーマンスが改善されます。これは、納入 (whinh4139m000) セッションのテーブルの方が、出荷 - ライン (whinh4131m000) セッションのテーブルよりも大幅に小さいため効果があります。つまり、大きな出荷ラインテーブルではなく、レコード数が限られている小さな処理テーブルのみの照会が行われます。

さらにシステムパフォーマンスを改善するには、[バッチ] を選択します。このオプションでは、これらの更新を営業時間外にバッチ処理で実行できるため、ロックの問題が生じるリスクが軽減されます。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： 適用なし

輸送費の再計算

輸送レートおよび輸送費パラメータ (fmfr0100m000) セッションの [輸送費の再計算] フィールドで [自動化]、[再計算する積荷費用の状況範囲] フィールドで先に進んだ状況が選択されている場合、積荷、クラスタ、出荷の輸送費は積荷、クラスタ、出荷がマニュアルで変更されるたびに自動的に再計算されます。ただし、指定している状況にそれぞれの処理が達すると再計算は行われません。積荷、クラスタ、出荷を頻繁に変更すると、輸送費の再計算が何度も実行されることになるため、システムパフォーマンスに影響します。

パフォーマンスを高めるために、輸送費の再計算は積荷や出荷へのすべての変更が行われた後の1回のみにするか、計画と出荷処理の初期段階でのみ自動再計算を許可するようにしてください。このように設定できるように、以下のフィールドがあります。

- [輸送費の再計算]。以下のいずれかの値を選択します。
 - [対話式]
 - [番号]
- [再計算する積荷費用の状況範囲]。初期の状況を選択します。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響：Yes
- データベース拡張への影響：適用なし

実際の積荷データの更新

輸送計画パラメータ (fmlbd0100m000) セッションの [実際の積荷データの更新] フィールドで [自動再計画] が選択されている場合、実際の積荷計画は積荷計画が基準とする輸送オーダに特定の変更が加えられるたびに、自動的に再計画されます。輸送オーダの発生元オーダへの変更は、その輸送オーダにも影響します。変更が頻繁に行われると、結果として再計画も頻繁になり、システムパフォーマンスに影響することがあります。

パフォーマンスを改善するには、すべての変更が終了してから一度だけ輸送オーダを再計画する方法を検討してください。このようにする場合は、[実際の積荷データの更新] フィールドで次のいずれかを選択してください。

- [マニュアル再計画]

- [使用不可]

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： 適用なし

積荷計画変更の追跡

積荷計画および関連データへの変更を追跡するには、輸送計画パラメータ (fmlbd0100m000) セッションの [積荷計画変更の追跡] フィールドを使用します。

積荷計画変更データを追跡する正当な理由がない場合は、システムパフォーマンスを改善するために、このフィールドで [番号] を選択することを検討してください。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： 適用なし

履歴データ

輸送オーダと輸送オーダクラスタの履歴レコードの作成を有効にするには、輸送請求パラメータ (fmfri0100m000) セッションを使用します。

輸送請求書の履歴レコードの作成を有効にするには、輸送オーダ管理パラメータ (fmfoc0100m000) セッションを使用します。

輸送計画パラメータ (fmlbd0100m000) セッションの [ログ計画履歴] フィールドで、次の履歴レコードの作成を有効にできます。

- 積荷計画
- 積荷
- 出荷

履歴データは、オブジェクトのライフサイクルを記録するためにのみ使用されます。履歴データの作成を有効にするかどうかは、データの増加を考慮して慎重に検討してください。オーダに対するすべての変更が追加履歴レコードになります。履歴データを使用する場合は、履歴データの削除、アーカイブ、または削除およびアーカイブを定期的に実行する必要があります。

履歴データの作成が無効な状態でオブジェクトを削除すると、LN では削除したオブジェクトの履歴レコードが作成されます。この履歴レコードには、削除したオブジェクトの最終処理のみが含まれています。履歴セッションの適切なメニューからアーカイブセッションにアクセスできます。削除およびアーカイブの詳細については、削除およびアーカイブ (ページ 83) を参照してください。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： Yes

削除およびアーカイブ

ディスク容量を節約し、システムパフォーマンスを改善するために、実際倉庫オーダデータ、在庫処理データ、履歴データ (ページ 82)には、定期的な削除、アーカイブ、または削除およびアーカイブを実行してください。

履歴データの削除およびアーカイブ

次のオブジェクトの履歴データの削除、および/またはアーカイブを実行できます。

- 輸送オーダ
- 輸送オーダクラスタ
- 積荷計画データ
- 出荷データ
- 標準経路の日付および時刻

履歴セッションの適切なメニューからアーカイブセッションにアクセスできます。

詳細は、次の情報を参照してください: アーカイブユーザガイド (/guides/U9352HJA) (U9352* JA)

実働データの削除

履歴データだけでなく、以下のオブジェクトの実働レコードも削除できます。

- 輸送オーダ
- 輸送オーダクラスタ
- 積荷計画
- 積荷計画追跡データ
- 計画ログデータ

削除セッションにアクセスするには、これらオブジェクトのセッションの適切なメニューを使用します。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： Yes

輸送管理で使用しないコンセプトの無効化

システムパフォーマンスを改善するために、使用しないコンセプトは無効にします。請求書の照合や承認を使用しない運送業者の場合は、出荷オフィスおよび計画グループ別運送業者/LSP (fmfr0160m000) セッションの [運送業者/LSP 請求書] チェックボックスをオフにします。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： 適用なし

オーダのシグナルとブロック

さまざまなパラメータセッションでは、取引先の与信限度履歴にもとづいて、シグナル/警告を設定できるほか、オーダのさまざまな段階でユーザをブロックできます。このようなパラメータは次のとおりです。

- [与信限度を超えた場合]
- [信用再審査が期日を過ぎた場合]
- [請求書が期日を過ぎた場合]
- [取引先が不信な場合]

これらのパラメータは次のセッションで設定されます。

- コールパラメータ (tsclm0100m000)
- サービスオーダパラメータ (ts soc0100m000)
- メンテナンス販売管理パラメータ (tsmsc0100m000)

これらのパラメータを有効にするとパフォーマンスが低下します。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： 適用なし

サービスオーダチェック

サービスオーダの発行 (ts soc2200m000) セッションである範囲のサービスオーダを発行する際、LN は次のチェックを実行できます。

- [スキルをチェック]
- [プロジェクト状況をチェック]
- [在庫の利用性をチェック]
- [能力の利用性をチェック]
- [サービスキット割当をチェック]

これらのパラメータを有効にするとパフォーマンスが低下します。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： 適用なし

作業オーダーパラメータ

作業オーダーパラメータ (tswcs0100m000) セッションの [手順の設定] のいくつかを使用して、ユーザは作業オーダーフローをスムーズに管理できます。設定は次のとおりです。

- [参照活動必須]
- [計画時間必須]
- [期間のチェック]

これらのパラメータを有効にすることで、パフォーマンスへの影響を制限できます。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： 適用なし

検索パス

コールパラメータ (tsclm0100m000) およびサービスオーダーパラメータ (tssoc0100m000) セッションでは、次の検索パスを設定できます。

- [労務単価のパス]
- [[実際単位原価の検索パス]]
- [[実際販売単価の検索パス]]
- [[見積単位原価の検索パス]]
- [[見積販売単価の検索パス]]

技術員が作業にあたった時間を処理する際に適切な労務単価を検索するなど、検索パスにさらにレベルを追加すると、パフォーマンスが低下します。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： 適用なし

トランザクションログ

コールパラメータ (tsclm0100m000) セッションの [トランザクションログをコールの承認後に削除] 設定にもとづいて、サービスコール関連の取引の記録は、サービスコールの状況が [承認済] になると削除されます。これにより、データベースの増大が減ります。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響：適用なし
- データベース拡張への影響：Yes

履歴ログ

サービスでは、稼働時間分析の計算 (tsmdm3400m200) セッションまたはサービスパフォーマンスインジケータの計算 (tsmdm3400m100) セッションなどで、履歴を使用して分析を後から実行できます。履歴が記録されている場合は、定期的にアーカイブして削除する必要があります。ただし、デフォルトでは、履歴は記録されません。記録は会社のモデルで必要な場合のみ有効にします。

履歴ログのパラメータは次のセッションで設定できます。

- 契約管理パラメータ (tsctm0100m000)
- サービスオーダーパラメータ (tssoc0100m000)
- メンテナンス販売管理パラメータ (tsmsc0100m000)
- 作業オーダーパラメータ (tswcs0100m000)

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響：適用なし
- データベース拡張への影響：Yes

ログ記録設定

特定のフィールドの値の変更時にログを有効にする、さまざまなエンティティのすべてのフィールドのメンテナンスを実行するには、ログ定義 (tsmdm1190m000) セッションを使用します。ログはパフォーマンスを低下させるため、フィールドの選択は慎重に行ってください。

以下は、ログを有効にする必要があるエンティティのリストです。

- サービスオーダー (tssoc2100m000)
- サービスオーダー活動 (tssoc2110m000)
- サービスオーダー材料費 (tssoc2122m000)
- サービスオーダー労務費 (tssoc2132m000)
- サービスオーダー雑費 (tssoc2142m000)

- サービスオーダー固定価格 (tssoc2115m000)
- シリアル番号付品目 (tscfg2100m000)
- 顧客クレーム (tscmm1100m000)
- 顧客クレームライン (tscmm1110m000)
- 顧客クレーム見積 (tscmm1111m000)
- 顧客クレーム納入 (tscmm1112m000)
- 顧客クレーム在庫 (tscmm1113m000)
- 発注先クレーム要求 (tscmm1114m000)
- 顧客クレーム請求書ライン (tscmm1115m000)
- 発注先クレーム (tscmm2100m000)
- 発注先クレームライン (tscmm2110m000)
- 発注先クレーム見積 (tscmm2111m000)
- 発注先クレーム納入 (tscmm2112m000)
- 発注先クレーム在庫 (tscmm2113m000)
- 発注先クレーム請求書ライン (tscmm2115m000)
- サービスエンジニア割当 (tssoc2505m000)
- サービスオーダー固定価格 (tssoc2115m000)

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： Yes

オーダーデータのアーカイブと削除

サービスでは、サービスオーダーのクローズ処理中にサービスオーダーを履歴に書き込むか、削除できます。これは、サービス契約やサービス見積など、その他のほとんどのサービスオブジェクトでも同様です。

例

サービスオーダーのクローズ (tssoc2201m000) セッションには、次のオプションがあります。

- [サービスオーダーの削除]
- [サービスオーダーを履歴にコピー]

注意

詳細は、次の情報を参照してください: Infor LN アーカイブユーザガイド (U9352* JA)

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： 適用なし
- データベース拡張への影響： Yes

サービスで使用しないコンセプト

サービスで使用しないコンセプトがある場合は、パフォーマンスを改善するためにそのコンセプトを無効にします。

次のチェックボックスをオフにすると、それぞれの関連コンセプトが使用されなくなります。

- 以下の [マージン管理]
 - 契約管理パラメータ (tsctm0100m000)、[契約総マージン管理]
 - サービスオーダーパラメータ (tssoc0100m000)、[総マージン管理の使用]
 - メンテナンス販売管理パラメータ (tsmsc0100m000)、[総マージン管理の使用]
- 以下の [材料の利用性のチェック]
 - サービスオーダーパラメータ (tssoc0100m000)
 - メンテナンス販売管理パラメータ (tsmsc0100m000)
 - 作業オーダーパラメータ (tswcs0100m000)
- 構成管理パラメータ (tscfg0100m000) の [シリアル番号付品目グループの使用]
- 一般サービスパラメータ (tsmdm0100m000) の [交通費計算方法]、[なし] に設定
- 一般サービスパラメータ (tsmdm0100m000) の [機能要素の使用]
- 一般サービスパラメータ (tsmdm0100m000) の [有効な設計改訂]
- 一般サービスパラメータ (tsmdm0100m000) の [価格帳から割引]

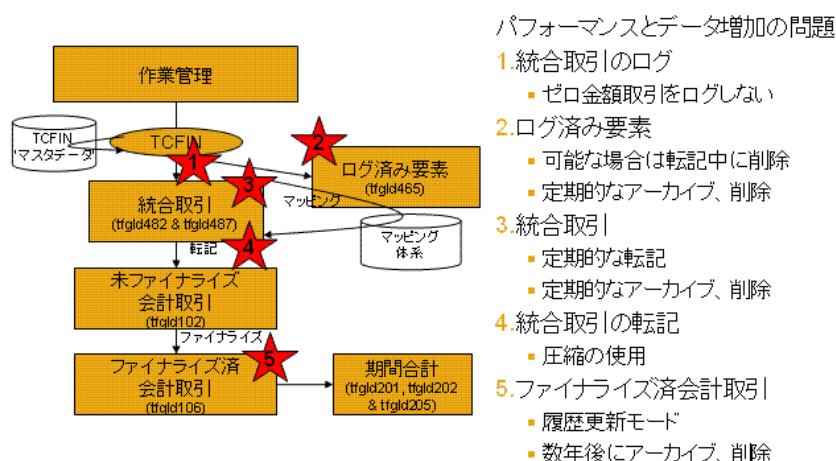
パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： 適用なし

統合取引

一般的な統合と取引フロー

次の図は、高いレベルの統合と作業管理から財務会計への取引フローを示します。



番号はパフォーマンスとデータ増加の問題が生じる可能性のある主要領域を示します。領域は次のとおりです。

1. 統合取引のログ (ページ 91)
2. ログ済要素 (ページ 92)
3. 統合取引 (ページ 92)
4. 統合取引を転記 (ページ 93)
5. ファイナライズ済会計取引 (ページ 93)

統合取引のログ

財務会計の複数の場所で、ゼロ金額の処理が発生します。たとえば、輸出の税金記帳は割合 0 です。ユーザは統合伝票タイプごとに取引を記録する必要があるかどうかを指示できます。

取引発生元別統合伝票タイプ (tcfm0110m000) セッションの [ゼロ金額のログ] チェックボックスによって、ユーザはゼロ金額取引を記録する必要があるかどうか指示できます。このチェックボックスをオフにすると、パフォーマンスが改善され、データの増加を抑えられます。

注意

この設定は、調整記帳にも適用されます。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： Yes

ログ済要素

LN では、統合取引を総勘定元帳に記帳した後にログ済要素を保存できます。これらマッピング要素は、分析のほか、マッピング体系設定のエラーによる不正な転記を修正するために使用することができます。これは、特定の転記についてユーザが不正な元帳勘定を定義した場合です。このエラーは総勘定元帳への記帳後にのみ検出できます。ただし、ログ済要素の数は統合取引のたびに大幅に増大します。

このデータ増加に対処する方法として、2つのオプションがあります。

- 転記中にログ済要素を削除
統合パラメータ (tfgld4150s000) セッションの [転記中にログ済要素を削除] チェックボックスを必ずオンにしてください。
- ログ済要素のアーカイブおよび削除
ログ済要素を保持するには、統合要素および統合取引のアーカイブ/削除 (tfgld4283m000) セッションを使用して、日単位、または週単位で統合取引と一緒にアーカイブする必要があります。またログ済要素のみをアーカイブ、または削除し、統合取引のみを保持することもできます。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： Yes

統合取引

統合取引は次の2つに分けることができます。

- 統合取引詳細
- 状況情報などの一時的詳細情報

統合取引から総勘定元帳への定期的な転記

一時的詳細情報を含むテーブルのデータ量が多すぎると、統合処理のパフォーマンスが低下します。このデータは転記処理の間に削除されます。したがって、統合処理は統合取引の転記 (tfgld4282m000) を使用して、定期的に総勘定元帳へ転記する必要があります。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： Yes

統合要素と取引のアーカイブおよび削除

統合要素および統合取引のアーカイブ/削除 (tfgl4283m000) セッションを使用し、適切なタイミングでアーカイブ会社へ統合要素と取引をアーカイブすることをお勧めします。統合要素は特定のテーブルのデータサイズに応じて、実務環境からできるだけ早く削除する必要があります。統合要素をさらにアーカイブする必要があるかどうかは、ユーザの要件によります。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： 適用なし
- データベース拡張への影響： Yes

統合取引を転記

圧縮技術を使用して、同様のプロパティを持つ統合取引を 1 つの総勘定元帳取引に圧縮することができます。

取引を圧縮するには、マッピング体系 (tfgl4573m000) セッションの [伝票の採番/集約] タブで、[借方取引の集約] および [貸方取引の集計] チェックボックスを必ずオンにしてください。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： 適用なし
- データベース拡張への影響： Yes

ファイナライズ済会計取引

通常、ファイナライズ済会計取引データは、数年間実働環境に保存しておく必要があります。この保存期間を過ぎたファイナライズ済会計取引データは、会計取引のアーカイブ/削除 (tfgl6205m000) セッションを使用してアーカイブ、および削除できます。

保存期間は、グループ会社パラメータ (tfgl0501m000) セッションの [データ保存年数] パラメータに年数で指定します。

パフォーマンスについての注意

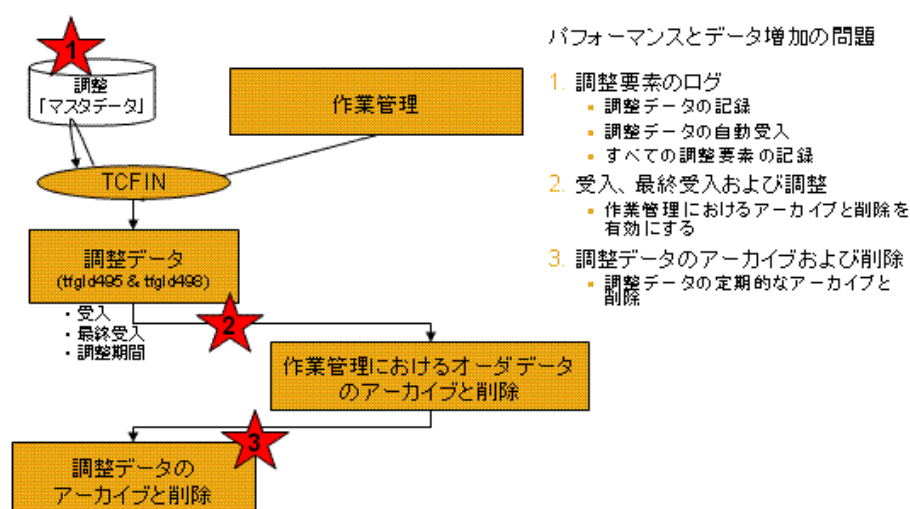
- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： Yes

調整

主要調整フロー

LNに新しく導入された調整ツールにより、統合取引は総勘定元帳に転記後すぐに削除できるようになりました。

以下の図は、主要調整フローを示します。



番号はパフォーマンスとデータ増加の問題が生じる可能性のある主要領域を示します。領域は次のとおりです。

1. 調整要素のログ (ページ 94)
2. 受入、最終受入および調整 (ページ 95)
3. 調整データのアーカイブおよび削除 (ページ 95)

調整要素のログ

パフォーマンスとデータ増加に関しては、調整グループ (tcfin0120m000) セッションの次のパラメータを検討してください。

- [調整データの記録]
調整データの書込は大幅なデータ増加につながるため、パフォーマンスが低下します。このため、詳細な分析を必要とする調整グループに関してのみ、[調整データの記録] チェックボックスをオンにしてください。中間勘定については、調整データの記録を有効にすることが推奨されますが、終了勘定については、通常必要ありません。
さらに分析を必要としない場合は、統合とマッピングはすべて正しいため、[調整データの記録] チェックボックスをオフにしてください。この調整グループの調整データは、調整データのアーカイブ/削除 (tfld4295m200) セッションを使用してアーカイブ、および削除できます。

- [すべての調整要素の記録]
調整グループごとに、調整データを記録する必要がある調整要素を指定できます。ただし、運用時にはまだ、すべての調整グループに必要な調整要素が定義されていないことがあります。さらに、ある時点で、正しい調整のために新しい調整要素を追加する必要があることもあります。この点を踏まえて、運用時に必要な調整要素が不足なく定義されていないすべての調整グループに関して、[すべての調整要素の記録] チェックボックスをオンにしておく必要があります。このチェックボックスがオンの場合、すべての調整要素が記録されるため、データ増加が拡大してパフォーマンスの低下が深刻になります。このため、この設定は、一時的な解決策としてください。
安定した環境では、調整グループレベルの [すべての調整要素の記録] チェックボックスは、常にオフにしてください。このチェックボックスが特定の調整グループに関してオンの場合は、できるだけ速やかに、一般的には運用後数週間以内にオフにします。オフにする際、ログ済調整要素を削除するには、ログ済調整要素の削除 (tfgld4296m000) セッションを実行します。すべての調整グループの [すべての調整要素の記録] チェックボックスがオフになれば、テーブル tfgld498 をデータベースレベルで削除できます。
- [調整データの自動最終受入]
このチェックボックスがオンの場合、調整取引の状況は記録時に自動的に [最終受入] に設定されます。分析を必要とするが、詳細な受入手順は必要ない調整グループにこの設定を使用できます。このチェックボックスをオンにすると、時間のかかる受入および最終受入調整ステップを省略できます。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： Yes

受入、最終受入および調整

調整グループ (tcfin0120m000) セッションで調整にマークされている 調整グループ には、調整、つまり、受入、最終受入、アーカイブを定期的に行う必要があります。調整の承認後は、調整データをアーカイブすることが推奨されます。

注意

調整データの最終受入により、「作業管理」で関連ビジネスオブジェクト (オーダー) のアーカイブが可能になります。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： Yes

調整データのアーカイブおよび削除

指定した期間のすべての調整データの状況が [最終受入] になった時点で、分析済調整取引は調整データのアーカイブ/削除 (tfgld4295m200) セッションを使用してアーカイブする必要があります。許容できないデータ増加を防ぐために、この操作は定期的に行う必要があります。

注意

詳細は、次の情報を参照してください: Infor LN アーカイブユーザガイド (U9352* JA)

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響: Yes
- データベース拡張への影響: Yes

取引タイプ

履歴更新モード

取引タイプ (tfgld0511m000) セッションで、[履歴更新モード] フィールドを次のいずれかに設定できます。

- [リアルタイム処理]
LN は tfgld2 xx テーブルを取引入力時に頻繁に更新します。
- [バッチ処理]
LN は tfgld2 xx テーブルをファイナライズ時のみ更新します。

パフォーマンスの観点から推奨される設定は、[バッチ処理] です。特に、統合、中央請求、固定資産管理などのバッチがシステムで作成される場合はこの設定にしてください。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響: Yes
- データベース拡張への影響: Yes

売掛金

未決済取引 - 売掛金

売掛金未決済取引には、すべての売掛取引が保存されます。全額払済になった売掛金も、情報および分析目的で未決済取引に残ります。ただし、必要以上に長く全額払済売掛金を保存すると、売掛金および現預金管理のさまざまなプロセスのパフォーマンスに影響します。

パフォーマンスが未決済取引量の影響を受けるセッションは次のとおりです。

- 取引先 - 貸方票 (tfacr2120m000)
- 貸方票を請求書に割当 (tfacr2121m000)
- 前受金/仮受金を請求書に割当 (tfcmg2130s000)
- 仮受金/前受金を請求書に割当 (tfcmg2105s000)
- 統制勘定チェックリストの出力 (tfacr2415m000)

売掛金セッションのパフォーマンスを最適化し、データベースの増大を抑えるには、次のステップを実行します。

1. 支払差額の償却 (ページ 97)
2. 全額払済販売請求書のアーカイブおよび削除 (ページ 97)
3. 月次請求書の削除 (ページ 97)

支払差額の償却

端数修正のためなどで、売掛金に支払予定のない残高が含まれていることがよくあります。このような買掛金を「未決済」のままにしないためには、ビジネスに合った適切な許容範囲を指定して支払差額の償却 (tfacr2240m000) セッションを定期的に行うことが推奨されます。実際の売掛金にするために買掛金を定期的に消去すると、さまざまなセッションのパフォーマンスが最適化され、これら売掛金をアーカイブ処理で削除する際の効率性が高まります。

注意

詳細は、次の情報を参照してください: Infor LN アーカイブユーザガイド (U9352* JA)

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響: Yes
- データベース拡張への影響: Yes

全額払済販売請求書のアーカイブおよび削除

売掛金処理のほとんどでパフォーマンスを高めるには、全額払済販売請求書のアーカイブ/削除 (tfacr2260m000) セッションを実行します。

注意

詳細は、次の情報を参照してください: Infor LN アーカイブユーザガイド (U9352* JA)

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響: Yes
- データベース拡張への影響: Yes

月次請求書の削除

月次請求書機能を使用する場合、テーブルを定期的にアーカイブして削除するには、月次請求書の削除 (tfacr2261m000) セッションを実行します。

注意

詳細は、次の情報を参照してください: Infor LN アーカイブユーザガイド (U9352* JA)

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響: Yes

- データベース拡張への影響： Yes

買掛金

未決済取引 - 買掛金

買掛金未決済取引には、すべての買掛取引が保存されます。全額払済になった買掛金も、情報および分析目的で未決済取引に残ります。ただし、必要以上に長く全額払済買掛金を保存すると、買掛金および現預金管理のさまざまなプロセスのパフォーマンスに影響します。

パフォーマンスが未決済取引量の影響を受けるセッションは次のとおりです。

- 貸方票を請求書に割当 (tfacp2120m000)
- 請求書/スケジュールの貸方票への割当 (tfacp2121s000)
- 前払金/仮払金を請求書に割当 (tfcmg2131s000)
- 仮払金/前払金を請求書に割当 (tfcmg2106s000)
- 統制勘定チェックリストの出力 (tfacp2415m000)

買掛金セッションのパフォーマンスを最適化してデータベースの増大を抑えるには、次のステップを実行します。

1. 支払差額の償却 (ページ 98)
2. 全額払済購買請求書のアーカイブおよび削除 (ページ 98)

支払差額の償却

端数修正のためなどで、買掛金に支払予定のない残高が含まれていることがよくあります。このような買掛金を「未決済」のままにしないためには、ビジネスに合った適切な許容範囲を指定して支払差額の償却 (tfacp2230m000) セッションを定期的に行うことが推奨されます。実際の売掛金にするために買掛金を定期的に消去すると、さまざまなセッションのパフォーマンスが最適化され、これら買掛金をアーカイブ処理で削除する際の効率性が高まります。

注意

詳細は、次の情報を参照してください: Infor LN アーカイブユーザガイド (U9352* JA)

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： Yes

全額払済購買請求書のアーカイブおよび削除

買掛金処理のほとんどでパフォーマンスを高めるには、全額支払済購買請求書のアーカイブ/削除 (tfacp2250m000) セッションを実行します。

注意

詳細は、次の情報を参照してください: Infor LN アーカイブユーザガイド (U9352* JA)

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： Yes

現預金管理

現預金管理

現預金管理のさまざまなセッション、たとえば、支払請求書の選択 (tfcmg1220m000) や口座引落用請求書の選択 (tfcmg4220m000) は、買掛金および売掛金モジュールの「未決済取引」テーブルを使用します。このため、買掛金および売掛金で未決済取引をアーカイブして削除すると、現預金管理プロセスのパフォーマンスが高まります。

現預金管理セッションのパフォーマンスを最適化してデータベースの増大を抑えるには、次のステップを実行します。

1. 電子銀行勘定照合表の照合 (ページ 99)
2. 現預金管理で使用しない概念 (ページ 99)
3. 転記済支払バッチ、口座引落、清算済手形の削除 (ページ 100)

電子銀行勘定照合表の照合

電子銀行勘定照合表の照合は、一連のステップに従って「未決済取引」伝票と銀行ファイルを照合します。照合を短時間で終了できるようにヒット率を高めるために、ユーザにはより詳細なレベルで銀行関連の変換データを保持することが推奨されます。このような作業は、電子銀行勘定照合表の変換データ (tfcmg5105m000) セッションで行います。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： 適用なし

現預金管理で使用しない概念

現預金管理で使用しない概念がある場合は、パフォーマンスを改善するためにその概念を無効にします。

次の概念を検討してください。

- キャッシュフロー
キャッシュフローレポートが必要ない場合は、グループ会社パラメータ (tfld0101s000) セッションの [概念] タブにある [キャッシュフロー計算書] チェックボックスを必ずオフにしてください。キャッシュフローは、さまざまな取引のキャッシュフローに関するデータをさまざまなテーブルに保存します。この概念を無効にすると、冗長なデータを保存しなくなるため、現預金管理処理のパフォーマンスが改善されます。

- 手形
支払/回収処理が手形手順に従わない場合は、現預金管理パラメータ (tfcmg0500m000) セッションの [手形] チェックボックスを必ずオフにしてください。これにより、現預金管理処理で不必要なチェックの実行が避けられます。また、支払予定、回収予定、調整処理のパフォーマンスも改善されます。
- スケジュール必須
組織の支払/回収処理がスケジュールを条件としていない場合は、会社パラメータ (tfgld0503m000) セッションの [概念] タブにある [スケジュール必須] チェックボックスを必ずオフにします。これにより、「回収スケジュール/支払スケジュール」テーブルに必須スケジュールが作成されなくなります。また、回収や支払時のパフォーマンスの問題も避けられます。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： Yes

転記済支払バッチ、口座引落、清算済手形の削除

「自動支払」および「口座引落」処理は、主に次のセッションを使用して実行されます。

- 支払手順のバッチ番号 (tfcmg1521m000)
- 口座引落手順のバッチ番号 (tfcmg4521m000)

これらの表示セッションには、複数の現預金管理関連処理を呼び出すオプションが用意されています。転記済支払バッチや口座引落バッチを定期的にアーカイブおよび削除すれば、これらのセッションのパフォーマンスを改善できます。これには、転記済支払バッチの削除 (tfcmg1259m000) および転記済口座引落バッチの削除 (tfcmg4259m000) セッションを使用します。

「手形」処理は次のセッションを使用して実行します。

- 処理中の選択済受取手形 (tfcmg4526m000)
- 処理中の選択済支払手形 (tfcmg1526m000)

これらセッションのパフォーマンスを改善するには、決済済支払手形の削除 (tfcmg1225m001) および決済済受取手形の削除 (tfcmg4225m001) セッションを使用して清算済手形を削除します。

注意

詳細は、次の情報を参照してください: Infor LN アーカイブユーザガイド (U9352* JA)

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： Yes

固定資産

固定資産

固定資産のセッションのパフォーマンスを改善するには、以下を実行します。

- 固定資産と関連取引データを期間終了 (tffam8205m000) および除売却済資産のアーカイブ/削除 (tffam8208m000) セッションを使用してアーカイブします。
- データを定期的にアーカイブします。これにより、「一括減価償却」、「一括移動」、「一括除売却」など、「一括」プロセスのパフォーマンスの問題が回避されます。
- 「資本投資概要」および「減価償却費予測」などのレポートをアーカイブします。このようにすることで、パフォーマンスが改善されます。

注意

詳細は、次の情報を参照してください: Infor LN アーカイブユーザガイド (U9352* JA)

レポートの出力オプション

固定資産のほとんどのレポートには、資産の詳細に加えて、補足、関連メモ、企業情報を出力できるオプションがあります。このような詳細が必要ないのであれば、これらのオプションを使用しないことが推奨されます。このことは、一部のレポートに用意されている、[価値0の資産を出力] オプションにもあてはまります。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響: Yes
- データベース拡張への影響: Yes

管理

管理

基準業績値のインポート (tfcat2220m000) セッションを使用する場合、[ゼロ値を含む] チェックボックスが必要ない場合はオフになっていることを確認してください。不必要にオンにしていると、特定の参照単位にパフォーマンス値がない場合でも値がゼロのレコードが作成されます。

財務会計の取引データのアーカイブと削除

詳細は、次の情報を参照してください: Infor LN アーカイブユーザガイド (U9352* JA)

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響: Yes
- データベース拡張への影響: Yes

ユーザ別新規バッチ

複数のユーザが同じバッチおよび取引タイプで作業することに起因するロックの問題を避けるために、ユーザ別に新しいバッチを作成することが推奨されます。このためには、請求パラメータ (cisli0100m000) セッションの [オプション] タブで [ユーザ別新規バッチの作成] オプションを選択します。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： 適用なし

請求バッチテンプレートとオプション

請求バッチをマニュアル処理する場合は、必要な請求バッチにできるだけ限定して使用することをお勧めします。たとえば、1つまたは数件の販売オーダのみを請求する場合は、販売オーダが有効な請求バッチのみを使用することが望ましい選択です。この場合、オーダの一部に選択が限定されるため、パフォーマンスが向上します。適切な請求バッチテンプレートを作成するには、請求バッチテンプレート (cisli1125m000) セッションを使用します。

請求オプション (cisli1120s000) の請求オプションを設定するときは、[出力オプション] タブで不要なレイアウトの出力のチェックボックスをオフにします。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： 適用なし

請求書の構成

LN では、固定、および可変基準に基づいて複数の請求書ラインで 1 つの請求書を構成することができます。請求書ラインをまとめることにより、作成される請求書の数が減るためデータの増加が抑えられます。

たとえば、同じ税金コードまたは部署が設定された請求書をまとめるには、請求方法 (tcmcs0555m000) セッションで該当する [結合] チェックボックスをオンにします。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響：適用なし
- データベース拡張への影響：Yes

請求で使用しないコンセプト

請求で使用しないコンセプトがある場合は、パフォーマンスを改善するためにそのコンセプトを無効にしてください。

コンセプト	セッション	パラメータ
月次請求書	グループ会社パラメータ (tfgld0101s000) 売掛金パラメータ (tfacr0100s000)	[月次請求書] [グループ会社で MBI を作成] [番号グループ] [デフォルトシリーズ]
出荷別の請求書および受領書	現預金管理パラメータ (tfcmg0100s000)	[出荷に対する回収]
マニュアル販売のイントラスタット情報	請求パラメータ (cisli0100m000)	[マニュアル販売のイントラスタット情報]

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響：Yes
- データベース拡張への影響：Yes

ジョブ処理

LN では、請求書の構成/出力/転記 (cisli2200m000) セッションをジョブ処理に置くことができます。ロックの問題を避けるため、同じセッションをマニュアルで実行しているユーザが他にいないときに実行してください。

ジョブ処理は請求先取引先残高も更新するため、販売オーダの一括承認など、取引先残高を更新する他の処理が並列で実行していることがないように、ジョブ処理の順番を付けることが推奨されます。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： 適用なし

販売請求書データのアーカイブおよび削除

請求では、請求書データのアーカイブおよび削除 (cisli3210m000) セッションを使用して、請求書の作成後に請求書データをアーカイブ会社にアーカイブして削除できます。システムパフォーマンスの低下を抑え、データの増加を避けるために、このセッションは定期的に行うことが推奨されます。

注意

- 販売請求書データをアーカイブするには、請求パラメータ (cisli0100m000) セッションの [アーカイブ会社にコピー] チェックボックスを必ずオンにしてください。
- 詳細は、次の情報を参照してください: Infor LN アーカイブユーザガイド (U9352* JA)

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： Yes

バッチ処理

従業員管理パラメータ (bpmdm0100m000) セッションの [[労務費/経費の処理]] 設定では、トランザクションの処理で従う必要がある方法を指定できます。

通常、パフォーマンスの観点から、このパラメータはできる限り [バッチ] に設定することが推奨されます。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： 適用なし

処理データのアーカイブおよび削除

データ入力を効率的に実行するために、処理済の時間と経費は定期的に削除することが重要です。このためには、時間および経費の削除 (bptmm1206m000) セッションを使用します。

注意

詳細は、次の情報を参照してください: Infor LN アーカイブユーザガイド (U9352* JA)

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： Yes

従業員管理で使用しないコンセプト

従業員予算を使用しない場合は、従業員管理パラメータ (bpmdm0100m000) セッションで次のパラメータを必ずオフにしてください。

- [チーム予算で従業員予算を更新]

- [実際時間で従業員予算を更新]

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： 適用なし

課税設定の例外のモデル化

算出した税金コードが正しくない場合、税金コードの例外を定義できます。税金コードの例外とは、標準税金コードの計算結果から生じる値以外の税金コードまたは課税国および取引先課税国を定義する取引詳細のセットです。

課税設定の例外は次のセッションで定義できます。

- 国別課税例外 (tctax1100m000)、個別の国。
- 国セット別課税例外 (tctax1101m000)、国セット。

ただし、課税設定の例外を設定する場合は、例外ルール数を制限してください。ルールが増えるほど複雑になるため、パフォーマンスに影響します。そのため、例外に該当することが多く、標準税金ロジックでは不十分な課税設定の例外状況のみをモデル化してください。あまり発生しない税金状況の場合は、税金詳細をオーダー別にマニュアルで入力できます。可能であれば、例外ルール数を制限するために、国セットを使用してください。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： 適用なし

直送販売オーダー税の更新

税金パラメータ (tctax0100m000) セッションの [直送販売オーダー税の更新] フィールドでは、対応する購買オーダーの税データにもとづいて直送販売オーダーの税データを更新するために使用する方法を選択できます。

このフィールドを [常時] に設定すると、購買オーダーの変更のたびにリンクされている販売オーダーの税のデフォルト設定がトリガーされるため、パフォーマンスが低下します。

このため、パフォーマンスを考慮して、このフィールドには次の値を設定してください。

- [記録しない]
直送が常に同じ国で行われる場合、または直送がめったに行われない場合など、更新が必要ない場合は [記録しない] を選択します。

- [ABC 取引のみ]
直送が常に EU 国間で行われる場合、[ABC 取引のみ] を選択します。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： 適用なし

税金プロバイダを使用

税金プロバイダパラメータ (tctax6100m000) セッションの [税金プロバイダを使用] チェックボックスでは、米国およびカナダの税金の税金計算を有効にするかどうか設定できます。

税金プロバイダを使用する場合、税額は税金プロバイダの税金登録に保存されます。LN でも税額を表示するには、LN で計算を実行する必要があるため、パフォーマンスの低下につながります。パフォーマンスの問題を抑制するために、仕向地の売上税例外モデル、または課税設定の例外モデルを使用して、LN に税金計算ルールを設定することもできます。

ただし、これは以下に該当する場合のみ有効な代替策です。

- 課税ルールや税管轄区域について必要な情報が入手できる
- ルールや管轄区域の数が限定されている

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： 適用なし

税金処理で使用しないコンセプト

税金処理で使用しないコンセプトがある場合は、パフォーマンスを改善するためにそのコンセプトを無効にします。

税金パラメータ (tctax0100m000) セッションの [検索順序 (税金ライブラリ)] グループボックスに次のコンセプトを追加しない場合、関連するコンセプトも使用されません。

- [国別免税]
- [国セット別免税]
- [国別例外]
- [国セット別例外]
- [仕向地の売上税]

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響： Yes
- データベース拡張への影響： 適用なし

税データの削除およびアーカイブ

ディスク容量を節約し、システムパフォーマンスを改善するには、納税申告データを定期的に削除、またはアーカイブします。

注意

詳細については、Infor LN アーカイブユーザガイド (U9352* JA) を参照してください。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響：適用なし
- データベース拡張への影響：Yes

パフォーマンスに対する税金パラメータの評価

パフォーマンスに対する税金パラメータの評価 (tctax0200m000) セッションを開始するには、税金パラメータ (tctax0100m000) セッションの適切なメニューから [パフォーマンスに対する税金パラメータの評価] を選択します。

パフォーマンスに対する税金パラメータの評価 (tctax0200m000) セッションは、税金パラメータ (tctax0100m000) セッションの特定のパラメータについてデータが存在しているかどうかをチェックします。たとえば、[国別例外] コンセプトが税金パラメータ (tctax0100m000) セッションの [検索順序(税金ライブラリ)] グループボックスで入力されている場合、課税例外レポートが国別課税例外 (tctax1100m000) セッションで利用できる必要があります。利用できない場合、税のデフォルト設定時にパフォーマンスが低下するため、税金パラメータ (tctax0100m000) セッションからこのコンセプトを削除するようにしてください。

注意

パフォーマンスに対する税金パラメータの評価 (tctax0200m000) セッションは、税設定の内容をチェックしません。たとえば、極度の例外ケースに免税しか指定されていない場合は、レコードを削除してこの例外ケースをオーダ別にマニュアルで処理する必要がありますが、このようなアドバイスをこのセッションから得ることはできません。内容についてはユーザ自身が自分で評価する必要があります。

パフォーマンスについての注意

- CPU への影響：Yes
- データベース拡張への影響：適用なし

テーブル共有

通常、機能的な要件によって共有する必要があるテーブルが決まります。パフォーマンス関連の検討事項で、テーブル共有に関連するものはありません。

テーブル共有では、テーブルが巨大化することがあります。テーブルの巨大化は、特定のテーブルのレコードが全会社で使用されていない場合やダイナミックデータを共有している場合に生じます。テーブルのサイズが大きいと、パフォーマンスが低下することがあります。さらに、テーブル共有では、多くのユーザが同じデータを更新するため、ロックの問題が増える傾向にあります。

しかし、実際にはこれらの問題はそれほど多くはありません。問題が生じる場合は、おそらく、財務会計パッケージなどでの統合取引や中央の購買請求書との照合に関連するダイナミックデータが原因です。

このようなパフォーマンスの問題が生じる場合、最も有効な解決策はこれらテーブルのデータを定期的にアーカイブして削除することです。通常、これで解決します。この方法でも解決できない場合は、次のいずれかの方法を行ってください。

- 複製
- テーブルのマニュアルによる同期
- 必要な機能の無効化

注意

詳細は、次の情報を参照してください: 以下の文書

- Infor LN アーカイブユーザガイド (U9352* JA)
- User's Guide for Multicompany Table Sharing (U9505* US)

複数会社設定の変更

通常、複数会社設定を変更してもパフォーマンスに影響することはありません。ただし、複数会社設定の変更が結果として技術的なインフラストラクチャも変更することになる場合は、サイジングとチューニングを再検討する必要があります。

複数のアプリケーションサーバに導入されている複数会社設定を単一会社設定に移行する場合、サイジングおよびチューニングを含む技術的なインフラストラクチャには特別な注意が必要です。

また、たとえば、Baan IVc から ERP LN 6.1 に移行する場合にも、同じことがあてはまる可能性があります。

LN を設定するには

LN インフラストラクチャを設計する前に、環境で必要とされる機能を正しく把握します。「Sizing White paper」には、次の質問に答える際に参考にできる情報が記載されています。

- 利用可能にする時間帯はいつか
- バッチを実行する時間帯はいつか
- 災害復旧時の要件は何か
- 何を統合するか

ソリューション番号 [225096] を参照してください。このソリューションは、特に注意を要するパフォーマンス関連のトピック、または通常の文書としてまだ発行されていない情報を提供します。また、「Sizing White paper」の最新バージョンに関する情報も記載されています。ソリューション番号は、<http://www.infor.com/inforxtreme> からダウンロードできます。

LN のオペレーティングシステムの調整

LN をインストールできるように OS kernel が準備されていることを確認します。必要であれば、複数のユーザがシステムに入ろうとした場合に、インストール時やその後の実働環境で問題の発生を回避するために、変更を行います。

入力する必要のあるさまざまな値に関する具体的な情報については、u9357 を参照してください。

LN のトレースとチューニング

LN- Performance, Tracing and Tuning Guide (U9357) には、LN のパフォーマンスの測定および向上に関するさまざまな情報が含まれています。次のトピックが含まれています。

- オペレーティングシステムのチューニング
- データベースのトレースとチューニング
- LN のトレースとチューニング
- データベースドライバパラメータ
- 共有メモリの管理

詳細は、次の情報を参照してください: LN- Performance, Tracing and Tuning Guide (U9357) ([Infor Xtreme](#) のソリューション [22881401] から利用可能)

データストレージの最小化

アプリケーション構成によっては、LN でかなりのデータストレージが必要となる場合があります。

- Oracle
LN では、Oracle 内のデータを圧縮することができます。詳細な情報については、ソリューション番号 [225096] を確認してください。このソリューションは、特に注意を要するパフォーマンス関連のトピック、または通常の文書としてまだ発行されていない情報を提供します。また、Oracle 内でのデータ圧縮に関するソリューション番号も記載されています。このソリューションは、<http://www.infor.com/inforxtreme> からダウンロードできます。
- MS SQL Server
SQL Server の場合、デフォルトではポーティングセット 8.4b 以降で文字列情報の格納に SQL Server [varchar] タイプが使用されます。これにより、データストレージの使用が大幅に減少します。Baan 5.0 または LN 6.1 がインストールされているサイトで、8.4b 以降に移行する場合は、必ずポーティングセットのテクニカルノートを確認してください。テクニカルノートには、[char] タイプではなく、[varchar] を使用するために既存のテーブルを変更する方法が記載されています。

カスタマイズ

u9357 には、パフォーマンスの潜在的なボトルネックを特定するために、カスタマイズを追跡する方法に関する各種ヒントが記載されています。「コールグラフプロファイラ」の説明については、このガイドの第 3 章を参照してください。

「Performance Tracing and Tuning Guide」の最新バージョンをダウンロードするには、ソリューション番号 [225096] を参照してください。ソリューション番号は、<http://www.infor.com/inforxtreme> からダウンロードできます。

サイジングプロセス

ハードウェア

プロジェクトの後の段階で問題が生じるのを避けるため、Infor LN を実装する際は適切なハードウェアを選択します。小さくてアップグレードできないハードウェアや、大きすぎるハードウェアでは、予算の問題で実装が停止する場合があります。このため、実装時には慎重にサイジングを検討してください。

最終サイジング

最終サイジングを実行できるのは、すべての実装過程がわかってからです。販売前は、アプリケーションの使用について高レベルの情報しかない場合があります。この場合、ハードウェアコストを見積もるために販売前のサイジングを行うことができます。

サイジングの検証

最初の実装が稼働した後、サイジングの検証を行うことができます。サイジングの検証では、サイジング中に仮定したすべての前提について検証できます。必要な場合は、以降の実装をより適切にサポートするために、サイジングを調整できます。

負荷試験

実装の稼働直前にパフォーマンスの問題が明らかになる傾向があります。稼働前に負荷試験を行い、実際のパフォーマンスが要件を満たしていることを確認することをお勧めします。

サイジングの段階と、役に立つツール、文書、またはサービスを次の表に示します。

[ステップ]	[段階]	[ツール/文書/サービス]	[備考]
1	顧客からサイジングに関する主要な数字を収集する	構成および計画のアンケート、アップデートに関する構成および計画のアンケート	アップデートの場合は、既存アプリケーションの情報を活用

2	オプション：特定機能の負荷を決定する顧客固有のベンチマーク	顧客固有のベンチマーク	大規模/複雑/ビジネスに不可欠な顧客の場合のみ
3	ハードウェアのサイジング	Sizing Guide / E-Sizing assistant (Web ベース)	
4	サイジングおよび展開に関する情報を顧客に提供	サイジングテンプレート/サイジングホワイトペーパー	
5	オプション：負荷試験	該当なし	実稼働前に適宜行い、問題を解決する
6	オプション：顧客サイトでサイジングを検証しサイズを調整する	サイジングの検証	大規模/複雑/ビジネスに不可欠な顧客の場合のみ、実稼働後

ステップ 1、3、および 4 は反復プロセスです。販売前の段階では、ハードウェアコストを決定するために初期サイジングを行うことができます。販売後の段階では、より詳細なサイジングを行うことができます。

ステップ 6 は、各顧客ロケーションでの稼働後など、複数の実装段階で実行できます。

詳細は、次の情報を参照してください: ソリューション [22881401] には、特別な注意を払う必要があるがまだ通常の文書には掲載されていない、パフォーマンス関連トピックの最新情報が含まれています。また、「サイジングホワイトペーパー」の最新バージョンに関する情報も提供されています。www.infor.com/inforxtreme でソリューション番号を使用してダウンロードします。

サイジングガイド、アンケート、および E サイジングアシスタントは、<http://pbc.infor.com> に用意されています。

セカンドラインのサイジングについては、sizing@infor.com にお問い合わせください。

インフラストラクチャ

顧客の期待に応えられるようなパフォーマンスの LN 環境を構築するには、適切なインフラストラクチャを選択することが非常に重要です。

1 つのロケーションにある単一の LN 環境に、すべての行程を統合する傾向があります。そうすると、大きなデータベースを備え、多数のユーザが同時に使用する、大規模な実装になります。統合環境では、バッチでより多くのデータを処理する必要があり、時間がかかります。

顧客の期待およびパフォーマンス要件を慎重に調査し、提案されたインフラストラクチャに応じて調整してください。インフラストラクチャについての詳細は、「Sizing Guide」および「Sizing White Paper」を参照してください。

詳細は、次の情報を参照してください: [Infor Xtreme](http://www.infor.com/inforxtreme) のソリューション [22881401]

OnePoint Diagnostics

Inforでは、OnePoint Diagnostics の一部として LN Diagnostic Scan を提供しています。LN Diagnostic Scan は、LN 環境のパフォーマンスの問題を検出する優れたツールです。

このツールは、実装のさまざまな段階で使うことができ、後で比較できるように環境のスナップショットを作成する場合に適しています。

このツールは、<http://www.infor.com/inforxtreme> からダウンロードできるソリューション ([211788]) として利用できます。

LN Diagnostic Scan

優れたパフォーマンスを維持するためにシステムを定期的に分析することが推奨されます。

LN Diagnostic Scan は構成全体を検証し、その他の数百のプロジェクトから得られた経験に基づいて機能強化点を検索します。

LN Diagnostic Scan を実行すると、システムの状態の概要がわかります。これには、深く掘り下げた技術的な問題から一般的なアプリケーション問題まで、すべてが含まれています。各実装の品質が、200 を超える顧客調査から得られた経験に基づいて評価されます。

- 主要な特徴
システム領域全体 (ハードウェア、オペレーティングシステム、データベース、ネットワーク、およびアプリケーション部分) をカバーしている
- 受動的なツールであり、システムに変更を加えない
- ハードウェア、データベース、LN のバージョンごとに利用できる
- 使用しやすく、実行手順が簡単
- 実働システムに影響を与えず、時間帯を問わず簡単に実装できる
- 3 稼働日以内に結果がわかる

LN Diagnostic Scan によるコストの削減

LN Diagnostic Scan により、実装プロセスのテストとチューニングにかかる時間は少なくとも 30 % 短縮されます。また、最初から専門家を雇用する必要がなくなります。

明確で詳細なアクション計画と、必要なバックグラウンド情報が提供されます。このような多様な利点により、コストの大幅な削減が期待できます。

ビジネスの機会

システムの稼働前に LN Diagnostic Scan を使用します。詳細なすべての関連情報を取得し、システムを定期的にチェックします。LN Diagnostic Scan の出力は、ExpertSystem で処理されます。これは、個々の構成要素の各種修正を時間をかけずに実装して、システムを最適な状態に保つ唯一の方法です。

ERP LN Diagnostic Scan が必要となるのはどのような場合か

LN Diagnostic Scan を使用すると、各 LN プロジェクトのさまざまなマイルストーンの品質面を浮き彫りにすることができます。

1. ハードウェア、データベース、アプリケーション構成の最初の納入時の監査
2. アプリケーション環境全体とカスタマイズのリリースの監査
3. 稼動直前における 100% の完全性の保証
4. さまざまな構成要素の傾向と例外の定期的な分析

LN Diagnostic Scan はライフサイクル中、一貫した方法により、すべての検出事項をレポートしてシステムのパフォーマンスを最大化します。

セッション

ユーザがアプリケーションの機能を実行するために開始できる LN の基本部分。通常、セッションはメインデータベーステーブルとプログラムスクリプトとリンクしています。さらに、セッションはゼロ個以上のフォーム、レポート、チャートを使用します。

セッションのコードは、パッケージコード、モジュールコード、メインテーブル番号とセッションタイプを示す 4 桁の数字、m または s、そしてさらに 3 桁の数字から構成されます。たとえば、国 (tcmlcs0510m000) のようになります。

構成要素

キットの一部として他の品目と組み合わせて請求される販売品目

適切なメニュー

コマンドは、[表示]、[参照]、および [アクション] メニューに分散されているか、ボタンとして表示されます。旧リリースの LN および Web UI では、これらのコマンドは [特定] メニューに配置されます。

LN シェル

LN シェルは、LN アプリケーションを実行するプログラムです。LN シェルは、LN アプリケーション、オペレーティングシステム、ユーザインターフェイス、データベースの間のインターフェイスプログラムの役割を果たします。このオープンシステムアーキテクチャにより、LN アプリケーションは、オペレーティングシステム、ユーザインターフェイス、データベースのサポートされているすべての組合せで動作が可能です。

同義語: 仮想マシン

頭字語: bshell

カレンダー

カレンダー作業時間のリストを構築するために使用される定義の組合せ。カレンダーは、カレンダーコードと利用性タイプの組合せにより識別されます。

調整

種々のソースからの関連財務会計データを照合して差額を検出します。通常、調整により、照合済データ、合計、検出された差額などの表示に使用できるレポートが生成されます。

例:

- 銀行からレポートされた現預金残高を会社の帳簿の現預金残高と比較する
- 財務会計の関連会社転記をロジスティック取引と比較する

資源

企業計画でのマシンまたは従業員のグループ。これは、他のLNパッケージでのワークセンタに対応します。

品目を製造するために実行される各作業には、資源からの特定の生産能力量 (たとえば生産時間) が必要です。資源の生産能力は、計画での制約条件となることがあります。

資源の利用率は資源カレンダーを使用して指定できます。

請求バッチ

請求処理を行うオーダタイプとオーダを指定します。請求バッチを実行すると、請求データが選択され、その請求バッチで指定したオーダタイプとオーダに関する請求書が生成されます。

請求バッチテンプレート

請求バッチを実行するときに指定できるオーダタイプとオーダ数を定義します。たとえば、オーダのタイプは「販売」、「輸送」、「プロジェクト」または「サービス」に設定でき、各タイプのオーダの数は [なし]、[1 つ]、または [複数] に設定できます。

請求オプション

出力される請求書のテキストとレイアウトを設定したり、請求書の伝票番号の採番時に使用される取引タイプとシリーズのデフォルト値を上書き可能にするかどうかを設定することができます。

販売スケジュール

資材の計画供給のタイムテーブル。販売スケジュールは、頻繁に納入される長期の販売をサポートします。品目、販売先取引先、出荷先取引先、および納入パラメータが同じである要求はすべて、同じ販売スケジュールに保存されます。

有効在庫

ある品目の、ある日付に顧客に確約できる数量

LN では、有効在庫 (ATP) は、**確約可能在庫 (CTP)** と呼ばれる、より高度なオーダ確約技術の構成要素となっています。確約可能在庫は、品目の有効在庫が不十分な場合に当初計画より増産する可能性も考慮する点で、有効在庫より高度な機能を備えています。

標準的な有効在庫機能のほかに、チャンネル有効在庫も使用されます。この用語は、特定の販売チャンネルについて販売制約を考慮した、そのチャンネルについての品目の調達可能性を指しています。

LN で使用されるこれ以外のすべてのタイプのオーダ確約機能については、**確約可能在庫**という用語を使用します。

頭字語: 有効在庫

略字: 有効在庫

有効在庫

次を参照してください: 有効在庫 (ページ 123)

有効在庫

次を参照してください: 有効在庫 (ページ 123)

確約可能在庫

特定の日付で顧客に確約できる品目の数量を決定するために使用する技術の組合せ

確約可能在庫 (CTP) は、標準的な有効在庫 (ATP) の拡張機能を持っています。確約可能在庫は、品目の有効在庫が不十分な場合に当初計画より増産する可能性も考慮する点で、有効在庫より高度な機能を備えています。

標準的な有効在庫機能のほかに、確約可能在庫には次の機能があります。

- チャンネル有効在庫: ある販売チャンネルでの制約された調達可能性
- 製品ファミリ確約可能在庫: 品目レベルではなく製品ファミリレベルでの調達可能性に基づいた確約可能オーダ
- 構成確約可能在庫: ある品目の追加生産に使用できる構成要素が十分にあるかどうかをチェックします。
- 確約可能在庫能力: ある品目の追加生産に使用できる生産能力が十分にあるかどうかをチェックします。

略字: 確約可能在庫

確約可能在庫

次を参照してください: 確約可能在庫 (ページ 123)

確約可能在庫能力チェック

指定日に顧客オーダーを納入するための、品目の増産に必要な能力の調達可能性のチェック

オーダー範囲に応じて、品目のクリティカル能力資源表の資源または品目の工順のワークセンタに対して、確約可能在庫能力チェックが実行されます。確約可能在庫のクリティカルとして定義された資源のみがチェックされます。

能力利用率

1つの資源が生産のために使用される時間数

あるいは、使用能力を合計使用可能能力の比率として示す割合

チャネルマスタ計画

販売チャネルと計画品目の特定の組合せに対する販売目標および販売制約を含む、品目別のロジスティック計画

チャネルとは、顧客と品目を分類したものです。

チャネルマスタ計画は、総計だけでなく、需要予測や期日の見積といった販売関連の機能もサポートします。

クラスタ

企業計画で、供給関係により互いに接続されている倉庫の分類

クラスタは、1つまたは複数の倉庫を含む、地理的な場所を表します。企業計画では、これらの倉庫を、計画目的で1つの単位とみなします。

構成確約可能在庫チェック

指定日に顧客オーダーを納入するための、品目の増産に必要な構成要素の調達可能性のチェック

該当する構成要素の確約可能在庫パラメータに基づいて、構成要素品目自体に対して実行されるチェック

オーダー範囲に応じて、クリティカル部品表の構成要素または部品表に対して、構成確約可能在庫チェックが行われます。確約可能在庫のクリティカルとして定義された構成要素のみがチェックされます。

クリティカル能力所要量

その計画品目の生産計画の実行に必要な資源の生産能力

クリティカル能力所要量は、その計画品目のクリティカル能力資源表に基づいて決定されます。

クリティカル能力所要量は、計画期間ごとに指定します。

累計有効在庫

特定の計画期間で納入を確約できる品目数量の合計

この累計有効在庫を使用して、ある品目について注文または照会を受けたときにその調達可能性をチェックすることができます。

注意

その品目の累計有効在庫では不十分な場合、確約可能在庫能力チェックや構成確約可能在庫チェックを行って、その品目を増産することで需要を満たすことができるかどうかを確認することができます。

確約可能在庫累計能力

特定の計画期間を限度として、追加生産に利用可能な資源生産能力の合計

需要予測

計画期間において需要が予測される品目数量。需要予測は、季節パターンや履歴需要データをもとに生成できます。

需要予測は、計画品目またはチャネルの需要計画の一部です。

依存需要

他の品目の需要に関連した需要

依存需要には基本的に次の 2 つのタイプがあります。

- ある品目の製造に使用する構成品目に対する需要
- 別の保管場所または関連サイトから発生した需要

マスタ計画では、依存需要は次のフィールドの合計と等しくなります。

- 依存資材需要
- 依存スケジュール需要
- 依存物流需要

主品目の有効在庫と依存需要が、主品目のクリティカル部品表に指定した倉庫と同じクラスタをもつ計画品目に展開されます。

実行レベル

企業計画では、以下のような、LN パッケージによるオーダーの実行および実際の商品フローを管理するための指示

- 製造
- オーダ管理
- 倉庫管理

企業計画は、計画アルゴリズムを使用してシミュレーションおよび最適化を実行します。他のパッケージは、オーダーの実行と商品フローを管理します。

固定リードタイム

計画オーダーの実行に必要であると予測される時間です。

企業計画では、オーダーのリードタイムを計画する際に、固定リードタイムまたはより詳細な工順データのどちらかを使用できます。固定リードタイムを使用すると、結果の精度は低下しますが、計算速度は向上します。

商品フロー

顧客オーダー、製造オーダー、在庫調整といった、品目の在庫に影響を与えるあらゆる処理の総称

商品フローデータは、LNの実行レベルで記録されます。商品フローデータは、企業計画で更新されると、計画の基準として、企業計画にロードされます。このデータには、現在の在庫データとともに、履歴商品フロー処理と計画商品フロー処理の両方が含まれます。

製品ファミリについて、総計関係を使用した総計による商品フローデータが生成されます。

品目マスタ計画

販売、内部供給、外部供給、および在庫に対するロジスティックターゲットと計画データを含む、品目別の総合ロジスティック計画。品目マスタ計画のすべての計画データは、計画期間で指定します。企業計画は、このデータを使用してマスタ計画シミュレーションを実行します。

品目マスタ計画は、次のサブ計画に分類することができます。

- 需要計画
- 供給計画
- 在庫計画

さらに、品目マスタ計画には、実際の需要、実際の供給、計画オーダーという形での計画供給、および予測在庫に関する情報が含まれます。

その品目にマスタ計画があり、チャンネルが定義されている場合、通常は各チャンネルに固有のマスタ計画があります。チャンネルマスタ計画には、需要データ、販売制約に関する情報といった、チャンネル固有の情報のみが含まれます。

品目マスタ計画とチャンネルマスタ計画は、シナリオ内で定義されています。これらのシナリオは、条件分析 (what-if 分析) に使用できます。シナリオのうちの 1 つが実際の計画です。

マスタ基準計画

すべての計画データを、既定の長さを持つタイムバケット内に累計する計画方式

マスタ計画では、すべての需要、供給、および在庫データがこれらのタイムバケットに基づいて取り扱われ、マスタ計画に保存されます。

マスタ計画では、供給は供給計画の形で計画されます。この供給計画は、需要予測、実際のオーダー、およびその他の情報に基づいて計算されます。製造計画では、この計画方法は、品目のクリティカル部品表およびクリティカル能力資源表に記録されたクリティカル所要量のみを考慮します。

注意

企業計画では、すべての供給をオーダー計画で計画した場合でも、品目のマスタ計画をメンテナンスすることができます。

マスタ計画範囲

オーダー範囲外にあり、企業計画がマスタ計画を使用して供給を計画する計画範囲の部分

マスタ計画範囲はそれ自体に対して定義されるのではなく、オーダー範囲および計画範囲の定義に依存します。

オーダー範囲が計画範囲と一致する場合、マスタ範囲はありません。この場合、企業計画は、すべての供給をオーダー計画で計画します。

作業保管範囲

計画オーダー作業が保管される、将来の作業日数

作業保管範囲を超える計画オーダーの場合、計画オーダーの使用能力を分析することはできず、計画オーダーを実行レベルに転送することもできません。

オーダー範囲

企業計画がオーダー基準計画を使用して供給を計画する時間周期

オーダー範囲は、シミュレーションを実行した日からの作業日数として表されます。

オーダー範囲がゼロの場合、企業計画は、該当する品目に対してオーダー基準計画を使用しません。

オーダー範囲の計算では、計画品目が属しているデフォルト倉庫の企業単位に指定したカレンダーが使用されます。

計画品目のデフォルト倉庫に企業単位を指定していない場合、企業計画は、会社カレンダーを使用してオーダー範囲を計算します。

注意

オーダー範囲が、それが含まれる計画期間の終わりまで移動されます。企業計画で、計画期間がオーダー範囲内にあるかどうかを認識する必要があります。

オーダー基準計画

計画データをオーダーの形式で取り扱う計画方式

オーダー計画では、供給は計画オーダーの形で計画されます。個々の計画オーダーの開始日と終了日が考慮されます。製造計画では、この方法により、品目のBOMおよび工順に記録されたすべての資材所要量と能力所要量が考慮されます。

注意

企業計画では、すべての供給をオーダー計画で計画した場合でも、品目のマスタ計画をメンテナンスすることができます。

フェーズ番号

計画単位および計画品目の計画順序を決定する番号

計画単位と計画品目は、一般に、フェーズ番号の順に計画されます。フェーズ番号は、最初は0、次は1 というように増加していきます。

1つの品目に対して、マスタ計画用とオーダ計画用の別々のフェーズ番号を設定することができます。計画単位に属している品目の場合、マスタフェーズ番号は、計画単位のマスタフェーズ番号と同じです。

計画期間

マスタ計画のすべての計画データが累計される一連のタイムバケットの1つ

計画期間は、シナリオ内で定義されています。

計画期間は、期間番号で識別され、日、週、または月単位で定義されます。

予想在庫

計画期間の最後で予期される在庫レベル

完全に期間が経過した計画期間の予想在庫は手持在庫と同じであることに注意してください。

資源マスタ計画

ある資源の使用能力についての時系列で見た概要

資源マスタ計画では、計画期間ごとに次のタイプの使用能力が記録されます。

- マスタ基準計画からのクリティカル能力所要量
- 計画オーダに関連する使用能力
- JSC (製造) オーダおよびサービス活動に関連する使用能力
- PCS (プロジェクト) 活動に関連する使用能力

さらに、資源マスタ計画には確約可能在庫能力の情報も含まれます。

ローリングシナリオ

先行移動される特定タイプのシナリオ。ローリング頻度を指定して、シナリオのローリングが必要になるまでの日数を決定できます。

現在の日付は、やがて参照日にローリング頻度の日数を加えた日付に到達または超過します。その場合、シナリオの開始日と終了日、計画期間の部分、および参照日自体も先行移動されます。

シナリオ

総合的な計画解決策の識別

各シナリオは、1つの総合的な計画解決策を表していて、品目計画および資源計画のための特定の設定が含まれています。シナリオを使用して、各種の計画オプションを分析および比較し、最適な計画解決策を見つけることができます。たとえば、需要予測やソーシング戦略の変更に利用できます。

シナリオの1つは、実際の計画状況に対応している実際のシナリオです。実際のシナリオから LN の実行レベルへ、計画オーダーと製造計画を転送することのみが可能です。

供給関係

供給倉庫クラスと受取クラス間の物流のリンク。該当するクラスは、同じサイト内にあっても別のサイトにあってもかまいません。

企業計画は、供給関係を使用して物流計画を作成します。供給関係は、特定の品目または品目グループの有効な供給パスを表します。供給関係は、個々の品目レベルでも、より一般的なレベルでも、指定できます。

また、供給関係によって、供給原価、ロットサイズ規則、および他のパラメータも決定されます。

タイムフェンス

品目の供給計画と計画オーダーの凍結が終了する期限

タイムフェンスは、シミュレーションを実行した日からの作業時間数として表されます。

一般に、企業計画は、タイムフェンス内では供給計画や計画オーダーを再生成しません。ただし、マスタ計画シミュレーションまたはオーダーシミュレーションを実行するときはこの限りではありません。

タイムフェンスは、次のような事態を防ぐための機能です。

- 工程レベルですでに開始しているオーダーに障害が発生すること
- 計画オーダーを過去の開始日で生成してしまうこと (すなわち、遅延したオーダー)

通常、品目の製造工程のリードタイムは、タイムフェンスと矛盾しない値になります。

累計オーダーリードタイム

すべての構成要素の品目購買リードタイムと累計製造リードタイムの合計値

企業計画では、累計オーダーリードタイムを使用して、計画範囲の最小値を決定します。

頭字語: 累計オーダーリードタイム

累計オーダーリードタイム

次を参照してください: 累計オーダーリードタイム (ページ 129)

ソフトペギング

情報として保存される品目供給と品目所要量との関係。品目を交換すると、関連ソフトペギングが失われます。

- ペギング供給
ペギング供給として、購買オーダー、計画購買オーダー、製造オーダー、計画製造オーダー、処理タイプ「転送」を持つ倉庫オーダー、または計画物流オーダーを使用できます。
- ペギング所要量
ペギング所要量として、特に、販売オーダーラインか、または製造オーダーの必須構成要素を使用できます。

企業計画において、用語「ペギング」は一般に、ソフトペギングを示す場合に使用されます。

関連用語: 需要ペグ

計画品目

オーダーシステムが [計画] の品目

これらの品目の製造、物流、または購買は、需要予測または实际需要に基づいて企業計画で計画されます。

次の方法によって、品目を計画できます。

- マスタ準拠計画。基準生産計画手法と同じです。
- オーダー準拠計画。資材所要量計画手法と同じです。
- マスタ準拠計画とオーダー準拠計画の組合せ

計画品目は次のいずれかです。

- 実際の製造品目または購買品目
- 製品ファミリ
- 基本モデル (一般品目の定義済製品バリエーション)

類似の計画品目またはファミリのグループは製品ファミリと呼ばれます。個々の品目に対する計画よりも汎用的な計画にするために、品目が統合されます。品目コードのクラスタセグメントによって表示されるコードで、計画品目が配分計画に使用されるクラスタ品目であることが示されます。

購買品目

一般に外部ソースから取得される品目。部品表および工順は購買品目にリンクできます。

一般品目

複数の製品バリエーションに存在する品目。一般品目に対して製造活動を実行する前に、品目を設定して、必要な製品バリエーションを決定する必要があります。

例

一般品目: 電気ドリル

オプション:

- 3つの電源 (バッテリー、12 V または 220 V)
- 2色 (青、グレー)

合計 6 つの製品バリエーションをこれらのオプションで製造できます。

クリティカル部品表

クリティカル部品表 (BCM) は、計画品目の製造工程でクリティカルと見なされる構成要素を示します。

クリティカル部品表は、より重要な構成要素のみを含む部品表の要約の一種です。

一般的なクリティカル資材には、次のようなものがあります。

- リードタイムの長い構成要素
- 内部または外部製造システムに対して能力負荷が高い半組立品

企業計画パッケージは、クリティカル部品表を使用して、クリティカル資材に関するクリティカル資材所要量を生成します。

同義語: BCM

統合

異なるソースに由来するいくつかの購買オーダーを、1つの購買オーダーにグループ化すること。統合によって購買オーダーの数が減り、利用可能な最善の価格および値引を得ることができます。

ファントム

製造品目の一部として生産される組立部品であり、それぞれ固有の工順が設定されていることがあります。

ファントムは、場合によってはいくつかの在庫が存在することもあります。通常は在庫が保有されることはありません。計画システムは、ファントムの資材所要量を作成しませんが、資材の所要量をファントム品目から直ちにその構成要素に移動します。ファントムは主に、モジュール化された製品構造を作成するために定義します。

例

冷蔵庫のドアは、冷蔵庫の部品表でファントム品目として定義されます。ドアの資材は、製造オーダーの冷蔵庫に関する資材リストにリストされます。

オーダーリードタイム

品目の製造時間は、工順作業に定義されるリードタイム要素に基づいて時間数または日数で示されます。

ロットサイズ

ロットに含まれる品目の数

経済発注量

一度に購買または製造される品目の数量。この数量は、取得費用と保管費用が最も少ない組合せの数量です。また、これは最小原価オーダー数量とも呼ばれます。

BCM

次を参照してください: クリティカル部品表 (ページ 131)

固定オーダー数量

計画オーダーや実際オーダーが生成される、品目の事前に決められた指定数量。期間における正味所要量が固定オーダー数量を超える場合は、複数の指定数量がオーダーされます。

生成済オーダーは常に固定オーダー数量となります。

フロア在庫

資材の各出庫を個別に記録することなく製造で利用できる、ジョブショップにある高価でない資材の在庫。フロア在庫はバックフラッシュされません。また、見積原価には含まれません。

マイクロ工順

指示書、工具情報、処理情報を接続する工順作業とリンクされた一連のステップ。製造オーダーが発行されると、たとえばジョブショップの作業者のジョブのサポートのために、作業ステップとリンクされている情報がジョブショップの作業者に渡されます。

次を参照してください: 作業ステップ

原価構成要素

原価を分類するためにユーザが定義するカテゴリ

原価構成要素には次の機能があります。

- 品目の標準原価、販売価格、または評価額を細分化する
- 見積の製造オーダー原価と実際の製造オーダー原価との比較レポートを作成する
- 製造差異を計算する
- 原価計算モジュール内で、特定の原価の配分をさまざまな原価構成要素について表示する

原価構成要素は次のような原価タイプから成ります。

- [作業費]
- [材料費]
- [付加費用]
- [一般費用]
- [適用なし]

注意

組立管理 (ASC) を使用する場合、[一般費用] タイプの原価構成要素は使用できません。

ワークセンタ

同じ能力を持つ、1人以上の従業員または1台以上の機械から構成される特定の製造エリア。これは、能力所要量計画と詳細スケジュールの1単位と見なすことができます。

FIFO

次を参照してください: 先入れ先出し (ページ 139)

FIFO

次を参照してください: 先入れ先出し (FIFO) (ページ 144)

LIFO

次を参照してください: 後入れ先出し (LIFO) (ページ 144)

保管場所別

特定の品目の物理的な出庫優先順位を決める出庫方法。在庫は保管場所の出庫優先順位に基づいて在庫から出庫されます。在庫日付は考慮されません。

統計在庫管理

在庫を補充するための計画購買オーダーまたは計画製造オーダーを生成する LN のオーダーシステム

発注点は通常、在庫バッファおよびリードタイムの補充時の予測所要量を加えて計算します。

統計在庫管理品目の計画は倉庫管理によって行われます。

略字: SIC

時系列オーダーポイント

次を参照してください: 時系列オーダーポイント (TPOP) (ページ 145)

品目付加費用

品目付加費用は、特定の品目グループまたは倉庫に属する品目の原価/評価額構成において、追加費用や値引の基準になります (固定額の割合で示します)。付加費用は、価格計算コードにリンクしています。

付加費用

たとえば間接費、保管費用、輸送費用、機械の維持費などの、品目の間接原価。付加費用は、割合または固定額で定義でき、固定費と変動費に分けることができます。

統合取引

財務会計以外の LN パッケージを通じて作成される会計取引。財務会計に反映しなければならないロジスティック取引ごとに、商品販売の購買/受領、生産/仕掛品振替、およびプロジェクト/コストなどの統合取引が作成されます。統合取引は統合マッピング体系で定義された元帳勘定とディメンションに転記されます。

販売オーダー

特定の条件にしたがって取引先に品目またはサービスを販売するために使用される合意。販売オーダーは、1つのヘッダおよび1つ以上のオーダーラインから成ります。

取引先データ、支払条件、受渡条件などの一般オーダーデータは、ヘッダに保存されます。価格合意や納期など、発注される実際の品目についてのデータは、オーダーラインに入力されます。

追加コスト

オーダーまたは出荷の追加コストを課すために販売オーダーまたは出荷に加えることができる原価品目

計画済倉庫オーダー

販売で作成されるオーダーであり、ほとんどのスケジュール関連処理の基準となります。販売スケジュールの承認時に作成される計画済倉庫オーダーであり、これによってスケジュール更新および改訂が倉庫オーダーから分離されます。これは、販売と倉庫管理および請求との間のインターフェースにもなります。

価格設定情報

価格設定情報には、価格、値引、販促、および輸送レートが含まれます。価格マトリックスを使用する場合、価格情報は、属性と値のセットについてメンテナンスされます。属性はマトリックス定義で定義され、値は該当する価格マトリックスで定義されます。

例

次の属性および値について価格を定義できます。

属性	値
販売先取引先	Apex Wholesellers, Inc
受渡条件	CoD (代金引換)
品目	缶切 aw10

価格マトリックス

価格設定マトリックスは、顧客、発注先、品目に関して価格、値引、輸送レート、または販促をメンテナンスするエンティティです。

価格設定には、次のタイプのマトリックスを利用できます。

- 価格マトリックス
- 値引マトリックス
- 販促マトリックス
- 輸送レートマトリックス

原則的に、価格設定マトリックスには次の要素が含まれます。

- マトリックスタイプ
- マトリックス定義
- マトリックス属性のセット
- 価格帳、値引スケジュール、販促、または輸送レート帳簿などの価格設定情報

マトリックスタイプおよびマトリックス定義によって、使用可能なマトリックス属性が決まります。価格設定情報は、価格設定マトリックスのタイプによって決まります。

例

価格マトリックスで、次の属性および値の価格を指定できます。

属性	値
販売先取引先	Apex Wholesalers
受渡条件	CoD (代金引換)
品目	缶切 aw10

「Apex Wholesellers」の品目「缶切 aw10」についてオーダが入力され、受渡条件が「CoD」の場合、価格マトリックスでメンテナンスされる価格を使用して、オーダの価格が計算されます。

販促

選択した品目の事前定義済のオーダレベルに基づいて販売オーダに追加の値引、割引、またはプレミアムを適用すること。販促の基本タイプには、オーダレベルとラインレベルの2種類があります。

販売見積

発注先が見込購買者に提案した商品またはサービスの価格計算書、販売条件、記述、入札。顧客データ、支払条件および受渡条件はヘッダに含まれます。実際の品目についてのデータは見積ラインに入力されます。見積依頼への回答として与えられる場合、入札は通常、販売申込とみなされます。

販売契約

販売契約は、商品の納入について、販売先取引先との合意を登録するために使用します。

契約は次の要素で構成されます。

- 一般取引先データが記載され、オプションで条件合意が記載された販売契約ヘッダ
- 品目または価格グループに適用される価格/値引合意および数量情報を持つ、1つまたは複数の販売契約ライン

直送

販売元が商品を購入元取引先からオーダする処理。購買元取引先はまた、商品を販売先取引先に直接納入しなくてはなりません。販売オーダまたはサービスオーダにリンクされた購買オーダを使用して、購買元取引先は商品を販売先取引先に直接納入します。商品は自社の倉庫から納入されないの、倉庫管理は関係しません。

販売業者管理在庫 (VMI) のセットアップでは、顧客倉庫の購買オーダを作成することで直送が達成されます。

販売元は次の理由で直送を決定できます。

- 利用可能在庫の不足
- オーダ数量が時間内に納入できない
- オーダ数量を自社で輸送できない
- 原価および時間が保存される

製品バリエーション

構成可能品目の一意の構成。バリエーションは構成処理に由来し、特徴オプション、構成要素、作業などの情報を含みます。

例

構成可能品目: 電気ドリル

オプション:

- 3つの電源 (電池、12 V または 220 V)
- 2色 (青、灰)

これらのオプションから合計 6 つの製品バリエーションが生じます。

オーダシステム

推奨購買オーダおよび推奨製造オーダの生成方法を管理するオーダパラメータ

次のオプションがあります。

- [FAS] (最終組立計画)
- [SIC] (統計在庫管理)
- [計画] (スケジュール基準およびオーダ基準の計画)
- [マニュアル] (個別発注)

原価対象

プロジェクトで使用されるリソースで原価を有するタイプのもの

次の原価対象を利用できます。

- [材料]
- [労務]
- [設備]
- [外注]
- [雑費]
- [間接費]

原価対象は、標準にすることも、プロジェクト固有にすることもできます。原価対象は、原価管理を行うために管理コードに関連付けられます。

購買要求

商品およびサービスを取得するための承認を得るためのユーザによる要求

購買要求には、標準および非標準の資材、原価、またはサービス要件が含まれます。購買要求の情報には、ヘッダセクションの名前、部署、保管場所、購買オフィス、承認者が含まれます。要求ライン詳細には、品目、発注先、数量、価格および数量が含まれます。

購買要求は、次のいずれかに変換できます。

- 購買オーダー
- 見積依頼 (RFQ)

統合伝票タイプ

財務会計への統合取引のマッピングと転記および財務会計調整のための作業管理取引のタイプを表します。

LNが提供する統合伝票タイプには、それぞれ対応するビジネスオブジェクトが関連付けられています。例: さまざまな販売オーダー取引のための統合伝票タイプには、[販売オーダー] ビジネスオブジェクトがリンクされています。

マッピング要素

元帳勘定と統合取引のディメンションを定義するために使用できるロジスティック取引のプロパティ。マッピング要素の特定の値を持つ取引を特定の元帳勘定に転記できます。マッピング要素は、ビジネスオブジェクトとビジネスオブジェクト属性の組合せで構成されています。たとえば、[品目グループ] / [品目] マッピング要素は、[品目グループ] ビジネスオブジェクトのビジネスオブジェクトの属性 [品目] を表します。

例

倉庫入庫取引のマッピング要素の一部の例には、品目、品目グループ、倉庫、および原価構成要素があります。

調整グループ

調整を実行できる統合元帳勘定のグループ。調整グループは、[未着買掛金]、[購買オーダー仕掛品] など、調整エリアとサブエリアで構成されています。

仕向地の売上税

北米およびカナダにおける売上税規則。税率は、商品またはサービスの受取または消費が行われる管轄区域の現地当局が決定します。多くの場合、税金は、同じ場所に対して権限を持つ複数の管轄区域に支払う必要があります。

免税

課税を免除されていること。特定の商品が関与している特定の取引先との取引や一部の国と地域における仕出地または仕向地との取引について、課税を免除することができます。課税を免除される取引の販売請求書は、税額をゼロにする必要があります。

企業によっては、特定の税務当局の管轄区域で売上税を免除される場合があります。免税が適用される顧客への販売請求書は、税額をゼロにする必要があります。自社が免税の適用を受ける場合には、発注先からの請求書に税額が含まれないようにする必要があります。

購買請求書との照合

請求書を購買オーダーと購買入庫にリンクさせて、購買請求書が正しいことを確保すること

仮想マシン

次を参照してください: LN シェル (ページ 121)

顧客要求分岐点

製品構造または製造過程の中で、このポイントまでは、資材出庫依頼はオーダーによって決定されます。このポイントを超えると、見込製造になります。

顧客要求分岐点の一般例は次のとおりです。

- 構成要素の購買から最終組立までの製造過程全体が顧客オーダーによって決定される場合
- 標準構成要素が予測に基づいて製造され、完成品がオーダー管理される場合
- 完成品、半組立品、および構成要素の製造が予測によって決定される場合 (ストック品製造)

略字: COPD

COPD

次を参照してください: 顧客要求分岐点 (ページ 139)

先入れ先出し

決算における在庫評価法。最も古い在庫 (先入れ) を先に使用する (先出し) ことを前提にした場合でも、指定品目の実際の移動に関連させる必要はありません。

頭字語: FIFO

丸め係数

入力後に計算される金額または数量が LN で丸められる方法。数量および金額は、丸め係数の倍数に最も近くなるように丸められます。たとえば、丸め係数が 0.030000 の場合、数量 2,11 は 2,10 ($= 70 \times 0.030000$) に丸められます。数量 2,12 は 2,13 ($= 71 \times 0.030000$) に丸められます。

通貨の丸め係数と単位の丸め係数との違いは次のとおりです。

- 単位の丸め係数は、LN にデータを入力するとただちに適用されます。通貨の丸め係数は、LN に入力した金額には適用されず、その金額に対する適切な計算の実行結果に適用されます。
- 場合によって、単位の丸め係数を変更できますが、通貨の丸め係数を変更できません。

SIC

次を参照してください: 統計在庫管理 (ページ 133)

税金コードの例外

標準税金コードの計算結果から生じる値以外の税金コードや課税国および取引先課税国を定義する取引詳細のセット

国セット

ユーザが定義する国のグループ

bshell

次を参照してください: LN シェル (ページ 121)

見積依頼 (RFQ)

(いくつかの) 製品の納入について、入札者に条件 (価格、値引、納入時間、および支払条件など) の提出を要求するために使用する購買伝票

見積依頼は複数の入札者に送付することができます。入札者は、指定品目の見積依頼回答を提出できます。

回答の記録、交渉、およびさまざまな入札者から提示された価格と値引の比較を行うことができます。

受け入れられた回答は、契約、オーダ、価格帳にコピーできます。

製造品目

完成品および半組立品を製造できる品目。製造品目は、通常、組立で使用する構成要素を記述する部品表と、組立方法を記述する工順に関連しています。製造品目は生産品目とも呼ばれ、購入することができます。

棚卸単位

品目の在庫の計測単位。たとえば、個、キログラム、1 ダース、メートルなどがあります。

棚卸単位は、計測を変換する際の基準単位としても使用されます。特に、購買オーダーや販売オーダーのオーダー単位や価格単位に関する変換で使用されます。これらの変換では、常に基準単位として棚卸単位が使用されます。このため、棚卸単位はすべての品目タイプ、また在庫として保存できない品目タイプにも適用できます。

FAB 期間

発注先が、スケジュールで要求される商品を製造する権限を持つ期間。プッシュスケジュールの場合はスケジュール発行日、プル予測スケジュールの場合は現在の日付から計算されます。

FAB 期間は日数で表されます。

例

- CUM 開始数量: 10000
- スケジュール発行日/現在の日付: 05.07.99
- FAB 期間: 20 日

出庫日/現在の日付 数量	
05.07.99	100
12.07.99	100
19.07.99	100
26.07.99	100

FAB タイムフェンス: 99 年 5 月 7 日 (+ 20 日) = 99 年 7 月 25 日。FAB 権限: $10000 + 100 + 100 + 100 = 10300$

ロジスティック合意条件

スケジュールメッセージ、凍結期間、権限、納入パターン、運送業者などのロジスティックデータに関して発注先と顧客の間で合意される必要のある条件

マトリックス優先順位

マトリックスタイプについて、マトリックス定義が検索される順序

計画納期

オーダー/スケジュールラインの品目を納入しなくてはならない計画日。計画納期は、オーダー日/スケジュール生成日より前であってはなりません。

確約状況

販売見積ライン、販売オーダーラインまたは販売構成要素ラインを顧客に対して約束できるかどうか、在庫チェックを実行する必要があるのか、あるいはラインの不十分な在庫状況を解決する必要があるのかを知らせる状況

シミュレーションコード

オーダーに在庫を割り当てる優先順位の計算に役立つシミュレーション

成功率

見積に関連付けられる割合で、取引先が見積を受け入れる可能性を表します。見積が受け入れられると、見積は販売オーダーに変換されます。

会計取引 (FITR)

ロジスティックイベントを財務会計に反映するために作成された取引。取引発生元 (TROR) と会計取引 (FITR) 結果の組合せにより、統合伝票タイプが生成されます。

調整要素

取引を調査して調整を行うために使用できるロジスティック取引のプロパティ。調整要素はビジネスオブジェクトのマッピング要素に対応します。

部品表 (BOM)

製造品目で使用されるすべての部品、原料、および半組立品のリスト。このリストには、品目の製造に必要な各部品の数量が示されています。部品表は、製造品目のシングルレベルの製品構造を示します。

クラスタ化されたラインステーションオーダー

1日のラインステーションの全資材所要量を表します。クラスタ化されたラインステーションオーダーはユーザ定義のバケットで構成されます。バケットごとに、資材所要量が結合されます。

組立管理では、オーダー別ではなく、ラインステーション別や期間別で処理できます。LNでは、特定期間の同じ資材を1つの資材ラインに統合することができます。その後、累計数量がクラスタ化されたラインステーションオーダーに格納されます。この数量の累積によって、特定のバケットに対して処理が行われるため、処理の数を減らすことができます。

頭字語: CLSO

次を参照してください: バケット

CLSO

次を参照してください: クラスタ化されたラインステーションオーダー (ページ 142)

固定振替価格在庫評価方法

固定振替価格設定は在庫評価方法です。固定振替価格は計算された材料費、作業費および付加費用を基準に計算した棚卸資産評価額です。固定振替価格評価額には倉庫別付加費用が含まれます。

原価計算コード

標準原価、評価額、または販売価格の計算方法の指定。このコードには、特定の原価計算データが保存されます。

標準原価計算パラメータ (ticpr0100m000) セッションで定義される価格計算コードは、標準原価を決定します。他の原価計算コードはシミュレーションに使用されます。カスタマイズ品目の価格計算コードは、プロジェクト別に保存されます。

例

- 特定の作業費レート
- 外注費レート
- シミュレート購買価格
- 付加費用

カンバン

工程倉庫への品目の供給を調整するジャストインタイム生産のデマンドプルシステム

カンバンは、標準のコンテナまたはロットサイズ (棚とも呼ばれる) を使用して工程倉庫に品目を渡します。工程倉庫では、同じ品目に複数の棚を使用できます。品目は、1つの棚だけから取得します。通常、棚が空の場合は、新しい棚をオーダして (2 番目の) 満杯の棚から品目を取得します。各棚には、ラベルが添付されます。ラインステーションは、ラベルを使用して必要な品目がある満杯の棚をオーダします。

場合によっては、ラベルの指定されていない棚があります。たとえば、ラベルが 1 つおきの棚に添付されています。両方の棚が空の場合、ユーザは 2 番目の空の棚のラベルをスキャンして、両方の空の棚の供給オーダを生成します。

シリアル価格

少量シリアル番号付品目ごとに価格または標準原価を個別に計算するために使用する、会計目的の在庫評価方法。シリアル価格は、実際入庫価格に基づきます。詳細は、次の情報を参照してください: 少量シナリオ

在庫評価方法

在庫価値の計算方法

在庫は、その品目の固定価格または実際の入庫価格で評価されます。在庫価値は時間とともに変化するため、在庫期間を考慮する必要があります。LN では、次の在庫評価方法を使用できます。

評価方法

計画在庫処理

品目の計画オーダによる在庫レベルの予測済変更

在庫日付

保管時に品目に割り当てられる日付。在庫日付を使用すると、大規模なロット管理を実施しなくても FIFO (先入れ先出し) または LIFO (後入れ先出し) に基づいて品目を取り出すことができます。

在庫日付は、後入れ先出しまたは先入れ先出しの出庫優先順位、または品目の製品有効期限に使用されます。

後入れ先出しまたは先入れ先出しの出庫優先順位では、在庫日付のデフォルトはシステム日付です。しかし、この日付は上書きできるので、在庫日付は保管日付と同じである必要はありません。品目に特定の保存期間がある場合、在庫日付は品目について定義された製品有効期限です。

先入れ先出し (FIFO)

会計を目的とした在庫評価方法。最も古い在庫値 (先入れ) が最初に使用または販売されます (先出し)。この方法では品目の実際の物理的な移動に、特別な関係が存在しないことが想定されています。

先入れ先出しは、特定の品目の物理的な出庫優先順位を決定する出庫方法とすることもできます。オーダー済の梱包レベルが在庫日付よりも優先されながら、最も古い在庫が最初に出庫されます。

例

10 個入りのボックスが 1 つオーダーされており、次の在庫があるとします。

- 5 個、入庫日 01-01
- 10 個入り 1 ボックス、入庫日 05-01
- 10 個入り 1 ボックス、入庫日 10-01
- 7 個、入庫日 15-01

品目の出庫優先順位が先入れ先出しの場合、入庫日 05-01 のボックスが出庫されます。

略字: FIFO

後入れ先出し (LIFO)

会計を目的とした在庫評価方法。在庫日付が最も新しい品目 (後入れ) が最初に使用または販売されます (先出し)。この方法では品目の実際の物理的な移動に、特別な関係が存在しないことが想定されています。

後入れ先出しは、特定の品目の物理的な出庫優先順位を決定する出庫方法とすることもできます。オーダー済の梱包レベルが在庫日付よりも優先されながら、最も新しい在庫が最初に出庫されます。

例

10 個入りのボックスが 1 つオーダーされており、次の在庫があるとします。

- 5 個、入庫日 01-01
- 10 個入り 1 ボックス、入庫日 05-01
- 10 個入り 1 ボックス、入庫日 10-01
- 7 個、入庫日 15-01

品目の出庫優先順位が後入れ先出しの場合、入庫日 10-01 のボックスが出庫されます。

略字: LIFO

移動平均単位原価 (MAUC)

会計を目的とした在庫評価方法。

移動平均単位原価とは、現在の在庫の各単位の平均値です。新しく入庫するごとに移動平均単位原価が更新されます。

ストックポイント

LN で登録できる最小の在庫レベル

ストックポイントは、次のデータで定義されます。

- 倉庫
- 保管場所: 保管場所がある場合のみ
- 品目
- 在庫日付: 後入れ先出しまたは先入れ先出しで作業する場合に重要
- ロット: 品目が少量ロットで管理される場合のみ

ロット価格 (ロット)

ロットごとロット価格または標準原価を個別に計算するために使用する、会計目的の在庫評価方法。ロット価格は、実際入庫価格に基づきます。

オーダー管理/個別供給

工程倉庫への品目の供給を調整するデマンドプルシステム

この供給システムでは、特定の製品の特定の製造オーダーにより、供給倉庫から工程倉庫に必要な品目を引き出します。品目を必要とする製造オーダーと、必要な品目の工程倉庫への供給を調整する倉庫オーダーとの間に、リンクが直接確立されます。

時系列オーダーポイント (TPOP)

倉庫への時系列による品目の供給を調整するプッシュシステム

倉庫に供給される品目の数量は、次によって決まります。

- 倉庫の有効在庫
- 特定のオーダー範囲内に倉庫への納入が予定されている在庫
- 品目と倉庫に指定された在庫バッファ (必要に応じ現行期間の季節要因に合わせて調整される)

有効在庫に計画在庫を加えたものが発注点を下回る場合、倉庫の在庫が補充されます。

略字: 時系列オーダーポイント

次を参照してください: 在庫バッファ

索引

セッション, 121

概要

パフォーマンスとデータベースの増大, 13

開始

自動入庫, 79, 80

ソフトウェア構成要素

導入済, 18

プロジェクト

アーカイブ, 43

削除, 43

構成要素, 121

適切なメニュー, 121

ジョブ, 15

LN シェル, 121

カレンダー, 121

アーカイブ, 14, 77, 83

パフォーマンス

トップダウン品目選択, 56

トレースとチューニング, 115

バックフラッシュ方法, 63

プロジェクトコードのチェック, 19

プロジェクトペギングパラメータ, 19

概要, 13

距離テーブル, 19

原価構成要素設定, 20

設定およびツール, 15

先頭空番号, 17

調整, 122

データ

消去, 14

詳細

レベル, 15

履歴, 14

コンセプト

使用しない, 84

作業

資材, 62

資源, 122

請求バッチ, 122

請求バッチテンプレート, 122

請求オプション, 122

削除

アーカイブ, 77, 83

オーダーライン活動, 74

販売スケジュール, 122

有効在庫, 123

確約可能在庫, 123

確約可能在庫能力チェック, 124

能力利用率, 124

チャンネルマスタ計画, 124

クラスタ, 124

構成確約可能在庫チェック, 124

クリティカル能力所要量, 124

累計有効在庫, 125

確約可能在庫累計能力, 125

需要予測, 125

依存需要, 125

実行レベル, 125

固定リードタイム, 126

固定リードタイム範囲

パフォーマンス, 50

商品フロー, 126

品目マスタ計画, 126

マスタ基準計画, 126

マスタ計画範囲, 127

作業保管範囲, 127

パフォーマンス, 54

オーダー範囲, 127

パフォーマンス, 51

時系列オーダーポイント, 74

統計在庫管理, 74

オーダー基準計画, 127

フェーズ番号, 128

計画期間, 128

計画範囲

パフォーマンス, 51

予想在庫, 128

資源マスタ計画, 128

ローリングシナリオ, 128

シナリオ, 129

供給関係, 129

タイムフェンス, 129

累計オーダーリードタイム, 129

ソフトペギング, 130

改訂
 ロット管理, 75
 追跡, 75
計画品目, 130
購買品目, 130
一般品目, 131
再計画
 輸送オーダー, 81, 82
転送
 付加費用, 75
工順
 マイクロ, 62
クリティカル部品表, 131
統合, 131
ファントム, 61, 131
有効在庫オンライン更新
 パフォーマンス, 58
オーダーリードタイム, 131
ロットサイズ, 132
経済発注量, 132
見積
 凍結時点, 69
BCM, 131
倉庫管理
 使用しないコンセプト, 78
 倉庫管理のシリアルとロット, 18
シリアル, 18, 73
シリアル番号管理
 品目, 73
ロット, 18, 73
入庫
 自動作成, 79, 80
自動入庫
 作成, 79, 80
データベースの増大
 概要, 13
使用しないコンセプト, 84
 倉庫管理, 78
 無効, 13
消去
 データ, 14
レコードの削除, 14
詳細レベル, 15
設定およびツール
 パフォーマンス, 15
追加ステップ, 16
選択範囲, 16
パフォーマンスチェックプログラム, 16
プログラム
 パフォーマンスチェック, 16

LNFP0、FP1、FP2、FP3、FP4、FP5、FP6、
10、10.2、10.3、10.4に対応, 115, 115, 116, 116,
119, 119
(履歴) データの削除およびアーカイブ, 40
COM パラメータ, 19
IBD パラメータ, 19
LN のトレースとチューニング, 115
インフラストラクチャ, 118
オーダーデータのアーカイブと削除, 88
オーダーデータの削除, 39
オーダー範囲, 51
オブジェクトデータ管理, 21
オンラインフェーズ番号更新, 59
コミットメント記録, 42
サーバ別ワークロード, 48
サービスオーダーチェック, 85
サービスで使用しないコンセプト, 89
サイジングプロセス, 117
シグナルとブロック, 85
シナリオ開始日および終了日, 49
ジョブショップ管理におけるアーカイブお
よび削除, 70
ジョブにおけるバックフラッシュ, 63
ジョブモード, 43
ジョブ処理, 105
ダイナミックワークロード計算, 48
タイムフェーズ在庫移動の最小成功率, 32
テーブルブースタ, 22, 47
デフォルト価格帳を更新, 25
トップダウン品目選択, 56
トランザクションログ, 87
バックフラッシュ方法, 63
バッチ処理, 107
ファイナライズ済会計取引, 93
ファントム, 61
フロア在庫, 61
プロジェクトオーダーデータの削除および
アーカイブ, 43
プロジェクトコードのチェック, 19
プロジェクトでの実際原価の出力, 44
プロジェクト管理 (PCS) を伴わない製品構
成 (PCF), 65
プロジェクト管理での削除およびアーカイ
ブ, 71
プロジェクト管理の標準オーダー品目, 64
プロジェクト終了, 44
プロジェクト履歴, 43
マイクロ工順, 62
マスタ計画メンテナンス, 52
マトリックス順序の数, 24
ユーザ別新規バッチ, 103
ログ記録設定, 87

ログ済要素, 92
ロットおよびシリアルの使用, 73
ロット管理の設計改訂, 75
ワークセンタ別会計取引, 66
一般管理データ, 41
一般的な統合と取引フロー, 91
価格および値引の再計算, 27
価格、レート、値引管理, 26
価格差異の転記方法, 67
価格設定品目の結合, 25
確約可能在庫範囲, 52
管理, 101
丸め値, 49
距離テーブル, 19
計画 PRP オーダの生成, 42
計画範囲, 51
計画品目の数, 56
月次請求書の削除, 97
検索パス, 86
見積の凍結時点, 69
見積依頼チェック, 29
原価管理レベル, 41
原価構成別中間結果, 64
原価構成要素設定, 20
現預金管理, 99
現預金管理で使用しない概念, 99
固定オーダ数量, 54
固定リードタイム範囲の開始, 50
固定資産管理, 101
購買要求チェック, 29
高優先順位の発注先価格帳, 28
財務会計と経済在庫処理, 23
作業オーダパラメータ, 86
作業を基準にしたワークロード, 48
作業を伴わない製造オーダ, 62
作業保管範囲, 54
削除およびアーカイブ, 83
仕掛品振替方法, 66
使用しないコンセプトを無効にする, 35
支払差額の償却, 97, 98
資源マスタ計画をオンライン更新, 60, 113
時間間隔の表示, 47
自動入庫, 79
実際の積荷データの更新, 81
実際作業費レート, 68
主要調整フロー, 94
受入、最終受入および調整, 95
従業員管理で使用しないコンセプト, 107
出庫方法, 73
処理タイムフェンス, 23
処理データのアーカイブおよび削除, 107
承認購買元取引先の検索パス, 31

製品コンフィギュレータのバージョン, 65
請求オプション, 103
請求バッチテンプレート, 103
請求書の構成, 104
税データの削除およびアーカイブ, 111
税金プロバイダを使用, 110
積荷計画変更の追跡, 82
設計データ管理の部品表履歴, 69
先頭空番号, 17
全額払済購買請求書のアーカイブおよび削除, 98
全額払済販売請求書のアーカイブおよび削除, 97
組立管理 (ASC) での取引処理, 65
組立管理での削除, 71
倉庫管理で使用しないコンセプト, 78
倉庫管理のシリアルとロット, 18
倉庫管理者ダッシュボードの実行時間で合計を計算, 79
値引レベル数, 24
中央請求で使用しないコンセプト, 104
調整データのアーカイブおよび削除, 95
調整要素のログ, 94
追加原価を再計算, 30, 34
追加費用の計算, 75
転記済支払バッチ、口座引落、清算済手形の削除, 100
電子銀行勘定照合表の照合, 99
統計在庫管理および時系列オーダポイントオーダ範囲, 74
統合, 30
統合取引, 92
統合取引のログ, 91
統合取引を転記, 93
導入済ソフトウェア構成要素, 18
入庫転記の実際標準原価, 67
納入の更新, 80
能率差異の転記方法, 67
派生元品目の使用, 27
発送確定保管場所数, 76
販促管理, 28
販売オーダチェック, 34
販売オーダ優先方法, 35
販売の確約可能在庫チェック, 58
販売契約のための計画在庫処理, 33
販売見積チェック, 32
販売見積のための在庫チェック, 31
販売請求書データのアーカイブおよび削除, 105
品目の標準原価計算データの削除, 70
品目原価計算データの削除, 70
品目転送に品目付加費用を割当, 75

部品表レベル数, 61
複数会社設定の変更, 113
複数作業に使用する資材, 62
文書の出力, 69
並列処理, 46
並列処理の概念, 45
未決済取引 - 売掛金, 96, 98
輸送管理で使用しないコンセプトの無効化, 84
輸送費の再計算, 81
有効在庫オンライン更新, 58
予算原価分析の生成, 41
履歴データ, 76, 82
履歴データのログ, 37
履歴データの削除, 36
履歴ログ, 87
履歴更新方法, 96
労務単価検索パス, 44
先頭空番号
パフォーマンス, 17
CPU への影響
COM パラメータ, 19
IBD パラメータ, 19
オーダーデータの削除, 39
オーダー範囲, 51
オブジェクトデータ管理, 21
オンラインフェーズ番号更新, 59
コミットメント記録, 42
サーバ別ワークロード, 48
サービスオーダーチェック, 85
サービスで使用しないコンセプト, 89
シグナルとブロック, 85
シナリオ開始日および終了日, 49
ジョブにおけるバックフラッシュ, 63
ジョブモード, 43
ジョブ処理, 105
ゼロ金額のログ, 21
ダイナミックワークロード計算, 48
タイムフェーズ在庫移動の最小成功率, 32
テーブルブースタ, 22, 47
トップダウン品目選択, 56
バックフラッシュ方法, 63
バッチ処理, 107
パフォーマンスに対する税金パラメータの評価, 111
パフォーマンスブースタ, 22
ファイナライズ済会計取引, 93
ファントム, 61
フロア在庫, 61
プロジェクトコードのチェック, 19
プロジェクトでの実際原価の出力, 44
プロジェクトペギングパラメータ, 19
プロジェクト管理の標準オーダー品目, 64
プロジェクト終了, 44
ペギング範囲, 55
マイクロ工順, 62
マスタ計画メンテナンス, 52
マトリックス順序の数, 24
ユーザ別新規バッチ, 103
ログ記録設定, 87
ログ済要素, 92
ロットおよびシリアルの使用, 73, 79, 80
ワークセンタ別会計取引, 66
一般管理データ, 41
価格および値引の再計算, 27
価格、レート、値引管理, 26
価格差異の転記方法, 67
価格設定品目の結合, 25
課税設定の例外のモデル化, 109
拡張在庫チェック, 32
確約可能在庫範囲, 52
管理, 101
丸め値, 49
距離テーブル, 19
計画 PRP オーダーの生成, 42
計画範囲, 51
計画品目の数, 56
計画用の並列処理, 46
月次請求書の削除, 97
検索パス, 86
見積の凍結時点, 69
見積依頼チェック, 29
原価管理レベル, 41
原価構成別中間結果, 64
原価構成要素設定, 20
現預金管理で使用しない概念, 99
固定オーダー数量, 54
固定リードタイム範囲の開始, 50
固定資産管理, 101
構成確約可能在庫チェック精度, 57
購買要求チェック, 29
高優先順位の発注先価格帳, 28
財務会計と経済在庫処理, 23
作業オーダーパラメータ, 86
作業を基準にしたワークロード, 48
作業を伴わない製造オーダー, 62
削除およびアーカイブ, 77, 83
仕掛品振替方法, 66
使用しないコンセプトを無効にする, 35
支払差額の償却, 97, 98
資源マスタ計画をオンライン更新, 60
資源マスタ計画をメンテナンス, 53
時間間隔の表示, 47
実際の積荷データの更新, 81

実際作業費レート, 68
受入、最終受入および調整, 95
従業員管理で使用しないコンセプト, 107
出庫方法, 73
処理タイムフェンス, 23
処理データのアーカイブおよび削除, 107
承認購買元取引先の検索パス, 31
製品コンフィギュレータのバージョン, 65
請求バッチテンプレート, 103
税金プロバイダを使用, 110
税金処理で使用しないコンセプト, 110
積荷計画変更の追跡, 82
先頭空番号, 17
全額払済購買請求書のアーカイブおよび削除, 98
全額払済販売請求書のアーカイブおよび削除, 97
組立管理 (ASC) での取引処理, 65
倉庫オーダを含まないバックフラッシュ, 63
倉庫管理で使用しないコンセプト, 78
倉庫管理のシリアルとロット, 18
倉庫管理者ダッシュボードの実行時間で合計を計算, 79
値引レベル数, 24
中央請求で使用しないコンセプト, 104
調整データのアーカイブおよび削除, 95
調整要素のログ, 94
直送販売オーダ税の更新, 109
追加原価を再計算, 30, 34
追加費用の計算, 75
転記済支払バッチ、口座引落、清算済手形の削除, 100
電子銀行勘定照合表の照合, 99
統計在庫管理および時系列オーダポイントオーダ範囲, 74
統合取引, 92
統合取引のログ, 91
入庫転記の実際標準原価, 67
能率差異の転記方法, 67
派生元品目の使用, 27
発送確定保管場所数, 76
販促管理, 28
販売オーダチェック, 34
販売オーダ優先方法, 35
販売スケジュールに対する計画倉庫オーダ, 33
販売の確約可能在庫チェック, 58
販売契約のための計画在庫処理, 33
販売見積チェック, 32
販売見積のための在庫チェック, 31

販売請求書データのアーカイブおよび削除, 105
品目転送に品目付加費用を割当, 75
部品表レベル数, 61
複数作業に使用する資材, 62
文書の出力, 69
並列処理の概念, 45
輸送管理で使用しないコンセプトの無効化, 84
輸送費の再計算, 81
有効在庫オンライン更新, 58
履歴データ, 76, 82
履歴データのログ, 37
履歴データの削除, 36
履歴更新方法, 96
労務単価検索パス, 44
データベース拡張への影響
(履歴) データの削除およびアーカイブ, 40
オーダデータのアーカイブと削除, 88
オーダデータの削除, 39
クローズ済オーダのオーダライン活動の削除, 74
コミットメント記録, 42
ジョブショップ管理におけるアーカイブおよび削除, 70
ジョブにおけるバックフラッシュ, 63
デフォルト価格帳を更新, 25
トランザクションログ, 87
バックフラッシュ方法, 63
ファイナライズ済会計取引, 93
ファントム, 61
フロア在庫, 61
プロジェクトオーダデータの削除およびアーカイブ, 43
プロジェクト管理での削除およびアーカイブ, 71
プロジェクト管理の標準オーダ品目, 64
プロジェクト履歴, 43
マイクロ工順, 62
ログ記録設定, 87
ログ済要素, 92
ロットおよびシリアルの使用, 73
ロット管理の設計改訂, 75
ワークセンタ別会計取引, 66
価格差異の転記方法, 67
拡張在庫チェック, 32
管理, 101
月次請求書の削除, 97
見積の凍結時点, 69
原価管理レベル, 41
原価構成別中間結果, 64
原価構成要素設定, 20

現預金管理で使用しない概念, 99
固定オーダー数量, 54
固定リードタイム範囲の開始, 50
固定資産管理, 101
財務会計と経済在庫処理, 23
作業を伴わない製造オーダー, 62
作業保管範囲, 54
削除およびアーカイブ, 77, 83
仕掛品振替方法, 66
支払差額の償却, 97, 98
実際作業費レート, 68
受入、最終受入および調整, 95
出庫方法, 73
処理タイムフェンス, 23
処理データのアーカイブおよび削除, 107
請求書の構成, 104
税データの削除およびアーカイブ, 111
設計データ管理の部品表履歴, 69
全額払済購買請求書のアーカイブおよび削除, 98
全額払済販売請求書のアーカイブおよび削除, 97
組立管理 (ASC) での取引処理, 65
組立管理での削除, 71
倉庫オーダーを含まないバックフラッシュ, 63
倉庫管理のシリアルとロット, 18
中央請求で使用しないコンセプト, 104
調整データのアーカイブおよび削除, 95
調整要素のログ, 94
追加費用の計算, 75
転記済支払バッチ、口座引落、清算済手形の削除, 100
統計在庫管理および時系列オーダーポイントオーダー範囲, 74
統合, 30
統合取引, 92
統合取引のログ, 91
統合取引を転記, 93
入庫転記の実際標準原価, 67
能率差異の転記方法, 67
販売スケジュールに対する計画倉庫オーダー, 33
販売請求書データのアーカイブおよび削除, 105
品目の標準原価計算データの削除, 70
品目原価計算データの削除, 70
品目転送に品目付加費用を割当, 75
部品表レベル数, 61
複数作業に使用する資材, 62
予算原価分析の生成, 41
履歴データ, 76, 82

履歴データのログ, 37
履歴データの削除, 36
履歴ログ, 87
履歴更新方法, 96
距離テーブル
 パフォーマンス, 19
プロジェクトコードのチェック
 パフォーマンス, 19
原価構成要素設定
 パフォーマンス, 20
10.2 に対応
 ゼロ金額のログ, 21
 プロジェクトペギングパラメータ, 19
テーブルブースタ, 22, 47
ブースタ
 テーブル, 22
LN FP5、FP6、10、10.2 に対応
 拡張在庫チェック, 32
LN FP6、10、10.2 に対応
 販売スケジュールに対する計画倉庫オーダー, 33
原価管理
 レベル, 41
予算原価分析, 41
管理データ
 生成, 41
計画 PRP オーダー
 生成, 42
プロジェクトペギングパラメータ
 パフォーマンス, 19
並列処理
 コンセプト, 45
 設定, 46
ダイナミックワークロード計算, 48
丸め値
 パフォーマンス, 49
シナリオ開始日および終了日, 49
固定リードタイム範囲の開始
 パフォーマンス, 50
確約可能在庫範囲
 パフォーマンス, 52
マスタ計画メンテナンス
 パフォーマンス, 52
LN FP1、FP2、FP3、FP4 に対応
 構成確約可能在庫チェック精度, 57
 資源マスタ計画をメンテナンス, 53
資源マスタ計画をメンテナンス
 パフォーマンス, 53
固定オーダー数量, 132
 パフォーマンス, 54
LN FP3、FP4 に対応

パフォーマンスに対する税金パラメータの評価, 111	会計結果, 66
ペギング範囲, 55	仕掛品振替方法, 66
直送販売オーダー税の更新, 109	転記方法
ペギング範囲	価格差異, 67
パフォーマンス, 55	能率差異, 67
トップダウン品目選択	価格差異
パフォーマンス, 56	転記方法, 67
計画品目の数	能率差異
パフォーマンス, 56	転記方法, 67
構成確約可能在庫チェック精度	入庫転記の実際標準原価, 67
パフォーマンス, 57	入庫転記
販売の確約可能在庫チェック	実際標準原価, 67
パフォーマンス, 58	作業費レート
オンラインフェーズ番号更新	実際, 68
パフォーマンス, 59	文書
資源マスタ計画をオンライン更新	出力, 69
パフォーマンス, 60, 113	製造プロセス
部品表	出力済文書, 69
レベル数, 61	設計データ管理
フロア在庫, 61, 132	部品表履歴, 69
資材	品目原価計算データ
複数作業, 62	削除, 70
マイクロ工順, 62, 132	品目の標準原価計算データ
作業を伴わない製造オーダー, 62	削除, 70
バックフラッシュ方法	ジョブショップ管理
パフォーマンス, 63	アーカイブ, 70
LN FP2、FP3、FP4 に対応	削除, 70
クローズ済オーダーのオーダーライン活動の削除, 74	組立管理
課税設定の例外のモデル化, 109	削除, 71
削除およびアーカイブ, 77	プロジェクト管理
税金処理で使用しないコンセプト, 110	アーカイブ, 71
倉庫オーダーを含まないバックフラッシュ, 63	削除, 71
倉庫オーダーを含まないバックフラッシュ, 63, 63	ロット管理
PCS	品目, 73
標準オーダー品目, 64	FIFO, 73, 139, 144
標準オーダー品目	LIFO, 73, 144
PCS, 64	保管場所別, 73, 133
原価構成要素, 132	オーダーライン活動
中間結果, 64	削除, 74
プロジェクト管理 (PCS) を伴わない製品構成 (PCF), 65	倉庫手順
製品コンフィギュレータのバージョン, 65	活動の削除, 74
組立管理 (ASC)	統計在庫管理, 133
取引処理, 65	オーダー範囲, 74
取引処理	時系列オーダーポイント, 145
組立管理 (ASC), 65	オーダー範囲, 74
ワークセンタ別会計結果, 66	品目付加費用, 133
ワークセンタ, 133	転送, 75
	付加費用, 133
	計算, 75
	品目転送, 75
	品目転送
	付加費用, 75

設計改訂	製造品目, 140
ロット管理, 75	棚卸単位, 141
保管場所	FAB 期間, 141
ドック, 76	ロジスティック合意条件, 141
発送確定, 76	マトリックス優先順位, 141
発送確定保管場所, 76	計画納期, 141
ドック位置, 76	確約状況, 142
最終処理の維持	シミュレーションコード, 142
オプション, 77	成功率, 142
倉庫管理者ダッシュボード	会計取引 (FITR), 142
合計の計算, 79	調整要素, 142
ランタイム, 79	部品表 (BOM), 142
輸送費	クラスタ化されたラインステーションオーダ,
再計算, 81	142
積荷	CLSO, 142
再計画, 81, 82	固定振替価格在庫評価方法, 142
実際の積荷	原価計算コード, 143
再計画, 81, 82	カンバン, 143
統合取引, 133	シリアル価格, 143
複数会社設定の変更	在庫評価方法, 143
パフォーマンス, 113	計画在庫処理, 143
トレースとチューニング	在庫日付, 144
パフォーマンス, 115	先入れ先出し (FIFO), 144
販売オーダ, 134	後入れ先出し (LIFO), 144
追加コスト, 134	移動平均単位原価 (MAUC), 145
計画済倉庫オーダ, 134	ストックポイント, 145
価格設定情報, 135	ロット価格 (ロット), 145
価格マトリックス, 136	オーダ管理/個別供給, 145
販促, 136	時系列オーダポイント (TPOP), 145
販売見積, 136	
販売契約, 137	
直送, 137	
製品バリエーション, 137	
オーダシステム, 137	
原価対象, 138	
購買要求, 138	
統合伝票タイプ, 138	
マッピング要素, 138	
調整グループ, 138	
仕向地の売上税, 139	
免税, 139	
購買請求書との照合, 139	
仮想マシン, 121	
顧客要求分岐点, 139	
COPD, 139	
先入れ先出し, 139	
丸め係数, 140	
SIC, 133	
税金コードの例外, 140	
国セット, 140	
bshell, 121	
見積依頼 (RFQ), 140	
